

富山県小矢部市

桜町遺跡発掘調査報告書

— 店舗建設に伴う埋蔵文化財調査 —

2015年7月

小矢部市教育委員会

富山県小矢部市

桜町遺跡発掘調査報告書

— 店舗建設に伴う埋蔵文化財調査 —

2015年7月

小矢部市教育委員会



調査区全景（南上空から。後方に子撫川と稻葉山を望む。）



南区西側全景
(北東上空から。道路遺構の側溝 SD25・29 の先に流路 SD01~06、右手には柵に囲繞された建物 SB01 がある。)



出土遺物・赤彩土器・黒色土器・漆書土器
(SD01~03・11・16・26・29、包含層B5・C3・B7・C9・D5・D9・D10・E5・E9・F7・G5~G7、調査区)

例　　言

1. 本書は、アルビス株式会社による店舗(食品スーパー・マーケット)「アルビス小矢部店」建設に伴う桜町遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査地区は、富山県小矢部市桜町字産田地内に所在する。
3. 発掘及び整理調査の期間・発掘調査の面積は次のとおりである。

【発掘調査期間】 平成 26 年 10 月 20 日～平成 27 年 1 月 14 日
【整理調査期間】 平成 27 年 1 月 15 日～平成 27 年 7 月 31 日
【発掘調査面積】 4841.98m²
4. 発掘及び整理調査は、アルビス株式会社・小矢部市教育委員会・有限会社毛野考古学研究所富山支所による三者協定を締結し、小矢部市教育委員会の指導・監理のもと、委託を受けた有限会社毛野考古学研究所富山支所が調査実務を担当した。
5. 発掘及び整理調査に関わる経費はすべてアルビス株式会社の負担による。
6. 発掘及び整理調査は、常深尚・山本千春・設楽和也・和久拓照(有限会社毛野考古学研究所)が担当した。
7. 本書の執筆は、第Ⅱ章を大野淳也(小矢部市教育委員会生涯学習文化課)、その他を常深が行い、編集は常深が担当した。
8. 遺構写真は常深・山本が撮影し、遺物写真は常深が、空中写真は J T 空撮が撮影した。
9. 調査資料は、一括して小矢部市教育委員会で保管している。
10. 発掘調査及び整理作業において、下記の方々・機関のご指導・ご協力を賜わった(敬称略)。

宮本哲郎 子撫地区自治振興会 桜町町内会 西中野自治会 J T 空撮 高岡市シルバー人材センター
富山県立図書館 前原組有

凡　　例

1. 掘図中に使用した方位は、国家座標(VII系)の北を表す。座標軸は世界測地系である。
2. 遺跡・遺構の表記は以下の記号を用いた。

SM-SAN : 桜町遺跡産田地区
S A : 横 S B : 据立柱建物 S D : 溝 S K : 土坑 S P : ピット S X : 不明遺構
3. 遺構及び遺物実測図の縮尺は次のとおりである。

【遺構】 全体図…1/300 据立柱建物・横…1/80 溝…1/40・1/60・1/200 土坑…1/60
【遺物】 土器・製塙土器…1/3 土製品・石製品・鉄滓…1/2 木製品…1/5
4. 遺物番号は、遺物実測図・出土遺物一覧表・写真図版とともに共通である。
5. 土層及び遺物の色調は「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄著 創日本色彩研究所)を使用した。
6. 遺物図中の塗り表現は以下の通りである。

 赤彩  黒色処理  油煙

目 次

卷首図版・例言・凡例・目次・抄録

第Ⅰ章 位置と環境	1
地理的環境	1
歴史的環境	2
第Ⅱ章 調査に至る経緯	5
第Ⅲ章 調査の概要	6
調査の方法	6
調査の経過	6
基本土層	7
第Ⅳ章 遺構と遺物	8
概要	8
遺構	8
掘立柱建物	8
柵	8
溝	9
土坑	14
ピット	15
包含層出土遺物	15
第Ⅴ章 まとめ	17
付載 桜町跡の神祇信仰と長岡神社	55
写真図版・奥付	

挿図目次

第1図 桜町跡遺位置図	1	第17図 遺物実測図 須恵器・土師器(SD29-31-32)	44
第2図 桜町跡周辺の遺跡分布	3	第18図 遺物実測図 須恵器・土師器・土製品 (SD33,SX01,SK01~03-09-11-14-16-19)	45
第3図 桜町跡調査箇所位置図	5	第19図 遺物実測図 須恵器・土師器・製塙土器・土製品(SK23-25、 SP25-38-95-139-143-150-173-211-221,包含層)	46
第4図 基本土層図	7	第20図 遺物実測図 須恵器(包含層)	47
第5図 調査区グリッド図	7	第21図 遺物実測図 須恵器(包含層)	48
第6図 調査区全体図	33	第22図 遺物実測図 須恵器(包含層)	49
第7図 遺構図 掘立柱建物SB01,柵SA01-02	34	第23図 遺物実測図 須恵器(包含層)	50
第8図 遺構図 溝SD01~06-08-10	35	第24図 遺物実測図 須恵器(包含層)	51
第9図 遺構図 溝SD11~20-22-23-24	36	第25図 遺物実測図 弦生土器・須恵器・土師器(包含層)	52
第10図 遺構図 溝SD25-29	37	第26図 遺物実測図 土師器(包含層)	53
第11図 遺構図 土坑SK01-02-09-19	38	第27図 遺物実測図 土師器・製塙土器・土製品・ 石製品・鉄津(包含層)	54
第12図 遺物実測図 土師器・木製品(SB01,SA01)	39		
第13図 遺物実測図 須恵器・土師器・製塙土器・土製品	40		
第14図 遺物実測図 須恵器・土師器・製塙土器・土製品 (SD03-07-08-10-11-15)	41		
第15図 遺物実測図 須恵器・土師器(SD16-17-18-22-25-26)	42		
第16図 遺物実測図 須恵器・土師器・土製品(SD26~29)	43		

表目次

第1表	周辺の遺跡一覧表	4	第12表	出土遺物一覧表⑤	29
第2表	遺構一覧表①	19	第13表	出土遺物一覧表⑥	30
第3表	遺構一覧表②	20	第14表	出土遺物一覧表⑦	31
第4表	遺構一覧表③	21	第15表	出土遺物一覧表⑧	32
第5表	遺構一覧表④	22	第16表	出土遺物一覧表⑨	23
第6表	遺構一覧表⑤	23			
第7表	包含層出土遺物一覧表	24			
第8表	出土遺物一覧表①	25			
第9表	出土遺物一覧表②	26			
第10表	出土遺物一覧表③	27			
第11表	出土遺物一覧表④	28			

写真図版目次

巻首図版 1 調査区全景（南上空から）、南区西側全景（北東上空から）

巻首図版 2 出土遺物 赤彩土器・黒色土器・漆書土器

P L. 1

調査区全景（東上空から）

調査区全景（南西上空から）

P L. 2

調査区全景（垂直、左が北）

南区西半全景（垂直、上が北東）

P L. 3

掘立柱建物 SB01、櫛 SA01・02 検出状況（北から）

掘立柱建物 SB01、櫛 SA01・02 全景（北西から）

P L. 4

掘立柱建物 SB01 全景（南東から）

櫛 SA01 全景（南西から）

櫛 SA02 全景（南東から）

櫛 SA01(SP03)柱根出土状況（西から）

溝 SD01-06 全景（南東から）

P L. 5

溝 SD03 杖列検出状況（東から）

溝 SD08・10 全景（北から）

溝 SD11 全景（北東から）

溝 SD16 全景（北西から）

北区全景（北西から）

P L. 6

溝 SD25・29 検出状況（北から）

溝 SD28・30 全景（北から）

溝 SD25 土層断面（北から）

溝 SD29 遺物出土状況（北から）

溝 SD25・29 全景（南西から）

P L. 7

土坑 SK01 全景（北西から）

土坑 SK02 全景（北から）

土坑 SK09 全景（東から）

土坑 SK19 全景（東から）

土坑 SK19 土層断面（東から）

土坑 SK19 遺物出土状況（東から）

中央区東側遺構検出状況（東から）

中央区全景（南西から）

P L. 8

出土遺物 土師器・須恵器

P L. 9

出土遺物 土師器・須恵器

P L. 10

出土遺物 土師器・須恵器

P L. 11

出土遺物 土師器・須恵器

P L. 12

出土遺物 土師器・須恵器

P L. 13

出土遺物 須恵器

P L. 14

出土遺物 須恵器

P L. 15

出土遺物 須恵器

P L. 16

出土遺物 須恵器

P L. 17

出土遺物 須恵器

P L. 18

出土遺物 土師器・土製品・石製品・鐵滓

P L. 19

出土遺物 土鍤・製塙土器

P L. 20

出土遺物 木製品

報 告 書 抄 錄

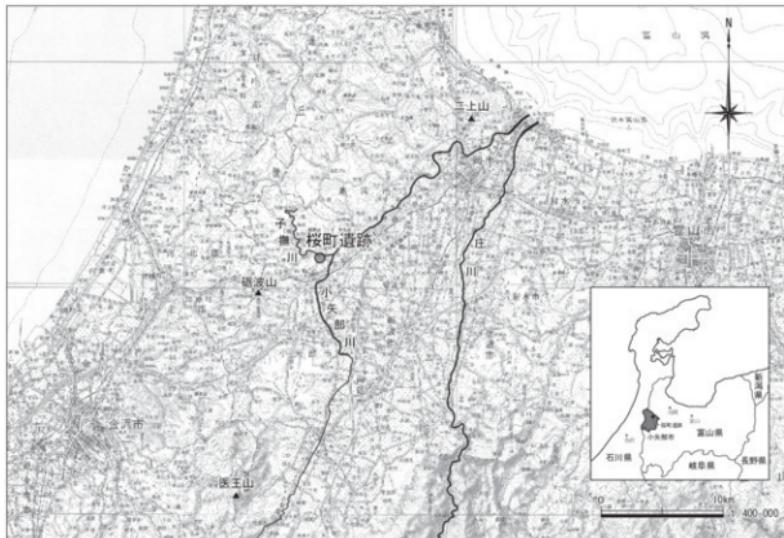
ふりがな	さくらまちいせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	桜町遺跡発掘調査報告書							
副書名	店舗建設に伴う埋蔵文化財調査							
巻次								
シリーズ名	小矢部市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第77冊							
編著者名	大野淳也・常深尚							
編集機関	有限会社毛野考古学研究所富山支所							
編集機関所在地	〒939-0351 富山県射水市戸破1679-3太閤山壱番館A							
発行機関	小矢部市教育委員会							
発行機関所在地	〒932-8611 富山県小矢部市本町1番1号							
発行年月日	西暦2015年7月31日							
ふりがな 所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	°	°			
桜町	小矢部市 さやべしろし 桜町字産田	16209	209021	36° 41' 18"	136° 52' 19"	20141020 ~ 20150114	4,841.98m ²	店舗建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
桜町	集落跡	古墳時代 飛鳥時代 奈良・平安時代	掘立柱建物1棟 槽 2条 土坑 27基 溝 39条 (道 1条) ピット 229基	土師器・須恵器 土師器・須恵器 土師器・須恵器・製塙土器・土鍤 土馬・砥石・鉄滓・種実	珠網	奈良時代の櫛・道路遺構・流路に囲繞された掘立柱建物を検出。同建物は、過去に出土した神祇職を示す墨書き器等から、延喜式神名帳に記載された官社「長岡神社」との関係も想定される。		

第Ⅰ章 位置と環境

地理的環境

桜町遺跡の所在する小矢部市は、富山県の西端中央に位置し、石川県との県境に接する。市域の三方を山地に囲まれ、北には標高347mの稲葉山から氷見地方へ連なる丘陵が、西には砺波山・俱利伽羅峰を有する砺波山丘陵が、南には医王山北側を占める蟹谷丘陵がある。東側の平野部には、庄川の堆積作用によって形成された砺波平野が広がり、散居村の景観が知られる。庄川は古代には小矢部川中流域と合流し射水川と呼ばれていたが、次第に合流点を下流に移し、明治期の改修によって独立した水系となった。小矢部川は渋江川・子撫川と合流しながら市域を北上し、市内中央部では河岸段丘を形成する。子撫川は石川県境に源を発し、宮島狭を経て、小矢部川に合流する。

桜町遺跡は、子撫川が合流する小矢部川左岸の段丘上にある。遺跡西側の丘陵には一帯の水源地である谷があり、奥でさらに支谷が分岐する。谷は土砂の堆積が早く、地形変動の多い不安定な地勢となっており、谷から流れる川は地滑りなどによって幾度となく流れを変え、あるいは塞き止められ、押し流されたりしている。谷の4～5m下の地中から縄文時代の遺物が出土することは、桜町遺跡の人々がいかに古くからこの谷を利用してきたか示している。遺跡地内はこの谷から東ないし南東に緩やかに傾斜し、標高は20～30m前後である。遺跡の北と南東の一部には自然堤防があり、その後背湿地が水田化されたと考えられる。また現在の石動中心市街地から遺跡の南までは、葦などが繁茂する低湿地が広がっており、事前の試掘調査でも同様の結果が得られた。桜町遺跡産田地区は子撫川右岸の自然堤防上に位置するが、今回の調査地点はそのなかでも南の低湿地に近接した部分にあたり、北西から南東へ緩やかに傾斜している。



第1図 桜町遺跡位置図（国土地理院発行『七尾』・『金沢』・『富山』・『高山』1/200,000を50%縮小）

歴史的環境

旧石器時代は標高300mを超える丘陵上の稲葉山牧場B遺跡(15)、高位段丘面の埴生上野遺跡(55)・松永遺跡(71)、低位段丘面の日の宮・道林寺遺跡(72)で後期旧石器時代の石器が発見されるが、いずれも単独ないし数点に留まる。

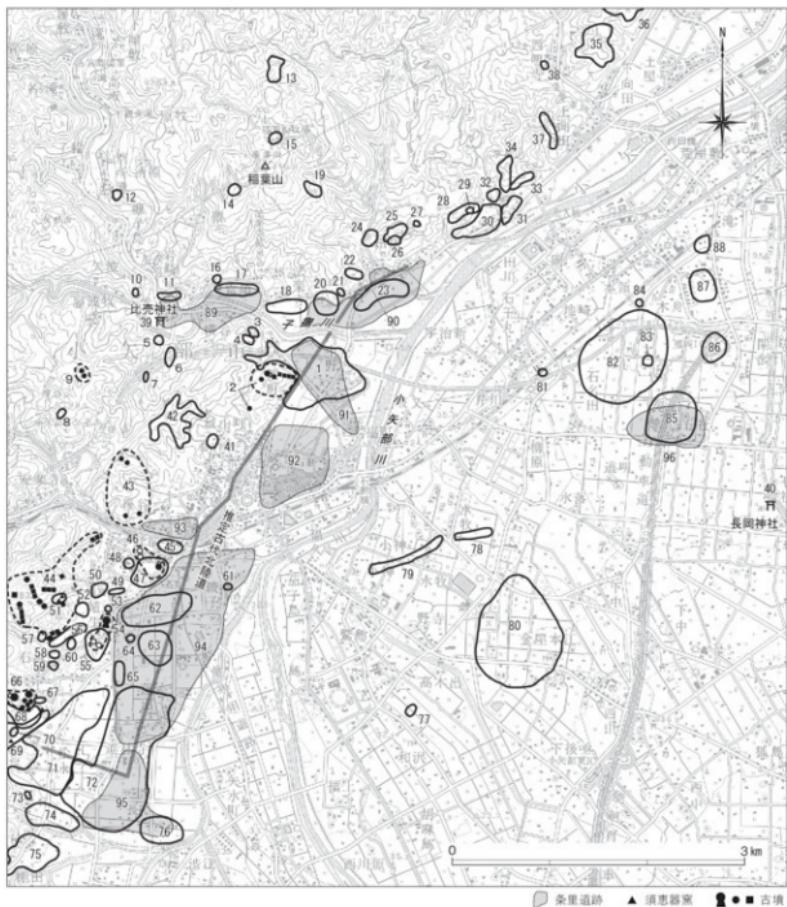
縄文時代の遺跡は子撫川流域と砺波山山麓地域にみられる。子撫川流域では宮中遺跡(5)で前期の遺物、屋波牧遺跡(6)で後期初頭の石組炉をもつ堅穴住居が検出されている。本遺跡(1)の丘陵谷部では早期から晩期の遺物が出土している。中期末から後期初頭の木組みの水場施設では、建築部材の転用が確認されたほか、晩期では環状木柱列が検出されている。砺波山山麓では、埴生上野遺跡(55)で前期から晩期、柿ノ木平遺跡(57)では後期から晩期の遺構・遺物を検出している。

弥生時代は、本遺跡で前期・中期末・後期後半、埴生南遺跡(63)で中期末・後期後半の土器が出土するが、いずれも定着せず、終末期になって遺跡数が増加する。谷内II遺跡(56)では堅穴住居から管玉の原料となる緑色凝灰岩が出土し、玉作りが行われたと考えられている。後谷遺跡(93)では、羽状痕のある壺や籠目土器が出土した。

古墳時代には埴生地区に砺波地域の首長墓を含む多くの古墳が築かれる。谷内古墳群(44)、閔野古墳群(66)、若宮古墳(54)などである。谷内16号墳はこのなかで最も古い前方後円墳で、全長47.6m、3世紀後半の築造である。4世紀初めの閔野1号墳(全長65mの前方後円墳)が後続する。5世紀前半の谷内21号墳は直径約30mの円墳で、短甲などの武具、鉄刀・鉄劍・鐵鏃の武器など武的な副葬品が出土した。5世紀半ばの閔野2号墳(直径約30mの円墳)は、鉄刀・鉄劍・滑石製小玉などを出土した。6世紀初めの若宮古墳は全長約50mの前方後円墳で、氷見市朝日長山古墳とともに県内で埴輪を樹立した数少ない古墳である。このような継続的な古墳造営は、律令期の砺波郡で優秀な郡領氏族「利波臣」に繋がるものとして理解されている。本遺跡にわたる天狗山古墳群(2)は分布調査で8基の古墳が発見され、丘陵先端の頂部にある6号墳は前方後円墳の可能性も指摘される。7世紀になると本遺跡以北の小矢部川左岸の丘陵地に横穴墓が数多く造られる。桜町横穴墓群(3)は11基が3段に確認され、直刀・鉄鏃・金環・骨角器などが出土したもので、本遺跡との関わりが指摘されている。古墳時代の集落は、前期の布留式土器を出土した竹倉島遺跡(76)、中期の日の宮・道林寺遺跡(72)、中期～後期の北反歎遺跡(62)など、古墳群と同じ埴生地区で多く調査されている。小矢部川右岸の五社遺跡(85)では初期カマドをもつ中期の堅穴建物が検出された。本遺跡でも前期～後期の遺物を多く出土しているが、居住域は明らかにされていない。

古代では、本遺跡で7世紀～11世紀にかけての集落が調査されている。多数の掘立柱建物のほか、灌溉用水路とみられる溝からは、「長岡神祝」「称宜」「大祝」などの墨書き土器が出土し、注目されている。また古代の官道である北陸道とみなされる道路遺構が検出され、平安時代のものと判断されている。北陸道の駅家「坂本駅」を近隣の坂又に求める考え方もある。平安時代の古代北陸道は加越国境の俱利伽羅峠を東進し、日の宮・道林寺遺跡付近から北上して丘陵沿いに国府に向かうと考えられている。日の宮・道林寺遺跡(72)では「郡」墨書き土器が出土していることから、周辺に坂本駅や砺波郡衙を想定し、利波臣の本拠地と考える向きもある。近隣の砺波山丘陵には7世紀後半から8世紀前半の松永窯跡群(69)、8世紀初頭の谷内窯跡群(51)や松尾窯跡群(73)も存在する。古代北陸道沿いの埴生南遺跡(63)では、8世紀初めの掘立柱建物とともに人面墨書き土器や土馬の出土があり、律令祭祀が越中にもいち早く導入されたことが知られる。本遺跡に近い石名田木舟遺跡(82)は7世紀後半～9世紀後半の集落遺跡である。7世紀後半～8世紀初めのものとされる瓦塔や阿弥陀三尊像などの仏教系遺物が出土しており、本遺跡出土の神祇賦を示す墨書き土器と対照的である。また同遺跡の7世紀代の建物は堅穴建物で、掘立柱建物は8世紀に出現する点も本遺跡と異なっている。小矢部川右岸の五社遺跡(85)では古代後期の集落が検出され、10世紀末～11世紀後半の段階では一町四方に区画された条里地割に沿った村づくりが指摘されている。

小矢部市域では条里地割りが多く残っており、桜町(91)、宮中(89)、田川(90)、後谷(93)、石動(92)、埴生(94)、五社(96)などの条里遺跡が認められる。これら条里遺跡は埴生庄、松永庄、糸岡庄など中世の莊園開発に関わるものとされる。本遺跡は東福寺領「宮島保」の比定地とされ、平成5年度調査では条里坪界線に一致する溝が検出されている。中世の集落遺跡は、北反畠遺跡(62)、日の宮・道林寺遺跡(72)、五社遺跡(85)などがある。木舟城(83)は寿永三(1184)年の築城で、戦国末期に上杉氏、佐々氏、前田氏の居城となつたが、天正十三(1585)年の大地震で崩壊した。木舟城の城下町である間諒大滝遺跡(86)では、16世紀後半の町屋群が調査されている。木舟城の崩壊後、前田氏は今石動城(42)に居城を移し、山麓の今石動は北陸街道を擁する宿場町として栄えた。



第2図 桜町遺跡周辺の遺跡分布（国土地理院発行『石動』・『城端』1/50,000）

第1表 周辺の遺跡一覧表

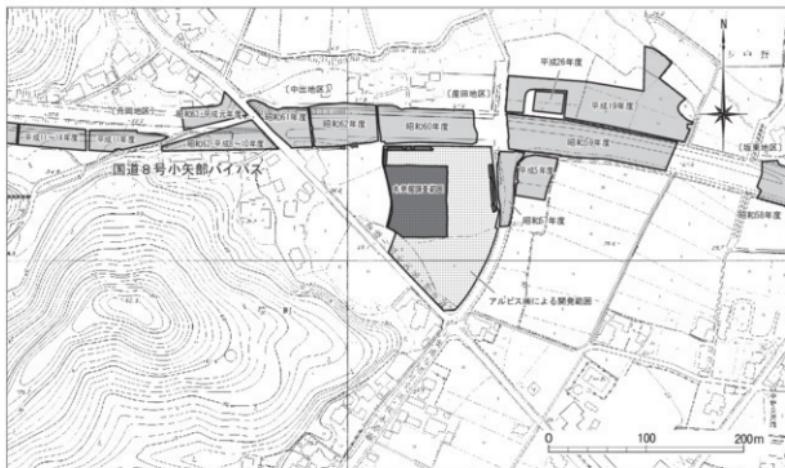
No.	遺跡名	種類	主な時代	主な文献	No.	遺跡名	種類	主な時代	主な文献
1	橋町遺跡	集落	旧石器～文 化古～古墳 ～古代～中世	市街地 内に位置する 古墳時代後期 から平安時代 までの集落遺 跡である。 『1983(1)・2005(2)・2006(3)・2009(4)橋町遺跡発掘 調査報告書』など	23	堆生牛平遺跡	遺跡	近世	小矢部市2017「牛平郷土史」
2	天狗山古墳群	古墳群	古墳	市街地 内に位置する 古墳時代後期 から平安時代	24	若宮古墳	古墳(前方後 円墳)	後世～古墳(後 期)～中世	小矢部市2017「小矢部郷土史」 市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」 市1988「若宮古墳」
3	梅町櫛木墓群	櫛木墓	古墳(後期)	小矢部市1971「小矢部市史」	25	堆生上野遺跡	散布地	旧石器～國文 (前縄～成層)、 古墳(中期)～中世	小矢部市1971「上野郷土史」 豊山町1921「豊山郷土史」 市1984「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
4	梅町西古墳	古墳	古墳	市街地 内に位置する 古墳時代後期	26	谷内Ⅱ遺跡	集落	漢文(中期)～平 成(後期)	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
5	宮中遺跡	散布地	穢文(中期)	小矢部市1971「小矢部市史」	27	轟ノ木平遺跡	散布地	漢文(中期)～晚 期(後期)～近世	小矢部市1971「牛平郷土史」 市1982「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」 市1984「轟ノ木平郷土史」
6	尾瀬牧羊路	散布地	穢文(中期～後 期)	市街地 内に位置する 古墳時代後期	28	石畠遺跡	散布地	漢文(中期)	小矢部市1971「牛平郷土史」 市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
7	尾瀬牧羊路	散布地	穢文(後期～現 在)	市街地 内に位置する 古墳時代後期	29	石畠アラキ遺跡	駐車場	漢文(中期)	小矢部市1971「牛平郷土史」 市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
8	御坊山遺跡	散布地	奈良(後期)	市街地 内に位置する 古墳時代後期	30	堆生五條寺遺跡	散布地	漢文(中期)	小矢部市1971「牛平郷土史」
9	尾瀬牧羊群	古墳	古墳	市街地 内に位置する 古墳時代後期	31	蛭子遺跡	散布地	弥生(終末期) ～古墳(中期)～古 代	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」 市1982「蛭子遺跡」
10	高徳寺跡	寺跡	寺跡	市街地 内に位置する 古墳時代後期	32	北坂遺跡	墓地	古墳(一室一 間)～平安(後 期)	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」 市1982「北坂古墳」
11	宮中北古墳	古墳	古墳	市街地 内に位置する 古墳時代後期	33	堆生東遺跡	墓地	古墳(中期)～平 成(後期)	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」 市1982「堆生東古墳」
12	別所遺跡	古墳	古墳	市街地 内に位置する 古墳時代後期	34	西疋沼遺跡	墓地	古墳(中期)	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
13	稲葉山古墳	山城	中世	市街地 内に位置する 古墳時代後期	35	恵美松小学校庭 遺跡	散在地	古墳(中期)～近 代	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
14	稻葉山馬場古墳	馬場	古墳	市街地 内に位置する 古墳時代後期	36	上品野遺跡	散布地	古墳(中期)	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
15	稻葉山馬場古墳	古墳	古墳	市街地 内に位置する 古墳時代後期	37	野野古遺跡	散在地	古墳(中期)	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
16	楓ノ木平遺跡	散布地	穢文	市街地 内に位置する 古墳時代後期	38	山口堤遺跡	散在地	古代	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
17	宮中遺跡	散布地	穢文	市街地 内に位置する 古墳時代後期	39	松木道遺跡	散在地	古代(中期)～ 古墳(後期)～中 世	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」 市1982「松木道古墳」
18	飛来寺山遺跡	散布地	穢文	市街地 内に位置する 古墳時代後期	40	日の宮・造林木道 遺跡	散在地	古代(中期)～ 古墳(後期)～中 世	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」 市1982「日の宮古墳」
19	田川原山遺跡	散布地	穢文(古代)	市街地 内に位置する 古墳時代後期	41	松原遺跡	散在地	古代(中期)～ 古墳(後期)～中 世	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
20	田川原山山頂遺 跡	散在地	古墳(古代)	市街地 内に位置する 古墳時代後期	42	山の宮・造林木道 遺跡	散在地	古代(中期)～ 古墳(後期)～中 世	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
21	田川三角山遺跡	散在地	古墳(古代)	市街地 内に位置する 古墳時代後期	43	松木屋群	散在地	古墳(中期)	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
22	田川三角山側面 遺跡	散在地	古墳(六朝期)	市街地 内に位置する 古墳時代後期	44	竹曾島遺跡	散在地	古墳(中期)	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
23	田川山遺跡	散在地	古墳(中期)	市街地 内に位置する 古墳時代後期	45	和尻遺跡	散布地	古代(中期)	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
24	田川土塁古墳	古墳	古墳(中期)	市街地 内に位置する 古墳時代後期	46	水沢遺跡	散布地	古墳(中期)	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
25	田川城跡	山城	中世	市街地 内に位置する 古墳時代後期	47	小津山遺跡	散在地	古墳(中期)	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
26	田川山側面古墳	古墳	古墳(中期)	市街地 内に位置する 古墳時代後期	48	松原裏群	散在地	古墳(中期)	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
27	オオミツウ古墳	古墳	古墳(中期)	市街地 内に位置する 古墳時代後期	49	福岡遺跡	散在地	古墳(中期)	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
28	上戸山古墳群	古墳	古墳	市街地 内に位置する 古墳時代後期	50	小野原遺跡	散在地	古墳(中期)	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
29	上戸山塚	經塚	中世	市街地 内に位置する 古墳時代後期	51	高岡遺跡	散在地	古墳(中期)	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
30	上戸山古墳	集落	穢文(前期～中 期)	市街地 内に位置する 古墳時代後期	52	和尻大通路	散在地	古代(中期)～ 古墳(後期)～中 世	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
31	上野日遺跡	散在地	穢文(中期～現 在)	市街地 内に位置する 古墳時代後期	53	松原裏群	散在地	古墳(中期)	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
32	上野日古墳群	古墳	古墳	市街地 内に位置する 古墳時代後期	54	福岡遺跡	散在地	古墳(中期)	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
33	上位神社古墳群	古墳	古墳	市街地 内に位置する 古墳時代後期	55	松尾遺跡	散在地	古墳(中期)	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
34	平尻山古墳群	古墳	古墳	市街地 内に位置する 古墳時代後期	56	竹曾島遺跡	散在地	古墳(中期)	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
35	下南面古墳群	古墳	古墳	市街地 内に位置する 古墳時代後期	57	和尻遺跡	散布地	古墳(中期)	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
36	土屋古墳群	古墳	古墳	市街地 内に位置する 古墳時代後期	58	水沢遺跡	散布地	古墳(中期)	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
37	上向原古墳群	古墳	古墳	市街地 内に位置する 古墳時代後期	59	小津山遺跡	散布地	古墳(中期)	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
38	西明寺古墳	寺社	中世	市街地 内に位置する 古墳時代後期	60	金森木道跡	散布地	古墳(中期)	市1981「小矢部市埋蔵文化財分譲調査報告書」
39	西明寺古墳	寺社	中世	市街地 内に位置する 古墳時代後期	61	地崎遺跡	散在地	江戸	昭和2000「地崎大通路跡・地崎道跡発掘調査報告書」
40	比志神社	社殿	中世	市街地 内に位置する 古墳時代後期	62	石古田木舟遺跡	古墳	古墳(古代)～中 世	昭和2000「名立木舟遺跡調査報告書」 福岡市教育委員会1990「名立木舟遺跡調査報告書」 1990「名立木舟遺跡調査報告書」 1990「名立木舟遺跡調査報告書」
41	城山神社	社殿	中世	市街地 内に位置する 古墳時代後期	63	木舟越跡	城塁	中世	福岡市教育委員会1990「木舟越遺跡」
42	今石動遺跡	山城	近世(初期)	市街地 内に位置する 古墳時代後期	64	木舟古跡	散布地	古墳(中期)	福岡市教育委員会1990「木舟古跡」
43	後谷古墳群	古墳	古墳	市街地 内に位置する 古墳時代後期	65	五社遺跡	集落	古墳(中期)～中 世	昭和1966「五社遺跡調査報告書」
44	谷内古墳群	古墳(中期～現 在)	古墳(中期～現 在)	市街地 内に位置する 古墳時代後期	66	開闢大通路	散在地	古墳(中期)	昭和2000「開闢大通路跡・地崎道跡発掘調査報告書」
45	下川原遺跡	散布地	佐生(終末期) ～奈良	市街地 内に位置する 古墳時代後期	67	大谷平田遺跡	散布地	古代(中期)～中 世	昭和1981「大谷平田遺跡」
46	野塙古墳群	古墳	古墳	市街地 内に位置する 古墳時代後期	68	大疋遺跡	散布地	古代(中期)	昭和1981「大疋遺跡」
47	大勢町遺跡	古墳	古墳(中期)～古 代(金丘)	市街地 内に位置する 古墳時代後期	69	富士垂里遺跡	散在地	古代(中期)	昭和1981「富士垂里遺跡」
48	八幡遺跡	散在地	穢文(中期)	市街地 内に位置する 古墳時代後期	70	田川垂里遺跡	散在地	古代(中期)	昭和1981「田川垂里遺跡」
49	道原山古墳墓 混状古墳群	神社跡	中世	市街地 内に位置する 古墳時代後期	71	福岡遺跡	散在地	古代(中期)	昭和1981「福岡遺跡」
50	八幡西遺跡	散在地	穢文(中期)	市街地 内に位置する 古墳時代後期	72	後谷垂里遺跡	散在地	古代(中期)	昭和1981「後谷垂里遺跡」
51	谷内助古墳群	谷内助	金丘	市街地 内に位置する 古墳時代後期	73	道原寺垂里遺跡	散在地	古代(中期)	昭和1981「道原寺垂里遺跡」
52	谷内Ⅰ遺跡	散在地	金丘	市街地 内に位置する 古墳時代後期	74	後谷垂里遺跡	散在地	古代(中期)	昭和1981「後谷垂里遺跡」

第Ⅱ章 調査に至る経緯

平成 25 年 8 月、小矢部市教育委員会生涯学習文化課に対し、アルビス株式会社による新店舗計画予定地が埋蔵文化財包蔵地に該当しているかの照会があった。当該地は桜町遺跡の範囲内であったため、事前の確認調査等が必要となる旨回答した。

平成 26 年 4 月 4 日、事業主体者であるアルビス株式会社より店舗建設に係る文化財保護法第 93 条の届出が提出された。周辺での過去の調査結果等から、当該地内において遺構・遺物が確認される可能性は高いと判断されたことから、富山県教育委員会の指示を受け、同年 7 月 3 日から 31 日にかけて小矢部市教育委員会が試掘確認調査を実施した。その結果、開発予定地内の北側を中心に広い範囲において弥生時代から中世までの遺構・遺物の分布が濃密に認められた。このため、南側の一部分を除き、地下の埋蔵文化財に影響を及ぼす基礎をもつ構築物等を建設する範囲については本発掘調査が必要となる旨、8 月 12 日付文書にて回答した。これを受けて計画の再検討が行われ、9 月下旬に最終の工事計画に基づき市教委と開発事業者が協議した結果、開発面積 15,252.6 m² のうち、アルビス店舗建設部分および北側と東側の道路に面する擁壁部分の合計 4841.98m² について遺構の破壊が免れないないと判断され、本発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、小矢部市教育委員会生涯学習文化課の監理のもと、アルビス株式会社から委託した有限会社毛野考古学研究所富山支所が調査実務を担当した。これは、平成 26 年 10 月 17 日付でアルビス株式会社、(有)毛野考古学研究所富山支所、小矢部市教育委員会の 3 者間で締結した協定に基づくものである。当初計画では、現地調査を平成 26 年 12 月 31 日までに完了する予定であったが、12 月上旬の降雪により調査の進行に支障が出たため、3 者による協議の結果、期間の延長を決定した。現地調査は埋め戻しも含めて平成 26 年 10 月 20 日から平成 27 年 1 月 14 日までを行い、その後 7 月 31 日まで出土品整理と報告書作成を実施した。



第3図 桜町遺跡調査箇所位置図 (1/5,000)

第Ⅲ章 調査の概要

調査の方法

調査区は便宜上、店舗建設予定地を現況の水田畦畔ブロックにより三分割し、北から北区・中央区・南区と呼称した。ほかに2箇所の土木構造物建設予定地について、西側を西区、東側を東区と呼称した（第5図）。

表土掘削は重機を使用し、遺物包含層上面まで掘削した。遺物包含層は人力にて掘削し、遺物はグリッドごとに取上げを行った。グリッドは、調査対象地北西隅のX=76.470・Y=-26.240を基点に10m単位に設定し、名稱は北から南へ1・2・3…10、西から東へA・B・C…Mとした（第5図）。

遺物包含層掘削を終えた範囲から順次、遺構検出を行い、検出状況の写真撮影後に遺構掘削を開始した。遺構番号は、遺構の種類（土坑SK、溝SD、ピットSP）ごとに番号をつけた。遺構は、覆土の堆積状況を確認・記録するため、ベルトを残して掘削した。ピットについては、柱痕の確認のため若干の段下げを行ったのちに断ち割り、図化した。遺構の測量は、断面図を手実測（縮尺1/20）で行った。平面図はラジヘリを使用して空中写真測量を行った。ただし平面図のうち、遺物出土位置の記録、遺構の切り合いにより消失する重複部分、湧水の激しい部分、狭長な調査区（西区・東区）については電子平板を使用した地上測量で対応した。平面図の縮尺は1/40、等高線は10cm間隔とした。

遺構の写真撮影は、35mmモノクロ・カラーリバーサルのフィルムカメラとデジタルカメラを併用し、主要な遺構については6×7モノクロ・カラーリバーサルフィルムも使用した。遺跡の全景写真はラジコンヘリによる空中写真とし、6×6モノクロ・カラーリバーサルのフィルムカメラとデジタルカメラにて撮影した。

遺物注記はインクジェットプリンターにて行い、遺跡記号・遺構名・日付を「SM-SAN SD29 No 01 141204」のように注記した。木製品や種実には注記せず、収納した遺物袋等に注記した。遺物の写真撮影はデジタル1眼レフカメラ（有効画素数2410万画素）を使用した。遺構図・遺物実測図・報告書作成ともにAdobe®Creative Suite®でデジタルトレース・編集等を実施し、印刷所にはPDF型式（X-1a;2001）で入稿した。

調査の経過

10月 中旬 調査打合せと準備を行う。 下旬 調査範囲の設定。調査事務所等を設置、表土の重機掘削を開始し、その後グリッド杭の設置及び遺物包含層の人力掘削を開始する。遺物包含層掘削を終えた範囲の遺構検出作業を開始する。

11月 上旬 北区・南区の遺物包含層の掘削と並行して、北区の溝（SD11・16）、南区の溝（SD01～04）・土坑（SK01）・ピットなどの掘削を進める。 中旬 北区・中央区・南区の遺物包含層の掘削を進める。北区の溝（SD21）、中央区の溝（SD17・18・22～24）、南区のピットの掘削を行う。南区で掘立柱建物（SB01）・檻（SA01・02）を検出する。 下旬 中央区・南区の遺物包含層の掘削を進める。中央区の溝（SD07・09・16・19）・土坑（SK02～05）、南区の溝（SD08・10・25～36）などの掘削を行う。

12月 上旬 中央区の溝（SD17・18・22）、南区の溝（SD25～36）・土坑（SK06～08）・ピットの掘削を行う。土木構造物西区の表土掘削・包含層掘削・遺構掘削を行う。降雪により、以降たびたび除雪作業を強いられる。 中旬 中央区の土坑（SK19）などの掘削を行う。東区の表土掘削・包含層掘削を行う。 下旬 中央区・南区の土坑・ピットの掘削を行う。遺跡の空撮と航空測量を行う。東区・西区の埋戻しを行う。

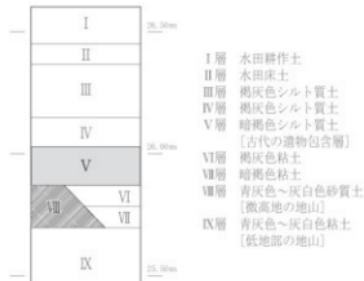
1月 上旬～中旬 調査事務所・器材の撤去、北区・中央区・南区の埋戻しを行い、現地調査を終える。

1月中旬～3月 出土遺物の洗浄・注記・接合・写真撮影、遺構図の編集・トレースを行う。

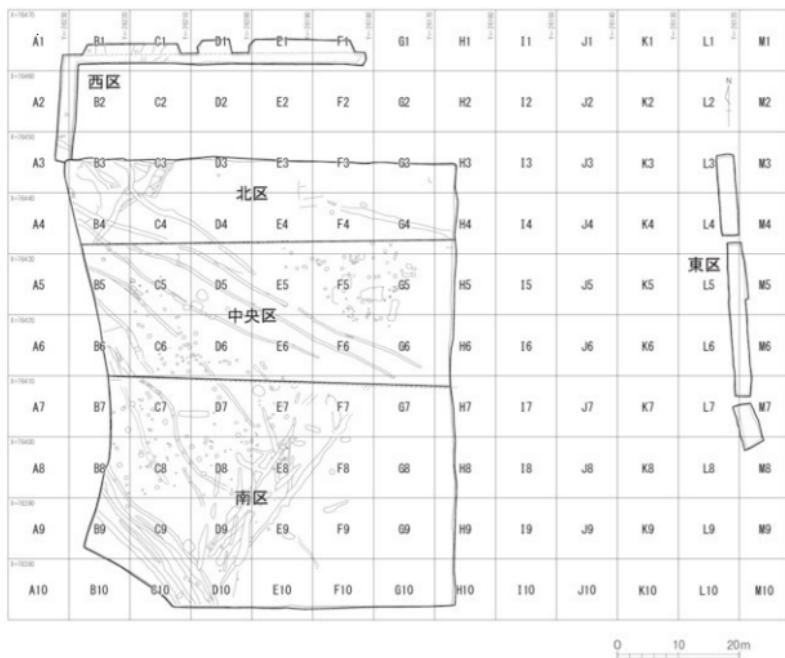
4～7月 出土遺物の実測・トレース、報告書の原稿執筆・編集、成果品作成などをを行う。

基本土層

基本土層は事前の試掘調査を参考にすると第4図のとおりである。調査対象地内では北西部がやや微高地となり、南東方向へ緩やかに傾斜している。北区から南区の中央付近までは遺構の広がりがあるが、南区の南東部では遺構が希薄となり低地へと移行するようである。調査区の南側隣接地の試掘調査では、湿地帯が確認されている。遺構の存在する微高地では、遺構検出面の躍層を地山として、その上に遺物包含層であるV層が堆積する。V層は古墳時代から平安時代にかけての遺物を含み、とくに奈良時代のものが多い。低地部では遺物は少くなり、V層の下にVI・VII層の堆積があり、IX層が遺構検出面となる。試掘調査ではV層中から弥生土器が出土している。



第4図 基本土層図 (1/20)



第5図 調査区グリッド図 (1/800)

第IV章 遺構と遺物

概要

検出した遺構は、掘立柱建物1棟、柵2条、溝39条、土坑27基、ピット229基である。遺構の時期は概ね奈良時代である。南区で検出された掘立柱建物SB01は、周囲を柵SA01・02、道路遺構の側溝の可能性がある溝SD25・29、自然流路の可能性がある溝SD01～06によって囲繞される点が特徴的で、建物の性格が注目される。中央区でもピットが集中するC6・F5グリッドにおいて掘立柱建物の存在を検討したが、結果的には検出できなかった。北区や中央区を中心に検出された溝は、概ね北西から南東へ流れしており、既往の調査で検出されている同種の溝と一連のもので、南東方向に想定される水田域への用水路と考えられる。ただし南東へ向かうにつれ、溝は不鮮明となる。土坑は性格不明なものが多いが、SK09はSD25の北側延長の痕跡、SK19は竪穴建物の可能性がある。遺物は奈良時代の土師器・須恵器を中心に、弥生～古墳時代・飛鳥時代・平安時代・中世の土器が少量出土した。ほかに土製品(土錘・土馬)、石製品(砥石)、木製品(柱)、鉄滓、種実(モモ・クルミ)がある。

なお、東区では遺構が検出されなかったため、調査区全体図(第6図)から除外している。

遺構

掘立柱建物

SB01 (第7・12図、PL.2・3・4・8、巻首図版1)

南区の西側で検出した2間×2間の絶柱建物である(SP30・31・32・37・39～42)。北西側中央の柱穴は、重複するSD07の覆土が砂氣であったため流失してしまったが、本来は9本柱建物である。SD07・39を切っている。柵行4.46m、梁行3.08mで、平面積は13.74m²である。南東側中央のSP31は30cmほど内側に入り込んでいる。主軸はN-32°-Wである。柱掘方は長軸48～74cm、短軸42～74cmの円形基準で、深さは16～45cmである。平面ないし断面で確認された柱痕は直径10～20cm前後である。中央のSP42のみ柱痕が26cmと一回り大きいが、柱穴の深さは他の柱穴と差はない。掘方覆土は粘土質の褐灰色土を主体とする。遺物は小片であるが、SP30・31・37・39・41から8世紀代の土師器壺が出土した。土師器壺(1)はSP30出土である。

柵

SA01 (第7・12図、PL.2・3・4・8・20、巻首図版1)

南区の北西部で検出された東西方向に6基の柱穴が並ぶ柵である(SP1・3・4・6・8・10)。全長は8.03mであるが、西側は調査区外へ延びる可能性がある。SD07・09を切っている。SB01の北西側を区切る位置にあり、SB01とは8.6mの距離がある。SP6・8・10はSB01の柱筋とほぼ揃っている。主軸はN-66°-Eである。柱間距離は西から1.70m、1.85m、1.35m、1.41m、1.72mである。柱掘方は円形ないし隅丸長方形で、長軸42～83cm、短軸40～82cm、深さは23～50cmである。平面ないし断面で確認された柱痕は直径18～20cm前後で、SA02より一回り大きい。掘方覆土は灰色土ないし褐灰色土を主体とし、SP1・3・4では木片が少量含まれた。唯一柱痕が検出されなかつたSP10はブロック土が多く、柱が抜き取られたと考えられる。SP03では断面長方形の柱根(4)が遺存し、下端での規模は23.0cm×17.5cm、残存高53.3cmであった。柱根の長軸は柵の主軸とほぼ直交するように据えられている。この柱根は上端が炭化しており、SA01が焼失した可能性を示している。遺物はSP1を除く柱穴から土師器壺(2・3)、須恵器蓋・杯・壺の小片が少量出土し、いずれも8世紀代のものである。

SA02 (第7図、PL.2・3・4、巻首図版1)

南区の西側で検出された南北方向に4基の柱穴が並ぶ柵である(SP34・35・36・57)。他の遺構との切り合いはな

い。全長 5.13m を測り、柱間距離は北から 1.51 m、1.82 m、1.80m である。SB01 の北東側を区切る位置にあり、SB01 との距離は 2.7m である。SP36 は SB01 の柱筋と掘っている。主軸は N - 31° - W である。柱掘方は円形ないし隅丸方形で、長軸 46~60cm、短軸 40~50cm、深さは 29~33cm である。平面ないし断面で確認された柱直は直径 16cm 前後である。掘方覆土は粘土質の褐色土を主体とし、炭化物を比較的多く含んでいる。遺物はいずれの柱穴からも土師器甕が少量出土しただけである。

溝

S D 01 ~ 06 (第8・13・14図、PL. 2・4・5・8、巻首図版 1・2)

SD01~06 は南区の南西部を流れる溝である。溝の流域は微高地の地山であるⅦ層が確認できず、低地に相当するⅥ層ないしⅧ層が堆積する。Ⅷ層には植物遺体も含まれることから、周辺から南には低湿地の広がりが想定される。SD01~06 は微高地と低湿地の境界を、北西から南東へ蛇行しながら流れ、たびたび流路を変更した溝である。南の溝ほど蛇行の程度は弱まり、直線的になる。このうち重複する SD02・03 は、同種の覆土であるために平面での新旧が分からず、断面観察によって 2 条であることが判明した。SD02 が SD03 を切っている。SD05・06 は残存状況が悪いため、SD01~04 が主要な溝である。方位は概ね N - 40° - W である。なお、南東部には溝と重なるように複数のビットがある。規模は 70~110cm で、深さは 20~30cm である。周間に河原石が 2 点ある。これらのビットが後述する SD25・29 の延長線上に位置することが注意される。

SD01 は最も南にあり、全長 20.0m 以上、幅 52~98cm、深さ 11~27cm である。断面形状は逆台形である。高低差は北西端より南東端が 8cm 低い。覆土は上層が粗砂、下層が植物遺体の混じる細砂である。遺物は少量であるが須恵器杯(5)・瓶・甕、土師器杯(6)・甕があり、8 世紀後半のものと考えられる。

SD02 は全長 24.4m 以上、幅 48~105cm、深さ 6~14cm である。断面形状は弧状である。高低差は北西端より南東端が 17cm 低い。南東側では SD03 を切るように浅い中段部分があるが、流水などで削られたものと考えられ、規模には含めない。南東寄りの 2 カ所では、長さ 2.6m 以上にわたって高さ 5cm 前後の中州状の高まりがある。覆土は下層が細砂、上層が粗砂である。遺物は須恵器杯(7~11)・瓶・甕、土師器杯(12~13)・高杯・甕(14~16)、製塙土器(17~19)がある。6 条の溝の中で出土量が最も多く、土師器杯・高杯の比率が高い傾向がある。破片の欠け口が非常にシャープであることから、流れ着いたものではなく、廃棄時の原位置をほぼ保っていると考えられる。須恵器杯は 7・10・11 が 8 世紀前半、8・9 が 8 世紀後半のものである。土師器杯は 8 世紀代のもので、SD02 出土破片 20 点の全てが赤彩ないし内墨である点が注意される。土師器甕は 8 世紀前半のもので、14・15 はハケメ調整である。製塙土器は棒状底タイプレス、SD03 や包含層 C9 グリッドでもまとまって出土している。なお北西端部で SD03 とあわせて掘削した際の遺物に土師器高杯(20)・甕(21~22)があり、SD02 ないし SD03 に帰属するものである。甕は 8 世紀前半のハケメ調整の甕である。

SD03 は全長 27.6m 以上、幅 44~120cm、深さ 2~17cm である。断面形状は弧状である。高低差は北西端より南東端が 21cm 低い。北西部では、長さ 1.7m にわたって高さ 10cm の中州状の高まりがある。SD05 と重複するが新旧は不明である。覆土は粗砂の单層である。中央部には杭列があり、微高地に面する北東岸に 0.8 ~ 1.20m 間隔で杭が 4 本並ぶ。南側の 2 本の杭には近接して別の杭を伴い、合計 6 本の杭が並ぶ。対岸には 1 本だけ杭が残る。杭は最大で深さ 85cm、浅いものでも 45cm の深さまで打ち込まれており、いずれも溝の中心に倒れるように斜めに打ち込まれていた。遺物は須恵器蓋(23~25)・杯(26~29)・甕、土師器杯(30~35)・高杯(36~37)・甕(38~40)、製塙土器(42~44)、土鍤(45)がある。SD02 と同様に破片の欠け口は非常にシャープである。SD02 と同じく土師器杯・高杯の比率が高い傾向にあり、破片 30 点は全て赤彩ないし内墨である。31・32 は油煙付着で、34・35 も同様の痕跡がある。土師器甕はハケメ調整で、38 はカキメを加える。製塙土器は棒状底タイプレスで、42 は

ハケメ調整である。出土遺物は8世紀前半から中頃と考えられる。

SD04は全長29.0m以上、幅34~66cm、深さ11~35cmである。6条のうち最も高い位置を流れる溝である。断面形状は逆台形である。高低差は北西端より南東端が29cm低い。SK01・SD08・SP55に切られる。覆土は細砂で、下層の細砂には植物遺体が混じる。遺物は須恵器杯、土師器壺、製塙土器がごく少量出土している。

SD05は全長6.0m、幅20~44cm、深さ3~7cmである。断面形状は弧状である。SD03との新旧は不明である。覆土は粗砂の单層である。出土遺物はない。

SD06は全長9.9m、幅31~50cm、深さ3~13cmである。断面形状は弧状である。高低差は北西端より南東端が13cm低い。覆土は粗砂の单層である。遺物は須恵器杯、土師器壺がごく少量出土した。

S D 07・09・38・39 (第6-14図、PL. 9)

SD07は南区の北西部を大きく蛇行する溝である。中央区の南西隅でもわずかに検出されている。全長30.0m、幅42~66cm、深さ9~30cmである。断面形状は逆台形である。高低差は北西端より南東端が約10cm低い。SB01・SA01・SD08・SP24・SP59に切られる。覆土は粗砂の单層である。SD07は、SD08と重複する南東部付近から地山である埴より下層に沈みこんでおり、平面で捉えられなくなる。本来は埴より下層の自然流路と考えられ、SB01などの土地利用に伴って埴層が削られ露出したと推測される。SD29を超えたE9・F10グリッドで、SD07の延長と考えられる溝が検出されている。遺物はSB01周辺で須恵器杯、土師器壺、土師器瓶の把手(46)がわずかに出土しているが、SB01などの土地利用による混入と考えられ、他の部分では全く出土していない。

SD09は南区北西部を南流する溝である。遺存状況が悪く、痕跡的に検出されている。全長17.6m、幅24~70cm、深さ2cm以下である。覆土は黒褐色土の单層である。遺物は出土していない。

SD38は中央区南側にある。遺存状況が悪く、痕跡的に検出されている。全長28m以上、幅32~50cm、深さ5cm以下である。覆土は粗砂の单層である。遺物は須恵器杯、土師器壺がごく少量出土した。

SD39は南区西側にある。南北端ともに不明瞭となり途切れる。全長6.2m、幅32~52cm、深さ7~13cmである。覆土は粗砂の单層である。遺物は出土していない。

S D 08・10 (第8-14図、PL. 5-8-9)

SD08-10は南区の中央部に位置する。幅3.0~3.8mの間隔で並走し、いずれも2カ所で途切れ、北・中央・南に分割される。溝が途切るのは遺存状況が悪いためで、本来は繋がっていたと考えられる。SD08はSD04-07を切り、SD10はSD25・26・27を切っている。SD08は全長17.6m、幅48~114cm、深さ1~15cmである。SD10は全長17.0m、幅26~78cm、深さ1~7cmである。高低差はいずれも北端より南端が5cmほど低い。両者の主軸方位はN-10°-Eである。両者の覆土は全くの同質で、粘土質の灰褐色土に炭化物と土器片が多く含まれていた。遺物は須恵器蓋(47-48)・杯(49)・長頸瓶(50)・壺、土師器杯・高杯・壺があり、圧倒的に土師器壺が多い。遺物は8世紀代のもので、48-50は8世紀前半と考えられる。SD08-10は、並走する状況と覆土の一一致から、両者は同時存在した可能性が高い。後述するSD25・29が道路遺構の可能性があり、その南端とSD08-10の南端が同一地点にあることから、同所を基点として付け替えられた道路遺構の可能性も想定される。

S D 11~16・19・20、S X 01 (第9-14-15-18図、PL. 5-8-9-11、巻首図版2)

北区の北西部には溝が集中し、北西から南東方向の溝(SD13-16)と北東から南西方向の溝(SD11-12-14-15-19-20)がある。中央付近には溜井状の窪み(SX01)がある。

SD11は切り合いで最も新しい溝である。全長17.8m以上、幅68~184cm、深さ25~41cmである。断面形状は逆台形である。主軸方位はN-39°-Eである。高低差は北東端が南西端より約10cm低い。覆土は灰色ないし黄灰色の砂質土で、数回の掘り直しが断面で観察される。遺物は須恵器蓋・杯(51~53)・短頸壺(54)・瓶・壺、土

師器杯(55)・壺が少量出土している。51~53は8世紀後半、有蓋の短頸壺54は丸みのある胴部で、9世紀に下ると考えられる。

SD12はSD11の旧流路と考えられ、SD11よりやや西を流れる溝である。大部分をSD11に切られ、SD11の中央付近でかろうじて検出された。断面観察では幅125cm、深さ34cmを測り、断面形状は弧状である。覆土は褐色灰色土を主体とし、下層には植物遺体が混じる。遺物は出土しなかった。

SD13はSD11に切られる短い溝である。溝の深い部分だけが残存した状態で、東側の延長線上にあるSD21との関連も考えられる。全長53m、幅1.34m、深さ13~18cmである。断面形状は弧状である。覆土は灰色土である。出土遺物は土師器壺がごく少量である。

SD14はSD11の東側14mの位置にあって北東方向へ流れる小溝である。SD19・20に切られる。南端は溜井状のSX01へ接続している。全長6.2m以上、幅38~44cm、深さ5~13cmである。断面形状は逆台形である。高低差は南端より北端が5cm低い。覆土は灰色砂質土を主体とする。遺物は須恵器杯・瓶、土師器壺がごく少量出土した。

SD15・19・20はSD12と同様にSD11の旧流路と考えられる小溝である。他の溝との重なりが多く全容は不明であるが、SD15・20は同一の溝の可能性がある。切り合いはSD16・14→SD19→SD15・20→SD11の順に新しい。断面観察によればSD15・20は幅75cm、深さ20cm、SD19は幅約80cm、深さ15cmである。断面形状はSD15・20が逆台形、SD19が弧状である。覆土はSD15・20が灰色砂質土、SD19が褐色灰色土である。遺物はSD15から須恵器杯(56)・瓶、土師器壺がごく少量出土し、8世紀前半のものである。SD19・20から遺物は出土しなかった。

SD16は西区南端から南東へ流れる溝で、南東端は後世の削平のためか浅くなって途絶する。北西側の延長は昭和62年度調査区の溝SD10に繋がる可能性がある(付載図1参照)。全長39.2m以上、幅50~120cm、深さ7~30cmである。SD11・12・15に切られている。北区北西部ではSX01を避けるように南西側へ20mほど張り出しており、SX01との同時存在が想定される。SX01に最も近い部分の底面には径26~42cm、深さ10cm前後のピットが2基確認された。底面の高低差は北西端より南東端が3cm低いだけで、ほぼ平坦である。断面形状は逆台形である。覆土は下層が灰色砂質土、上層が褐色灰色土である。遺物は周辺の溝の中で最も多く出土し、須恵器蓋(57・58)・杯(59~62)・長頸瓶(63・64)・壺、土師器杯(65)・高杯(66)・壺がある。8世紀前半が主体で、62は8世紀後半に下る。

SX01はSD16の張り出し部の内側に存在する土坑状の掘り込みである。径1.4m、深さ20cmの隅丸方形を呈する中段部分の中央に径60cmの隅丸方形で深さ30cmの掘り込みがある。井戸跡とも考えられたが、湧水の痕跡はない。SD16との接続部はSD11に削平されて不明であるが、SD16張り出し部にあるピット附近に堰を設ければSD16から導水し、SX01に水を溜めることができる。さらにSX01からSD14を使用して北東方向へ導水したことにも考えられる。ここでは、SX01はSD16の水を利用した溜井状遺構と想定しておきたい。遺物は8世紀後半の須恵器杯(140)が1点出土しただけであるが、SD20重複部の上面での出土であるので、SD20に帰属する可能性が残る。

SD 17・18・21~24 (第6・9・15図、PL. 5・9・10)

SD17・18・21~24は北区と中央区を北西から南東方向へ流れる溝である。SD21を除き、放射状に広がる様子があり、調査区外の北西方向に基幹水路があつてそこから分水した支路であることが想定される。南東へ向かうほど、後世の削平のためか浅くなって途切れる。

SD17は全長73.0m以上、幅42~104cm、深さ6~49cmである。北区でSD11に切られる。高低差は北西端より

南東端が17cm低い。断面形状は逆台形である。覆土は粗砂の単層である。遺物は8世紀前半の須恵器杯(67)のほか、土師器高杯・壺がごく少量である。

SD18は全長45.5m以上、幅28~73cm、深さ10~36cmである。北区でSD11に、中央区でSK03-04・05に切られる。高低差は北西端より南東端が14cm低い。断面形状は逆台形である。覆土は下層が灰色粗砂、上層が褐灰色土である。遺物は8世紀前半の須恵器杯(68)のほか、須恵器壺、土師器杯・壺、製塙土器が少量出土した。

SD21は全長18.4m以上、幅52~113cm、深さ約32cmである。西側はプランが不鮮明だが、東側は調査区外へ延びる。高低差は西端より東端が7cm低い。断面形状は逆台形である。覆土は灰色砂質土と褐灰色土が繰り返し堆積する。遺物は土師器高杯・壺がごく少量出土した。

SD22は全長49.6m以上、幅36~60cm、深さ10~35cmである。中央区でSP131・132に切られる。北端が畦畔ブロックによる搅乱を受けて断定できないが、SD18から分岐する可能性が考えられる。高低差は北西端より南東端が26cm低い。断面形状は逆台形である。覆土は灰色砂質土の単層である。遺物は8世紀前半の須恵器杯(69)のほか、須恵器壺、土師器壺がごく少量出土した。

SD23は全長38.0m以上、幅38~60cm、深さ5~25cmである。中央区でSP71に切られるほか、C6・D6グリッドのピット集中地点では平面で捉えられない。北部では溝が分岐する様子があるが、その延長は平面では捉えられなかった。高低差は北西端より南東端が5cm低いが、底面はほぼ平坦である。断面形状は逆台形である。覆土は下層が灰色砂質土、上層が褐灰色土である。遺物は須恵器杯、土師器壺がごく少量出土した。

SD24は全長15.0m以上、幅54~106cm、深さ19~36cmである。SP56に切られる。高低差は北西端より南東端が15cm低い。断面形状は逆台形である。覆土は細砂が混じる褐灰色土が主体である。遺物は土師器杯・壺がごく少量出土した。

SD 25・29（第10・15~17図、PL. 2・6・9・10・11・12・19、巻首図版1・2）

SD25・29は南区の中央を概ね45mの間隔で直線的に並走する溝である。溝の心々距離は5.2mである。北西の微高地から南東の低地へと変化する位置にあり、以東には遺構がほとんど検出されない場所である。両者とも南西端はSD04の手前で途切れ、SD04とはSD25が2.7m、SD29が1.9mの距離を置いている。北東方向の延長は削平のために途切れるが、わずかな土色の違い、炭化物や土器の出土から、南区内では痕跡が残る。後述するように、中央区SK09はSD25の延長線上に位置することから、SD25の痕跡の可能性がある。SD10・28に切られる。SD25は全長25.0m以上、幅は南西部で40cm前後、北東部で90cm前後である。深さは5~23cmである。南端から7m付近では幅1.2mと幅広になる部分がある。方位はN-38°-E、断面形状は弧状である。SD29は全長31.0m以上、幅は南西部で50cm前後、北東部で110cm前後である。深さは5~20cmである。中央付近では幅広になる部分が2カ所ある。方位はSD25と同じ、断面形状は弧状である。SD29の底面標高はSD25より概ね5~10cm低くなっているが、これはSD25が微高地の南東辺にあり、南東に向かって緩やかに低地へと移行しつつある地形の影響である。両者の覆土は共通し、炭化物と土器の細片を多量に含むことから、人為的な埋め戻しが想定される。SD25・29は、方位が他の多くの溝が示す方位と異なるうえ、南端が低湿地と接続しないなど用水路としての機能は考えにくく、並走すること、北東側延長線上には過去の調査で古代の掘立柱建物が多数検出されていることから、集落中心地と今回の調査地点とを結ぶ道路遺構と考えたい。後述するようにSB01との関連が想定される。さらに両溝の南西にあるSD02・03周辺には複数のピットがあり、SD25の延長線上に2基、SD29の延長線上に1基が位置する。南方は低湿地になることから、道路遺構が続くとは考えにくいが、何らかの構造物が存在した可能性がある。

遺物はSD25では須恵器蓋(70~72)・杯(73~75)・瓶・壺、土師器杯・高杯・壺(76)・鍋(77)、土鍬が出土し、

土師器壺が圧倒的に多い。8世紀後半が多く、74は8世紀前半のものである。SD29では須恵器蓋(102~107)・杯(108~120)・長頸瓶(121)・短頭壺(122)・壺、土師器杯・椀(124~126)・高杯(127・128)・壺(129・130)、土錘が出土した。SD25に比較して、須恵器壺類と土錘の出土量が多い。土錘は中央付近(包含層E8・E9グリッド含む)から破損した同種のものがまとめて出土している(409と同タイプ、PL.19参照)。105は内外面を敲打した後に細かく破碎し、その破片がSD29周辺の広範囲で接合したものである。109はSD25と接合しており、SD25・29が同時存在した傍証である。8世紀前半のものも多いが、105・108・109・111・114・115・116などは8世紀後半と考えられる。125は9世紀代であるが、同種の椀を出土しているSD28との重複部からの出土であるので、SD28からの混入と考えられる。

S D 26・27 (第6・15・16図、PL. 8・9・10、巻首図版2)

SD26・27は南区のSD25とSD29の間で検出された溝である。SD25・29とは方位が異なるが、直線的な走向と南端がSD04に接続しない点が共通する。SD26がSD27を切っており、両者ともSD10・28に切られる。

SD26は全長21.5m以上、幅65~126cm、深さ5~16cmである。試掘トレンチなどによって分断されるが、本来は繋がっていたものである。SD31・32との新旧は不明である。方位はN-45°-Eである。底面の高低差はなく、ほとんど平坦である。断面形状は弧状である。覆土は褐灰色土で下層に炭化物を多く含む。遺物は須恵器蓋(78・79)・杯(80~82)・長頸瓶(83・84)・壺、土師器杯(85)・高杯(86)・鉢(87)・壺(88~90)があり、出土量は多い。8世紀前半のものも多いが、80・81は8世紀後半と考えられる。84はSD27と接合しており、本来はSD27に帰属する可能性がある。

SD27は全長8.0m以上、幅92~182cm、深さ5~8cmである。方位はN-37°-Eである。断面形状は弧状である。覆土は炭化物を多く含む暗褐灰色土である。遺物は8世紀前半を主体とし、須恵器蓋(91~93)・杯・瓶・壺、土師器壺(94)が出土している。91はSD26と、92はSD29と接合している。

S D 28 (第6・16図、PL. 8・10・19)

SD28は南区で検出された南北の溝である。SD25・26・27・29を切っている。中央で削平を受けて途切れるが、全長15.8m、幅98~144cm、深さ10~16cmである。方位はN-8°-Eである。断面形状は弧状で、覆土は炭化物を多く含む暗褐灰色の砂質土である。遺物は須恵器蓋(95・96)・杯(97~99)・瓶・壺、土師器杯・椀(100)・高杯・壺、製塙土器、土錘(101)が出土した。8世紀代のものが大半で、100は9世紀代である。95はSD26と、99はSD25と接合した。

S D 30~37 (第6・17・18図、PL. 6・8・10・11)

SD30~37は南区の中央に位置する短い溝で、いずれも溝の性格は不明である。深さが浅いものが多く、新旧関係が不明である。

SD30は全長5.3m、幅68~93cm、深さ6~11cmである。覆土は炭化物の混じる褐灰色土である。遺物は須恵器杯、土師器杯・壺がごく少量出土した。

SD31は全長12.6m、幅30~90cm、深さ5~12cmである。覆土は炭化物の混じる褐灰色土である。遺物は須恵器蓋(131)・杯(132)・壺、土師器杯・椀(133)・壺(134~135)、土錘が出土した。8世紀のものが多いが、135は9世紀に下ると考えられる。

SD32は全長6.0m、幅56~66cm、深さ4cmである。覆土は炭化物の混じる褐灰色土である。遺物は須恵器杯(136・137)・壺、土師器壺がごく少量出土した。8世紀後半のものである。

SD33は全長2.3m、幅60~82cm、深さ9cmである。覆土は炭化物の混じる褐灰色土である。遺物は8世紀代の須恵器蓋(138)・杯(139)・壺、土師器杯・壺がごく少量出土した。

SD34は全長5.2m、幅26~48cm、深さ5~13cmである。覆土は炭化物の混じる褐色土である。遺物は須恵器杯・壺、土師器壺がごく少量出土した。

SD35はSD25の延長にある可能性がある溝だが、残存状況が悪い。全長2.5m、幅72cm、深さ1cm以下である。検出時に炭化物と土器片が出土したが、掘り込みは残っていなかった。遺物は須恵器瓶、土師器壺がごく少量である。

SD36は試掘トレーニによる削平で途切れるが、全長5.5m、幅35cm、深さ8cmである。覆土は粗砂の単層である。遺物は須恵器杯、土師器壺がごく少量である。

SD37は全長4.1m、幅24cm、深さ4~9cmである。覆土は粗砂の単層である。遺物は土師器壺がごく少量出土した。
土坑

S K 01 (第11-18図、PL. 7-8-12)

SK01は南区で検出した隅丸長方形の土坑である。長軸2.00m、短軸1.70m、深さ20cmである。長軸方位はN-40°-Wである。SD04を切っている。断面形状は逆台形である。覆土は炭化物や土器の細片を多く含む黒褐色土を主体とし、SD25-29の覆土との類似が指摘される。遺物は須恵器蓋・杯・壺、土師器杯・高杯(141)・壺・鍋(142)が出土した。8世紀代が主体だが、142は7世紀に遡る可能性がある。

S K 02~05 (第6-11-18図、PL. 7-12)

SK02~05は中央区西側にまとまる土坑である。SK03~05はSD18を切っている。

SK02は不整円形の土坑で、長軸1.95m、短軸1.57m、深さ25cmである。覆土は褐色粘質土を主体とし、遺物は8世紀代の須恵器蓋(143)・杯(144)・瓶・壺、土師器壺が出土した。143は土坑中央から正位で出土した。

SK03は梢円形に近い土坑で、長軸2.07m、短軸1.20m、深さ18cmである。覆土は褐色砂質土の単層である。遺物は須恵器杯(145)・瓶、土師器杯・壺が少量出土した。8世紀前半のものである。

SK04は隅丸長方形の土坑で、長軸1.18m、短軸0.84m、深さ18cmである。覆土は褐色砂質土を主体とする。遺物は8世紀代の須恵器杯、土師器壺がごく少量出土した。

SK05は隅丸長方形の土坑で、長軸1.05m、短軸0.64m、深さ42cmである。覆土は褐色土を主体とし、上層に炭化物を多く含む。遺物は8世紀代の須恵器蓋、土師器壺がごく少量出土した。

S K 06~08 (第6図)

SK06~08は南区北側に位置する土坑である。SK07~08は畦畔ブロックによる擾乱を受けるが、いずれも径1~2mの不整円形で、深さは9~27cmである。覆土は炭化物を多く含む褐色粘質土である。遺物は8世紀代の須恵器杯・壺、土師器壺がごく少量出土した。

S K 09 (第6-11-18図、PL. 7-12)

SK09は中央区東側に位置する溝状の土坑である。長軸3.56m、短軸1.07m、深さ13cmで、長軸方位はN-17°-Eである。覆土は炭化物と土器片を多く含む褐色土で、SD25-29と共通する。SD25北東方向の延長線上にあって、幅も同規模。覆土も共通することから、削平を免れたSD25の一部である可能性が考えられる。SK09以東に遺構が存在しない状況も、南区のSD25-29と共通する。遺物は8世紀代の須恵器杯(146)、土師器杯・壺が出土した。

S K 19 (第11-18図、PL. 7-12-19、巻首図版2)

SK19は中央区東側に位置する。長軸3.46m、短軸2.00m、深さ20cmで、台形に近い長方形である。長軸方位はN-89°-Eである。覆土は上下の褐色土の間に炭化物層があり、各層とも土器片を多く含む。遺物は須恵器蓋(154~157)・杯(158~160)・瓶(161)、土師器杯(162)・高杯・壺(163~164)、土鍤(165)が出土した。ほとん

どが8世紀前半のものである。天井部にヘラ記号のある154は逆位で出土した。158・159も半分に割れた159を重ねた上にさらに158を置いた状態で、いずれも逆位で出土した。竈などの施設は確認できなかったが、昭和60年度調査SI01~03のような堅穴建物の可能性が想定され、建物を故意に焼失させたと考えられる。

その他の土坑（第6-18・19図、PL8-12-18）

SK10-20-22・23は中央区東側に位置する土坑である。隅丸長方形を基調とする土坑である。規模は第2表参照。8世紀代の須恵器、土師器を出土する。SK23からは提砥(166)が出土している。

SK12~16は西区に位置する。溝状の平面形であるが、南ないし北への延長が確認できないことから土坑と判断した。規模は第2表参照。遺物は8世紀前半を主体とする須恵器(148~151・153)、土師器(152)が出土している。

SK11-17-18・21-24~27は南区の中央付近に位置する土坑である。SK18の隅丸長方形を除き、不整形なものが多い。規模は第2表参照。遺物は8世紀代の須恵器、土師器(147)が少量出土しているが、SK25の167は7世紀代のものである。

ピット（第6-19図、PL. 8-12-19）

ピットの詳細は第3~6表参照。柱痕の残るものも多数あったが、SB01以外に掘立柱建物は検出できなかった。遺物は8世紀代の須恵器、土師器が出土したが、SP25の土師器壺(168)は7世紀代、SP143の土師器壺(172)は9世紀代のものである。土鍤や種実を出土したピットもある。

包含層出土遺物

弥生時代～古墳時代（第19-25-26図、PL. 12-13-18）

弥生時代後期は弥生土器の器台(341)・高杯(363~365)がある。昭和57年度調査区や今回の調査の試掘調査でも同時期の弥生土器が出土しているが遺構は検出されていない。

古墳時代前期は土師器小型壺(340)・壺(342・343)・壺(375-389)がある。小型壺は小さい平底、壺は有段口縁である。

古墳時代の須恵器には、杯H蓋(177~179)と杯H(181-182)がある。杯H蓋の頂部はロクロ削りを施し、177はヘラ記号「×」がつく。179の口縁内端部は内傾して稜をもつ。古墳時代後期のものである。口縁部の立ち上がりが長い杯Hは古墳時代中期のものである。181は口径10.3cmである。

飛鳥時代（第19-24-26図、PL. 9-12-13-17-18）

飛鳥時代の須恵器には杯H(180-183)、内面にかえりをもつ杯G蓋(184~188)、壺(189)、高杯(325)、壺(337)がある。杯Hは口径8.1cmの180と11.6cmの183がある。飛鳥時代前期のものである。杯G蓋は口径は8.8cmの184と11.8cmの187があり、天井部はロクロ削りが施される。宝珠形のつまみがつく185と、かえりが口縁部下に下がる188が7世紀第3四半期、他は7世紀第4四半期である。

土師器は壺(377-392)・瓶(374)がある。392は内外面ハケメ調整である。

奈良・平安時代（第19~27図、PL. 12~19、巻首図版2）

須恵器には杯蓋・杯・高杯・瓶・壺・円面鏡がある。

190~212は杯B蓋である。口径は10.6cm~17.0cmであるが、11cm台と15cm台が中心となる。つまみの形態は扁平な擬宝珠形(202など)が大半で、擬宝珠形(204)は少数である。口縁端部の形態は断面三角形になるものがほとんどで、口縁端部が内傾し内端部に稜をもつもの(201・208など)は少数である。頂部外面の調整は確認できるものは全てロクロ削りである。頂部内面はナデ調整を施すものがある(193-199・202-206)。8世紀代のものがほとんどで、193・194・197は9世紀代のものである。

213~284 は杯Bである。口径には 9.2cm~16.9cm があり、12.6cm~14.8cm が中心である。口径 12.8cm 以上のものは口径に対して器高が低く、口縁部は外傾する (213・214・216・221・222・228・246・247・252・257・258・261・263・265・269・272・274・283・284)。とくに 274 は 16.9cm の大口径である。底径の大きい 232・233・235・282 も同形である。8 世紀前半のものである。266 は口径 9.2cm、器高 4.5cm の小型品で、口縁部が外反する。241 も同形で、8 世紀前半のものである。262・276 は器高 5cm 以上の深みのある大型品で、262 には体部中位に沈線が巡る。ヘラ記号は 221・229 の底部外面に「一」、239・250・254 の底部外面に「=」がある。後者の 3 点は内端部の接地する高台などの器形、胎土、焼成が一致しており、同一工人による製作と考えられる。平成 19 年度調査 SD01 出土品のなかにも同じ器形とヘラ記号をもつものがある。246・263・265 は内面に漆の付着がある。このうち 263・265 は器形、胎土、焼成後の内面線刻が共通し、漆容器として遺跡に持ち込まれた可能性も考えられる。

285~324 は杯Aである。口径は 10.4cm~15.3cm があり、12cm 台が中心である。底部切り離しは全てヘラ切りである。口径に対して器高が 3cm 前後の浅いもの (289・299・306・320・324 など)、口径に対して器高 3.5cm~3.8cm でやや深みのあるもの (285・290・297・307 など)、底部が丸みをもつもの (292)、口縁部が大きく外傾するもの (316) がある。8 世紀代のものである。295 は内面に漆が付着、286 は底部外面に漆書きがある。308 は底部外面にヘラ記号「一」がある。

小型の壺 (326) は低い高台と肩の張る胴部をもつ。9 世紀代か。短頸壺 (327)、壺蓋 (328)、長頸瓶 (330)、横瓶 (332~334)、壺 (335~336・338) は 8 世紀代のもの。335 の胴部外面には叩き後にハケメ調整と線刻を施す。339 は円面覗の脚部の可能性がある破片である。

土師器は皿・杯・高杯・盤・壺・鍋がある。皿・杯 (344~359)・盤 (361・362)・高杯 (366~373・416) は SD02・03 が位置する C9・D9・D10 グリッドからの出土が多く、赤彩や内面黒色処理の比率が高い。9 世紀代の 347 を除き、8 世紀代におさまるものである。346・354 は油煙の付着がある。358 は内里の杯底部を利用した加工円盤である。壺 (376~378・380~382・383~385・388~390・391) は、378・383・391・392 が内面ハケメ、378 が外面カキメが施される。鍋 (379~381・384~386・393~395) は、393・394 で外面手持ちヘラケズリ、内面カキメを施す。壺・鍋は 9 世紀代の 384 を除き、8 世紀代のものである。

製塙土器 (396~404) はいずれも棒状底突タイプのものである。C7・C9 グリッドからまとまって出土している。輪積み痕と指頭圧痕を明瞭に残し、398 はハケメを施す。口縁部は直線的に開くもの、内清気味のもの、短く外反するものがある。

土錘 (405~411) は管状土錘である。長さ 2.7cm、孔径 0.3cm の 406、長さ 4.3cm、孔径 0.3cm の 410 は例外的な小品である。長さ 5.0cm、最大径 3.6cm、孔径 1.0cm の 409 が最も多いサイズで、端部が面取りされる太形のものである。同形のものを多数出土した SD29 の E9 グリッド付近で出土している。

412 は土馬の可能性がある土製品である。胴部から脚部付近と思われるが摩耗が顕著である。

413 は石錘、414 は砥石、415 は鉄滓である。415 は輪羽口の先端が薄く剥離したもの可能性もある。

中世

珠洲焼が少量出土している。擂鉢が D4・D8・H3 グリッドから、壺が B8・E5 グリッドから各 1 点ずつ出土した。

第V章　まとめ

今回の調査地点は古代の掘立柱建物を多数検出した昭和60年度調査産田地区の南側に位置することから、当初は同様の建物群の検出が想定された。しかし低地へと移行する地形の影響もあって、掘立柱建物は1棟にとどまり、用水路が多数検出される状況は昭和62年度調査の中出地区の様相に近いものであった。今回の調査地点は集落の南西縁にあたると考えられる。検出された遺構は掘立柱建物1棟、柵2条、溝39条、土坑27基、ピット229基などである。遺物の大半が奈良時代で、遺構の切り合いも少ないと考えられる。

南区で検出された掘立柱建物 SB01 と柵 SA01・02 は柱筋や方位の一一致から同時存在と考えられる。SB01 の周囲は、柵以外にも流路と道路遺構によって区画されていた。道路遺構の側溝と考えられる溝 SD25・29 は、集落中心部に向かう方位を示しており、SB01 と集落中心部を結ぶ道路であったと考えられる。また流路 SD01～06 は低湿地との境を流れている。このように SB01 は集落中心部から離れて単独で立地し、周囲を囲繞される特殊な建物であったと判断される。北区から中央区にかけては、北西から南東方向へ流れる溝が多数検出された。奈良・平安時代の同様の溝が昭和60・62年度調査ですでに検出されており、掘立柱建物を避けるように屈曲する部分や堰状遺構による分水が確認されたことから、人工的に掘削された灌漑用水路と考えられている。今回検出した溝は、その下流にあたり、南東部の低地に至ると検出されなくなることから、南東部の低地に水田城が広がると考えられる。溝は出土遺物が少なく時期決定が難しいが、一時期の用水路としては数が多いので、一部は平安時代に下る可能性もある。また北区の SD11 や南区の SD08・10 も切り合いが新しく、平安時代の可能性が残る。

南区の道路遺構 SD25・29 は炭化物を多く含む土で埋没している。周辺の SK01・19 にも同様の形跡があり、柵 SA01 の柱根の上端が炭化していることからも、SB01 に関連する遺構は奈良時代末頃までに焼失ないし廃絶したと考えられる。故意に破碎した須恵器杯蓋の破片が広範囲で接合したことからも、廃絶が人為的なものであったことが窺われる。この廃絶は、飛鳥・奈良・平安時代を通じた集落の西進に連動している可能性があり、本調査区一帯は平安時代以降、次第に水田城へと変化していったものと考えられる。

出土した遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、製塙土器、土錐などがある。弥生時代後期から古墳時代前期にかけての土器は、調査区内に散在し目立った傾向はないが、事前の試掘調査結果に加え、昭和57年度調査区でのまとまった出土や、昭和60年度調査区東側の弥生時代後期の溝、古墳時代前期の井戸の検出をみると、今回の調査対象地の東方に一定の分布が想定される。古墳時代後期から飛鳥時代の土器も少量で、居住域とは距離を置くようである。遺物が増えるのは奈良時代で、とくに南区の道路遺構周辺に多い。SB01 南西側の流路付近では、赤彩や黒色処理を施した土師器杯・高杯の出土が目立ち、また黒色土器は灯明具として利用されるものがあった。これらの供膳具は SB01 に関連した遺物と考えられる。製塙土器は棒状尖底タイプに限定され、8世紀後半以降に増加していく平底タイプは出土していない。

本調査によって、これまでの調査で検出されていた飛鳥～平安時代の建物群が南へ広がらないことが明らかとなった。それは低地に近くなる地形に制約されたもので、建物群の外縁には灌漑用水路が掘削され、より水田域に近い場所であったことが分かる。ただし、奈良時代に限っては集落中心から道路遺構が部分的に延び、その後には柵と流路で区画された内側に規模の小さな柱状建物 SB01 が単独で存在した。SB01 の性格については一般的な倉とは考えにくく、付載で後述するような宗教的な施設の可能性も考慮しながら、周辺の発掘調査を持って再検討すべきものと考えられる。

【参考文献】

- 小矢都市 2002 「小矢都市史－おやべ風土記編－」
- 小矢都市教育委員会ほか 1980 「小矢都市埋蔵文化財分布調査概報 1979 年度」
- 小矢都市教育委員会ほか 1981 「小矢都市埋蔵文化財分布調査概報 II 1980 年度」
- 小矢都市教育委員会 1983 「桜町遺跡（産田地区）」
- 小矢都市教育委員会 1984 「桜町遺跡－城山都市下水路新設に伴う産田地区的調査－」
- 小矢都市教育委員会 1985 「桜町遺跡－産田地区発掘調査概報－」
- 小矢都市教育委員会 1987 「桜町遺跡－県道改良工事に伴う雀谷地区的調査－」
- 小矢都市教育委員会 1989 「桜町遺跡－県道改良工事に伴う深沢地区的調査－」
- 小矢都市教育委員会 1990 「桜町遺跡－船岡地区の重要遺跡確認緊急調査－」
- 小矢都市教育委員会 1994 「平成 5 年度小矢都市埋蔵文化財発掘調査概報」
- 小矢都市教育委員会 2003 「桜町遺跡発掘調査報告書 弥生・古墳・古代・中世編 I」
- 小矢都市教育委員会 2004 「桜町遺跡発掘調査報告書 縄文遺構編 I 弥生・古墳・古代・中世編 II」
- 小矢都市教育委員会 2009 「桜町遺跡発掘調査報告書－小矢都市道の駅整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査－」
- 小矢都市教育委員会 2015 「富山県小矢都市 平成 26 年度小矢都市埋蔵文化財発掘調査概報」
- 小矢都市教育委員会 2015 「桜町遺跡発掘調査報告書－道の駅メルヘンおやべ駐車場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査－」

第2表 遺構一覧表①

遺構名	地区	グリッド	長径×短径×深さ 単位:m SK:cm	出土遺物												備考 その他の遺物		
				土器群				須恵器				製陶工芸						
				杯	高杯	鉢	盞	盤・瓶	杯	高杯	色・瓶	便	大	小				
SB01	南	C7-C8-E6		中SF-31-32+34-35+40-41+42を参照														
SB01	南	B7-C7		中SF-1-3+4-6+8-10を参照														
SB02	南	D8		中SF-4-5+36-37を参照														
SK01	南	C9-E9	209m170m20	1 0 0 1 0 0 0 0 0 0 1 0 2 1 0 0 0 0 0	桃核(定形1)													
SK02	中央	B5	195m157m25	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 5 2 49 2 2 5 0 1 6 0 0 0														
SK03	中央	B5	207m120m18	1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 0 16 0 3 0 0 1 0 0 0 0														
SK04	中央	C5-B5	118m84m18	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 11 0 12 0 0 1 0 0 0 0														
SK05	中央	D5-E6	105m64m42	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 2 0 11 4 0 0 0 0 0 0 0 0														
SK06	南	E7	203m167m27	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 0 4 0 0 0 1 0 0 1 0 0														
SK07	南	E7	157m93m26	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 8 4 28 0 0 1 0 0 2 0 0 0														
SK08	南	E7	99m40m11	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 10 0 0 1 0 0 0 0 0 0														
SK09	中央	G5-H6	356m197m15	0 0 2 0 0 0 0 0 0 0 0 10 0 1 127 0 5 0 0 0 0 0 0														
SK10	中央	F5	229m147m11	0 0 1 0 1 0 0 0 0 0 2 0 0 38 2 0 2 0 1 0 0 0 0														
SK11	南	F7	531m127m8	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 6 1 32 1 0 3 0 0 2 0 0 0														
SK12	西	C1	106m50m16	0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 5 0 20 0 1 1 0 0 0 0 0 0 0														
SK13	西	C1	150m90m16	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 17 0 1 1 0 0 0 0 0 0														
SK14	西	B1	150m153m21	1 0 2 2 0 0 0 0 0 0 20 8 58 2 1 1 0 2 1 0 0 0 0														
SK15	西	C1	180m153m11	0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 1 0 16 0 0 0 0 0 0 0 0 0														
SK16	西	C1	169m153m12	1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 3 1 31 1 2 2 0 0 1 0 0 0														
SK17	東	F8	219m747m10	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 5 1 12 0 0 0 0 0 3 0 0 0														
SK18	南	E7-F7	238m289m11	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 15 0 1 1 0 0 0 0 0 0 0														
SK19	中央	F5-G5	346m200m20	0 0 1 0 4 1 0 0 0 0 28 6 232 8 4 4 0 1 0 0 0 0	桃核(定形1)													
SK20	中央	F5	208m94m12	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 7 0 0 2 0 0 0 0 0 0														
SK21	南	F9	429m88m11	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 9 0 0 0 0 1 2 0 0 0 0 0	桃核(定形1)													
SK22	中央	G5	109m75m6	0 0														
SK23	中央	G5	219m50m11	0 0 4 0 2 0 0 0 1 0 4 3 39 0 0 0 0 0 0 0 0 0	石灰1,アミ(複数)													
SK24	南	F8	157m83m13	0 0														
SK25	南	F8	87m75m9	3 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 18 1 0 0 0 0 0 0 0 0														
SK26	南	E9	209m104m21	1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 11 0 0 0 0 0 0 0 0 0														
SK27	南	E9	99m46m46	0 0														
SB01	南	B9-C10	20.0m3.0m3.0	0 3 0 0 0 0 0 0 0 0 0 2 0 10 0 0 4 0 2 2 0 0	桃核(定形2,複数)													
SB02	南	B9-C10	24.9m1.0m4.0	0 12 8 3 0 0 0 0 0 0 23 6 114 0 10 25 0 4 1 31 0	桃核(定形2,複数)													
SB03	南	B9-C10	27.6m1.0m4.0	0 15 8 8 0 1 0 0 0 0 10 2 54 6 5 10 0 0 5 14 0	桃核(定形2,複数)													
SB04-2	南	B9-B9	0 0	△SB02-3重複部分														
SB04	南	B9-C10	29.0m6.0m3.0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 16 0 0 1 0 0 0 0 0 0	桃核(定形2,複数)													
SB05	南	C9	6.0m1.0m6.0	0 0														
SB06	南	B9-C10	9.9m3.0m3.0	0 0														
SB07	南	B9-C10	30.0m6.0m4.0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 4 0 1 3 0 0 0 0														
SB08	北	D8	0 0															
SB09	北	C9	17.6m1.0m4.0	0 0														
SB10	南	D9	17.6m1.0m4.0	0 0														
SB11	南	D9-E10	0 0															
SB12	北	C9	17.6m1.0m4.0	0 0														
SB13	南	D9-E10	0 0															
SB14	北	C9	17.6m1.0m4.0	0 0														
SB15	北	B4-C4	-0.7m4.0m20	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 2 13 0 1 2 0 0 0 0														
SB16	北	B4-C4	30.2m20.0m30	4 2 4 1 1 0 0 0 1 0 1 0 1 154 5 7 2 0 3 5 0 0 0	桃核(定形2,複数)													
SB17	北	B4-C4	73.0m6.0m40	0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 9 0 2 0 0 0 0 0 0														
SB18	北	B4-C4	45.5m6.0m30	2 0 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 10 3 6 0 0 4 6 0 0 0	桃核(定形1)													
SB19	北	B4-C4	0 0															
SB20	北	C3	40.7m6.0m15	0 0														
SB21	北	C3	40.7m6.0m20	0 0														
SB22	中央	B9-C10	39.6m12.0m32	0 0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 1 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0														
SB23	南	B9-C10	39.6m6.0m35	0 0														
SB24	中央	B9-C10	39.6m6.0m45	0 0														
SB25	北	E8-E8	10.1m2.0m0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 24 2 181 3 6 4 0 0 4 0 0	桃核(定形2,複数)													
SB26	南	E8-E8	24.4m4.0m0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 57 9 625 14 4 30 0 2 4 0 0	桃核(定形2,複数)													
SB27	南	E8-E8	2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 7 2 72 3 1 3 0 0 1 0 0	桃核(定形2,複数)														
SB28	北	E8	1 0 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 16 0 40 0 2 1 0 0 2 0 0 0	桃核(定形2,複数)														
SB29	南	E8-E9	21.5m1.0m40	2 11 6 0 0 0 1 0 0 0 0 19 5 128 6 4 4 0 0 1 0 0	桃核(定形1,複数)													
SB30	南	E8-E9	4 11 6 1 0 1 2 0 1 0 1 39 4 274 5 1 0 0 3 6 0 0 0	桃核(定形1,複数)														
SB31	南	E8-E9	0 0 1 0 0 1 0 0 0 0 0 2 0 29 0 2 0 0 0 0 0 0 1 0	△SB09+3重複部分														
SB32	南	E9-E10	8.0m3.0m40	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 25 1 144 4 5 1 0 1 1 0 0 0														
SB33	北	E9-E9	2 1 0 1 0 2 0 0 0 0 0 0 11 4 156 2 5 6 0 2 0 0 0 0 1															
SB34	北	E9-E9	9 2 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 17 4 144 8 3 4 0 2 7 1 0 0	桃核(定形1,複数)														
SB35	北	E7-E8	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 5 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0	桃核(定形1,複数)														
SB36	中央	E8-E9	31.0m1.0m40	9 0 1 0 0 1 0 0 0 0 0 51 14 261 4 7 16 0 14 19 0 37 1	△SB09+3重複部分													
SB37	南	E9-E10	15 6 0 2 1 0 1 0 0 0 0 0 2 151 15 6 17 0 1 1 6 0 0 0															

第3表 造構一覧表(2)

造構名	地区	グリッド	長径×短径×高さ m:m:m S:W:E	出土遺物												備考 その他の遺物						
				土器部				須色器				土類										
				杯	高盆	鉢	盞	便・鍋・瓶	皿	杯A	高杯	世・瓶	便	製陶工場	大	小						
SB00	南	DB-E8	5.30x0.90x.11	0	1	0	0	0	0	0	0	12	4	94	0	1	0	0	0	0		
SB01北	南	E7-E8	12.60x0.90x.12	1	1	1	0	0	0	0	0	7	0	41	0	2	0	0	1	0		
SB01南	南	E8	2	0	1	0	0	0	0	0	0	4	5	57	4	0	1	0	0	4	0	
SB02北	南	E8	6.00x0.60x.04	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	
SB02南	南	E8	2.30x0.80x.09	2	0	0	0	0	0	0	0	5	0	41	1	0	4	0	0	1	0	
SB03	南	E8	5.20x0.80x.13	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	16	0	0	1	0	0	0	0	
SB04東	南	E8	5.20x0.80x.13	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	8	0	0	2	0	0	1	0	
SB04西	南	E8	5.20x0.80x.13	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	8	0	0	2	0	0	1	0	
SB05	南	E7-F7	2.50x0.70x.03	0	0	0	0	0	0	0	1	1	10	0	0	0	1	0	0	0	0	
SB06	南	E7	5.50x0.50x.08	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	1	0	0	0	0	
SB07	南	E8	4.10x0.40x.09	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
SB08	南	E8-E7	2.80x0.50x.05	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	
SB09	南	CB-08-E9	6.20x0.50x.13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP1	南	E7	4.20x0.20x.09	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP2	南	E7	3.40x0.09x.17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP3	南	E7	7.00x0.60x.11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1	0	0	0	0	0	0	0	
SP4	南	C7	3.00x0.20x.09	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP5	南	C7	2.00x0.10x.09	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP6	南	C7	3.00x0.20x.09	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP7	南	C7	5.00x0.20x.09	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP8	南	C7	5.60x0.20x.09	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	1	0	0	0	0	
SP9	南	C7	3.00x0.20x.09	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	
SP10	南	C7	6.00x0.50x.02	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP11	南	C7	2.00x0.20x.08	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP12	南	C7	4.00x0.60x.17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP13	南	C7	3.20x0.20x.03	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP14	南	C7	4.60x0.40x.01	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP15	南	C7	3.60x0.14x.06	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP16	南	C7	3.00x0.20x.08	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP17	南	C7	4.60x0.20x.03	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP18	南	C7	2.00x0.16x.13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP19	南	C7	2.40x0.20x.09	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP20	南	B8	3.00x0.20x.02	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP21	南	B8	5.00x0.44x.01	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP22	南	B7-C7	4.90x0.00x.02	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP23	南	C7	8.00x0.60x.23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP24	南	C7	10.00x0.30x.25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP25	南	C8	5.00x0.40x.29	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	2	0	0	0	0	0	0	0	
SP26	南	C8	5.40x0.50x.26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP27	南	B8	2.40x0.44x.45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	
SP28	南	B8	6.00x0.56x.34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP29	南	B8	4.40x0.36x.28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	
SP30	南	C8	6.00x0.54x.03	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	
SP31	南	CB-B8	6.00x0.50x.01	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	0	0	0	0	0	0	
SP32	南	C8	11.00x0.14x.08	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP33	南	B8	3.00x0.20x.02	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	
SP34	南	C8	5.00x0.50x.03	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
SP35	南	C8	5.00x0.46x.29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	
SP36	南	C8	6.00x0.50x.03	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	
SP37	南	C8	7.00x0.20x.36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	
SP38	南	C8	6.00x0.48x.02	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	1	0	2	0	0	
SP39	南	C7-C8	5.00x0.42x.45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	
SP40	南	C8	14.00x0.16x.16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP41	南	C8	5.00x0.20x.17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
SP42	南	C8	5.60x0.20x.07	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP43	南	C8	4.00x0.20x.07	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP44	南	C8	3.00x0.20x.05	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP45	南	C8	2.00x0.10x.02	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP46	南	B7	6.00x0.60x.07	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1	0	0	0	0	0	0	
SP47	南	C8	6.00x0.36x.03	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP48	南	C8	5.00x0.45x.42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP49	南	C8	5.00x0.45x.42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	0	0	1	0	
SP50	南	C8	6.00x0.60x.30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP51	南	C8	18.00x0.17x.09	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP52	南	C8	2.00x0.00x.019	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP53	南	C8	2.00x0.00x.008	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP54	南	C8	2.00x0.00x.006	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP55	南	B8	4.00x0.00x.019	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP56	中央	C6	10.00x0.50x.050	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
SP57	南	B8	6.00x0.00x.033	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
SP58	南	B8	3.00x0.00x.026	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP59	南	B8	8.00x0.00x.046	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

第4表 遺構一覧表③

遺構名	地区	グリッド	長径×幅径×厚さ (単位:cm)	出土遺物												備考 その他の遺物			
				土器部				須恵器				製陶工芸							
				杯	高杯	鉢	壺	蓋	漆・油	口盤	底盤	柄部	面	杯形	杯A	高杯	色・模	便	
SP60	南	C8	25×22×24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP61	南	C8	18×17×16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP62	南	C8	22×20×17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP63	南	C8	30×28×6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP64	南	C8	26×22×6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP65	南	D8	50×46×30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP66	南	D8	24×22×6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP67	南	D8	20×18×12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP68	南	D8	30×30×31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP69	南	D8	56×26×35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP70	中央	C5	52×46×10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP71	中央	C5	46×38×24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP72	中央	C5	53×34×26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP73	中央	C6	23×11×11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP74	中央	C6	52×46×15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP75	中央	C6	48×41×22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP76	中央	C6	68×60×31	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP77	中央	C6	46×38×15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP78	中央	C6	29×26×17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP79	中央	C6	57×37×19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP80	中央	C6	52×48×18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP81	中央	C6	37×29×24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP82	中央	C6	57×31×19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP83	中央	C6	38×38×10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP84	中央	C6	40×39×20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP85	中央	C6	32×20×13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP86	中央	C6	30×30×12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP87	中央	C6	14×14×9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP88	中央	C6	12×12×8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP89	中央	C6	29×27×29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP90	中央	C6	55×32×19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP91	中央	C6	50×49×21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP92	中央	C6	49×46×17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP93	中央	C6	53×30×12	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP94	中央	C6	61×60×21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP95	中央	C6	65×52×26	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SP96	中央	C6	37×35·511	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP97	中央	C6	49×31×17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP98	中央	C6	28×25·514	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP99	中央	C6	28×26·111	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP100	中央	C6	49×38·19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP101	中央	C6	56×53·19	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP102	南	南	24×24·197	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP103	南	南	18×18·196	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP104	南	C8	15×14·46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP105	南	C8	30×19·20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP106	中央	C5	16×17·41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP107	中央	C6	40×38·111	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP108	中央	C6	60×43·10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP109	中央	C6	62×63·99	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP110	中央	C5	62×58·17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP111	中央	C6	80×27·19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP112	中央	C6	32×30·111	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP113	中央	C6	28×25·99	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP114	中央	C6	17×14·47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP115	中央	C5	25×25·112	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP116	中央	C5	27×24·119	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP117	中央	C5	80×18·16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP118	中央	C5	27×24·96	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP119	中央	B5	54×50·19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP120	中央	B6	22×21·45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP121	中央	B6	58×48·26	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
SP122	中央	B6	24×20·3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
SP123	中央	B6	37×30·47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
SP124	中央	B6	20×28·97	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP125	中央	B6	42×36·16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP126	中央	B6	56×42·17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP127	中央	B6	67×60·10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
SP128	中央	B6	63×38·13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP129	中央	B5	67×61·14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP130	中央	B5	90×65·20	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
SP131	中央	E5	30×28·14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第5表 遺構一覧表(4)

遺構名	地区	グリッド	長径×短径×深さ (単位:m)	出土遺物												備考 その他の遺物				
				土器部				須色器				便・鏡・瓶				土器 土器 土器	杯A	高杯	世・瓶	便
				手取 手取 手取	手取 手取 手取	内底 内底 内底	高部 高部 高部	鉢 鉢 鉢	壺 壺 壺	蓋 蓋 蓋	D器部 D器部 D器部	鏡部 鏡部 鏡部	瓶 瓶 瓶	便 便 便						
SP132 中央 E6	中央	E6	90x31x8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP133 南 D8	南	D8	55x50x7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP134 南 D8	南	D8	71x17x5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP135 南 D8	南	D8	20x18x7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP136 南 D8	南	D8	27x25x4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP137 中央 E4	中央	E4	45x42x4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP138 中央 E4	中央	E4	52x47x22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP139 中央 E5	中央	E5	36x26x14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP140 中央 E5	中央	E5	45x48x13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP141 中央 E5+9	中央	E5+9	60x56x21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP142 中央 F5	中央	F5	60x58x10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP143 中央 F5	中央	F5	82x73x11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP144 中央 F5	中央	F5	42x42x11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP145 中央 F5	中央	F5	72x57x6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP146 中央 F5	中央	F5	54x50x13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP147 中央 F5	中央	F5	50x48x32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP148 中央 F5	中央	F5	20x63x21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP149 中央 F5	中央	F5	105x29x10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP150 中央 F5	中央	F5	109x19x17	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	135	0	0	1	0	0	1
SP151 中央 F5	中央	F5	41x38x15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP152 中央 F5	中央	F5	47x40x13	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP153 中央 F5	中央	F5	65x57x23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP154 中央 G4	中央	G4	60x57x2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP155 中央 G4	中央	G4	39x38x11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
SP156 中央 G5	中央	G5	52x49x1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP157 中央 F5	中央	F5	54x36x19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP158 中央 F5	中央	F5	48x37x20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
SP159 中央 F5	中央	F5	64x54x21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	14	1	0	0	0	0
SP160 中央 F5	中央	F5	29x28x19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP161 中央 F5	中央	F5	58x47x29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	15	0	1	0	0	0	0
SP162 中央 F5	中央	F5	18x14x12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP163 中央 F5	中央	F5	22x21x24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0
SP164 中央 F5	中央	F5	30x28x18	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
SP165 中央 F5	中央	F5	24x22x17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
SP166 中央 F5	中央	F5	24x20x11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP167 中央 F5	中央	F5	23x17x16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
SP168 中央 F6	中央	F6	85x50x20	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	9	0	0	1	0	0	0
SP169 中央 F6	中央	F6	17x46x11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP170 中央 F6	中央	F6	23x19x6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP171 中央 F6	中央	F6	46x49x15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
SP172 中央 F5	中央	F5	38x33x16	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
SP173 中央 F5	中央	F5	55x53x34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0
SP174 中央 F5	中央	F5	20x29x22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP175 中央 F5	中央	F5	60x49x22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	1	0	0	0	0	0
SP176 中央 F5	中央	F5	27x29x9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP177 中央 F5	中央	F5	47x41x12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
SP178 矢器																				
SP179 中央 F5+6	中央	F5+6	40x37x12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
SP180 中央 F6	中央	F6	37x31x8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP181 中央 G6	中央	G6	46x39x24	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	7	0	0	0	0	0
SP182 中央 G6	中央	G6	25x23x29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
SP183 中央 G6	中央	G6	50x50x11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	32	0	0	0	0
SP184 中央 G6	中央	G6	23x23x10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0
SP185 中央 F5	中央	F5	69x69x5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
SP186 中央 F5	中央	F5	56x49x5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP187 中央 F5	中央	F5	45x43x10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	0	0	0	0	0
SP188 中央 G5	中央	G5	49x45x13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP189 中央 G5	中央	G5	35x30x3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP190 中央 G5	中央	G5	62x50x4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4	0	0	0	0
SP191 中央 G5	中央	G5	19x15x2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP192 中央 G5	中央	G5	31x27x6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
SP193 中央 G5	中央	G5	36x33x22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SP194 中央 G5	中央	G5	37x34x19	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0
SP195 中央 G5	中央	G5	37x27x4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
SP196 中央 G5	中央	G5	54x41x9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
SP197 中央 G5	中央	G5	37x37x7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
SP198 中央 G5	中央	G5	34x40x14	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
SP199 西 A3	西	A3	52x33x20	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	10	0	1	0	0
SP200 西 A3	西	A3	49x33x5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
SP201 西 A2	西	A2	50x47x8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
SP202 西 B1	西	B1	48x46x18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0
SP203 中央 G5	中央	G5	45x42x13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0

第6表 遺構一覧表(5)

遺構名	地区	グリッド	長径×短径×厚さ (単位:cm)	出土遺物												備考 その他の遺物					
				土器部				須恵器				製陶工芸									
				杯	高杯	鉢	壺	蓋	漆・油・紙	杯	鉢A	高杯	色・板	便	大	小					
SF204	西	C1	614x4515	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	6	0	0	0	0	0	0	0
SF205	南	E8	454x4541	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SF206	南	E8	729x5418	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0
SF207	南	E8	406x3095	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	6	1	0	0	0	0	0	0
SF208	南	B8	36x3494	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0
SF209	南	B10	236x2391	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
SF210	南	B10	309x2893	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
SF211	南	B9	209x19410	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
SF212	南	E7	728x5516	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0
SF213	南	E7	276x144	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SF214	南	E7	406x594	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
SF215	南	E7	350x483	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
SF216	南	E7	689x466	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SF217	南	E7	1429x93	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
SF218	南	E7	5248x10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	9	0	1	0	0	0	0
SF219	南	E8	407x3747	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
SF220	南	B8	288x2244	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SF221	南	B8	569x4493	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
SF222	南	D7-08	189x1846	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SF223	南	B8	289x2443	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SF224	南	B7	726x7288	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0
SF225	南	B8	458x39415	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5	0	1	0	0	0	0
SF226	中央	C6	339x992	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
SF227	中央	C5	588x538	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0
SF228	北	B3	380x5913	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SF229	北	F4	646x1832	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SF230	南	E9	424x39414	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
SM01	北	IC3-C4	140x140x50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0

第16表 出土遺物一覧表(9)

編番	写真 国版 番号	遺物 名	地区	遺構・層位	種類	器種	口径 cm	深さ cm	底径 cm	成形・調整等の特徴	色調	胎土	時期	備考
27	19	401	南	包合層C7	製陶土29	-	-	-	-	外表面粗面状、内面輪幅みぞ、ナ	灰	白色粘	内外面被熱	
27	19	402	南	包合層C7	製陶土29	-	-	-	-	外表面粗面状、内面輪幅みぞ、内面輪	灰黄褐	白色粘	外面部付着、内面被熱	
27	19	403	南	包合層C9	製陶土29	-	-	-	-	外表面粗面状、内面輪幅みぞ、ナ	黄灰	白色粘・骨針	外面部付着、内面被熱	
27	19	404	南	包合層C9	製陶土29	-	-	-	-	外表面粗面状、内面ナゲ	灰黄	白色粘	外面部被熱	
27	19	405	西	包合層A2	土製品	土師	長5.3、幅3.0、厚2.7	-	-	-	灰黄	石粉・白色粘	孔径8.5mm、重さ30.4kg	
27	19	406	南	包合層B10	土製品	土師	長2.7、幅0.9、厚0.9	-	-	-	浅黄	非耐火粘	孔径10mm、重さ1.6kg	
27	19	407	北	包合層B4	土製品	土師	長4.0、幅1.9、厚1.9	-	-	-	灰黄	石粉・白色粘	孔径8.5mm、重さ10.5kg	
27	19	408	南	包合層C7	土製品	土師	長3.5、幅2.0、厚1.9	-	-	-	浅黄	石粉・白色粘	孔径8.5mm、重さ11.7kg	
27	19	409	南	包合層E9	土製品	土師	長5.0、幅3.4、厚3.6	-	-	-	灰黄	石粉・白色粘	孔径10mm、重さ51.4kg	
27	19	410	中央	包合層E6	土製品	土師	長4.3、幅1.2、厚1.3	-	-	-	灰黄	白色粘	孔径10mm、重さ6.32kg	
27	19	411	東	包合層E5	土製品	土師	長4.4、幅3.1、厚3.1	-	-	-	灰黄	白色粘・骨針	孔径10mm、重さ30.7kg	
27	18	412	北	包合層C4	土製品	土師	ナ	-	-	胴部から脚部	浅黄褐	玉砂・白色粘・骨針		
27	18	413	中央	包合層E6	石製品	石錐	長5.5、幅5.3、厚2.0	-	-	-	-	-	重さ81.25g	
27	18	414	南	包合層E9	石製品	砾石	長5.2、幅5.4、厚1.3	-	-	-	-	-	重さ38.87g	
27	18	415	南	包合層E8	鉄滓	ナ	長5.0、幅5.1、厚1.3	-	-	輪沿口からの剥落ナ	-	-	重さ18.87g	
26	春百	416	中央	包合層G6	土師器	皿	-	-	-	内面黑色処理	灰	白色粘・骨針	8世紀	

第7表 包含層出土遺物一覧表

-	地区	グリッド	-		出土遺物													備考 その他の遺物			
					土師器						瓦・調理器							陶器 土器	土種 大・小		
					杯	高杯	内壺	外壺	手取	内壺	鉢	蓋	盞	束・調理器	高杯	内壺	手取				
西	A2				0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	1	0
西	B1				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0
北	B3				0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	1	0	0
北	B4				2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6	0	2	0
中央	B5				0	2	0	0	1	0	0	0	0	2	4	48	0	0	1	0	0
中央	B6				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
南	B7				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0
南	B8				0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0
南	B9				4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37	2	2	0	1
西	C1				2	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	55	1	2	5	0	1
北	C3				5	0	0	0	1	0	0	0	0	5	0	67	7	4	15	0	945
北	C4				13	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	101	1	1	1	0	5
中央	C5				6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	5	106	9	7	9
中央	C6				0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	41	5	2	4	0	4	7
南	C7				0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	2	46	3	6	6	0	4
南	C8				0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	15	2	1	0	0	2
南	C9				2	15	6	1	1	0	0	0	0	10	1	69	1	5	5	0	1
南	C10				2	2	0	0	0	0	0	0	0	5	0	87	0	0	1	0	0
西	B1				0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	12	0	2	1	0	1
北	B3				0	0	3	0	0	0	0	0	0	9	0	32	2	0	1	0	10
北	B4				0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	1	60	1	4	5	0	9
中央	B5				6	0	0	0	1	0	0	0	0	11	5	96	6	10	26	0	1120
中央	B6				2	1	1	0	0	1	0	0	0	15	7	180	6	1	14	0	0
南	B7				6	0	0	1	0	0	0	0	0	20	5	82	2	2	5	0	0
南	B8				16	1	0	1	0	0	1	0	0	52	17	451	16	14	19	0	6
南	B9				52	11	8	0	1	0	0	0	0	159	28	844	25	37	67	0	22
南	B10				3	3	1	1	0	0	0	0	0	48	13	292	12	25	32	0	2
西	E1				2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	14	0	0	0	0	0
北	E3				0	0	3	0	0	0	0	0	0	4	0	22	0	2	5	0	3
北	E4				0	2	0	0	0	0	0	0	0	8	0	63	0	3	3	0	1
中央	E5				3	0	1	0	0	0	0	0	0	12	1	154	4	7	11	0	16
中央	E6				6	0	4	0	0	0	0	0	0	6	2	80	6	6	6	0	9
南	E7				1	2	0	0	0	0	0	0	0	26	12	209	3	6	14	0	1
南	E8				17	0	3	1	0	0	0	0	0	52	16	461	12	21	29	0	30
南	E9				19	2	2	0	0	0	0	1	0	41	11	343	12	20	23	0	18
南	E10				0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	10	1	1	2	0	1
西	F1				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0
北	F2				2	0	0	0	0	0	0	0	0	17	8	116	3	0	3	0	1
北	F4				2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	27	0	0	4	0	1
中央	F5				7	0	2	0	0	0	0	0	0	24	6	215	12	9	11	0	4
中央	F6				6	0	2	0	0	0	0	0	0	14	1	158	6	4	7	0	1
南	F7				1	0	1	0	1	0	0	0	0	40	3	211	1	3	1	0	3
南	F8				2	0	0	0	0	0	0	0	0	23	6	121	7	15	5	0	15
南	F9				1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	19	3	1	1	0	1
南	F10				0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	33	2	1	1	0	1
北	G3				0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	15	1	1	0	0	0
北	G4				0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	39	1	0	0	0	0
中央	G5				5	2	0	0	2	4	0	0	0	31	12	269	15	19	36	0	6
中央	G6				4	0	1	0	0	2	0	0	0	19	2	153	3	7	1	0	3
南	G7				0	2	0	0	1	0	1	0	5	0	34	1	0	2	0	1	
南	G8				0	1	0	0	0	1	0	0	4	0	0	16	0	0	1	0	0
南	G9				5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	6	0	0	1	0	0
南	G10				1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
北	R3				1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	1
北	R4				1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
中央	R5				0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5	1	2	0	0	0
中央	R6				1	0	2	0	0	0	0	0	0	8	2	34	0	5	2	0	1
南	R7				0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0
南	R8				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南	R10				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
東	L4				0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
東	M5				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
東	M6				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第8表 出土遺物一覧表①

編號	写真 図版	遺物 番号	出土地点 名	遺構・層位	種類	器種	口径 cm	器高 cm	底径 cm	成形・調整等の特徴	色調	胎土	時期	備考
12	8	1	南	SP30(SB01)	土師器	便	(15.0)	-	-	にぶい黄褐色	石英・白色粒	8世紀後半		
12	8	2	南	SP8(SA01)	土師器	便	-	-	-	にぶい黄褐色	石英・骨粉	8世紀後半	内外面保有	
12	8	3	南	SPW(SA01)	土師器	便	-	-	-	内外面カキメ	にぶい黒褐色	石英・骨粉	8世紀後半	外面保有
12	20	4	南	SP3(SA01)	木製品	柱根	長53.3、幅23.2、厚17.5							
13	8	5	南	SD01	須恵器	柄A	(13.0)	4.8	-		灰黄～灰白	石英	8世紀後半	
13	8	6	南	SD01, 包含層9	土師器	柄	(16.8)	-	-	内外面ミガキ、内外面赤彩	にぶい黒褐色	石英・白色粒	8世紀	御陣行着の可能性
13	8	7	南	SD02, 包含層10	須恵器	柄B	15.0	4.1	9.2		灰白		8世紀前半	
13	8	8	南	SD02	須恵器	柄A	(13.2)	4.9	-		灰白	石英・白色粒	8世紀後半	御陣行着の可能性
13	8	9	南	SD02	須恵器	柄A	(13.7)	3.6	-		灰黄～灰黒褐色	石英・白色粒	8世紀後半	御陣行着の可能性
13	8	10	南	SD02	須恵器	柄A	(13.7)	-	-		灰～灰白	白色粒	8世紀前半	
13	8	11	南	SD02	須恵器	柄A	(12.2)	2.5	(7.2)	内面自然釉	灰	白色粒	8世紀前半	
13	卷首	12	南	SD02	土師器	柄	-	-	-	内外面ミガキ、内外面赤彩	灰黄	石英・骨粉	8世紀	
13	卷首	13	南	SD02	土師器	柄	-	-	-	外面赤彩、内外面ミガキ・黑色处理	灰黄褐色	石英・白色粒	8世紀	
13	8	14	南	SD02	土師器	便	(21.2)	-	-	胴部外面ナグ、内面ハケメ	灰黄～灰黒褐色	石英・白色粒	8世紀前半	外面保有
13	8	15	南	SD02	土師器	便	(14.4)	-	-	胴部内外面ハケメ	にぶい黒褐色	白色粒	8世紀前半	
13	8	16	南	SD02	土師器	便	(14.0)	-	-		灰白	石英・骨粉	8世紀前半	
13	19	17	南	SD02	製埴土器	-	-	-	内外面粗面压痕・輪縁み痕	にぶい黒褐色	白色粒・骨粉	8世紀	内外面被焼	
13	19	18	南	SD02	製埴土器	-	-	-	内外面輪縁み痕・ナグ	灰黄褐色	白色粒	8世紀	内面被焼	
13	19	19	南	SD02	製埴土器	-	-	-	外面粗面压痕・輪縁み痕、内面輪縁み痕・輪縁ナグ	灰黄褐色	石英・骨粉	8世紀	内外面被焼	
13	卷首	20	南	SD02+03	土師器	高杯	-	-	(4.5)	内外面赤彩剥落	にぶい黒褐色	石英・白色粒	8世紀前半	
13	8	21	南	SD02+03	土師器	高杯	-	-	(21.0)	内面自然釉	灰	白色粒	8世紀後半	
13	8	22	南	SD02+03	土師器	便	-	-	(5.2)	胴部内外面ハケメ	灰～淡黄褐色	石英・白色粒	8世紀前半	外面保有
13	8	23	南	SD03, 包含層10	須恵器	柄B型	(12.0)	-	-	内面自然釉	灰白	石英・白色粒	8世紀前半	
13	8	24	南	SD03	須恵器	柄B型	(16.7)	-	-		灰白	白色粒	8世紀前半	
13	8	25	南	SD03	須恵器	柄B型	(16.8)	-	-	内面部ナグ、各面自然釉	灰～灰白	白色粒	8世紀前半	
13	8	26	南	SD03	須恵器	柄B	(10.4)	2.1	(7.2)		灰		8世紀後半	
13	8	27	南	SD03	須恵器	柄B	-	4.4	-		灰白		8世紀前半	
13	8	28	南	SD03	須恵器	柄A	(13.4)	-	-		灰～にぶい黒褐色	石英・白色粒	8世紀前半	
13	8	29	南	SD03	須恵器	柄A	(12.8)	-	-	内底部ナグ	灰黄	石英・白色粒	8世紀後半	
14	卷首	30	南	SD03	土師器	柄	-	-	-	内外面赤彩	淡黄～黒褐色	石英	8世紀	
14	卷首	31	南	SD03	土師器	柄	(15.2)	(4.6)	-	外表面赤彩、内面ミガキ・黑色处理	灰白	鐵銹	8世紀	御陣行着
14	卷首	32	南	SD03	土師器	柄	(14.4)	-	-	外表面赤彩、内面ミガキ・黑色处理	灰黄	白色粒・骨粉	8世紀	御陣行着
14	卷首	33	南	SD03	土師器	柄	-	-	-	内外面ミガキ、内面黑色处理	にぶい黄褐色	白色粒	8世紀	
14	卷首	34	南	SD03	土師器	柄	(10.6)	(3.4)	-	内面黑色处理	暗灰～灰黒褐色	白色粒	8世紀	御陣行着の可能性
14	卷首	35	南	SD03	土師器	柄	(13.2)	(3.2)	-	内外面ミガキ・黑色处理	灰黄～黒褐色	石英・骨粉	8世紀	御陣行着の可能性
14	卷首	36	南	SD03	土師器	高杯	(14.4)	-	-	内外面赤彩剥落、内面ミガキ・黑色处理	灰黄	石英・骨粉	8世紀	
14	8	37	南	SD03	土師器	高杯	-	-	(9.0)		灰黄	石英・骨粉	8世紀	
14	8	38	南	SD03	土師器	便	(19.0)	-	-	胴部内外面ハケメ後カキメ	にぶい黒褐色	石英・白色粒	8世紀前半	
14	8	39	南	SD03	土師器	便	(17.6)	-	-	胴部内外面ハケメ	にぶい黒褐色	石英・骨粉	8世紀前半	
14	8	40	南	SD03	土師器	便	(20.2)	-	-	胴部外面ナグ・内面ハケメ	灰灰～灰黄	石英・骨粉	8世紀前半	
14	8	41	南	SD03	土師器	便	(17.6)	-	-	胴部外面ナグ・内面ハケメ	にぶい黒褐色	石英	8世紀前半	内外面保有
14	19	42	南	SD03	製埴土器	-	-	-	内面ハケメ	にぶい黒褐色	石英・白色粒	8世紀	内外面被焼・保有者	
14	19	43	南	SD03	製埴土器	-	-	-	外表面粗面压痕・輪縁み痕、内面ナグ	灰黄	白色粒	8世紀		
14	19	44	南	SD03	製埴土器	-	-	-	外面粗面压痕、内面ナグ	石英	白色粒	8世紀	内外面被焼	
14	19	45	南	SD03	土製品	土師	長4.8、幅1.2、厚1.1				灰黄	白色粒・骨粉	礼器23m、重さ6.2kg	
14	9	46	南	SD07	土師器	瓶	-	-	-		浅黄褐色	石英・白色粒	8世紀	
14	9	47	南	SD08中央	須恵器	柄B型	(14.4)	-	-	内底部ナグ、各面自然釉	灰白～灰	白色粒	8世紀前半	
14	9	48	南	SD10北	須恵器	柄B型	-	-	-		灰	白色粒	8世紀	
14	8	49	南	SD10北	須恵器	柄B	-	-	-		灰白～灰		8世紀後半	
14	9	50	南	SD10北	須恵器	長颈瓶	-	-	-	肩部に2条の沈線	灰白	石英・白色粒	8世紀前半	包含層08C同一個体

第9表 出土遺物一覧表(2)

編號	写真 図版 番号	遺物 名	出 所	遺構・層位	種類	器種	口径 cm	器高 cm	底径 cm	成形・調整等の特徴	色調	胎土	時期	備考
14	9	51	北	SD11	須恵器	杯A	(11.6)	3.1	—	灰白～灰	白色粒	8世紀後半		
14	9	52	北	SD11	須恵器	杯A	—	—	—	灰白～灰	白色粒	8世紀後半		
14	9	53	北	SD11	須恵器	杯A	(12.0)	3.3	—	灰白	白色粒	8世紀後半		
14	9	54	北	SD11	須恵器	短頸盃	—	—	—	肩部に2条の洗線、外面自然釉	灰白	無着	9世紀	肩部に重ね焼き痕
14	卷首	55	北	SD11	土師器	杯	(12.6)	—	—	内外面赤彩剥落	灰白	白色粒	8世紀	
14	8	56	北	SD15	須恵器	杯B	—	—	9.5	—	—	—	8世紀前半	
15	9	57	西	SD16	須恵器	短頸盃	(14.8)	—	—	灰	白色粒	8世紀前半		
15	9	58	西	SD16	須恵器	短頸盃	(14.4)	—	—	内面部ナデ	灰～灰白	石英・白色粒	8世紀後半	
15	9	59	北	SD16	須恵器	杯B	(11.5)	2.7	(7.0)	—	—	—	8世紀前半	
15	8	60	北	SD16, SD11	須恵器	杯B	10.3	3.3	9.3	—	—	—	8世紀前半	
15	8	61	北	SD16	須恵器	杯B	(8.4)	2.7	(5.8)	—	—	—	8世紀前半	
15	9	62	北	SD16	須恵器	杯A	(13.2)	4.2	—	灰黄～浅黄	石英・白色粒	8世紀前半		
15	9	63	北	SD16	須恵器	瓶	—	—	—	外面部自然釉	灰白～灰	石英・白色粒	8世紀前半	包含層Cに同一個体
15	9	64	北	SD16	須恵器	瓶	—	—	—	外面部自然釉	灰白～灰	無着・白色粒	8世紀前半	包含層Cに同一個体
15	卷首	65	中央	SD16	土師器	杯	—	3.2	—	外面部赤彩剥落	浅黄	白色粒	8世紀	
15	8	66	北	SD16	土師器	高杯	—	—	—	—	二層・灰黄	石英・白色粒	8世紀	
15	10	67	中央	SD17	須恵器	杯B	—	—	(7.8)	—	—	—	8世紀前半	
15	10	68	中央	SD18	須恵器	杯B	(11.8)	3.5	(7.4)	—	—	—	8世紀前半	
15	9	69	中央	SD22, 包含層C	須恵器	杯A	—	—	(8.6)	内面部自然釉	灰白	白色粒	8世紀前半	
15	9	70	南	SD25中央	須恵器	短頸盃	(13.4)	—	—	内面部ナデ	灰白～灰	石英・骨針	8世紀後半	
15	9	71	南	SD25中央	須恵器	短頸盃	—	—	—	—	灰～灰白	白色粒	8世紀後半	
15	9	72	南	SD25中央	須恵器	短頸盃	—	—	—	外面部自然釉	灰白	白色粒	9世紀	
15	10	73	南	SD25北	須恵器	短頸盃	—	—	(7.5)	—	—	—	8世紀後半	
15	9	74	南	SD25中央	須恵器	杯A	(13.4)	3.1	—	—	灰白～灰	白色粒・小縫	8世紀前半	
15	9	75	南	SD25中央	須恵器	杯A	—	—	—	—	灰白	白色粒	8世紀前半	
15	10	76	南	SD25中央	土師器	便	—	—	—	銅頭内外面ハケメ	灰白～灰黄	石英・骨針	8世紀	
15	10	77	南	SD25中央	土師器	便	—	—	—	—	石英～石英	石英	8世紀後半	外側付着
15	9	78	南	SD26中央・包含層C	須恵器	短頸盃	(15.8)	—	—	—	灰白～灰	石英・白色粒	8世紀前半	外頭部ハコ記号「X」
15	9	79	南	SD26南	須恵器	短頸盃	(14.0)	—	—	—	灰白	白色粒	8世紀前半	
15	10	80	南	SD26北, 包含層C	須恵器	短頸盃	(12.0)	4.4	(8.6)	—	—	—	8世紀後半	
15	10	81	南	SD26北	須恵器	短頸盃	—	—	(8.0)	—	—	—	8世紀後半	
15	10	82	南	SD26北	須恵器	短頸盃	—	—	(7.4)	—	—	—	8世紀前半	
15	10	83	南	SD26南, 5.5m層19-20	須恵器	長頸瓶	—	—	9.9	銅頭タクシ後にクロコケズリ	灰白	石英・白色粒	8世紀前半	
15	9	84	南	SD26南, SD27中央	須恵器	長頸瓶	(12.0)	—	—	—	—	石英・白色粒	8世紀前半	
16	卷首	85	南	SD26南	土師器	杯	(14.8)	4.0	—	内面部黑色処理	灰黄	無着	8世紀	
16	卷首	86	南	SD26南	土師器	高杯	—	—	(9.0)	内面部黑色処理	無着～石英	石英・骨針	8世紀	
16	8	87	南	SD26南	土師器	杯	(15.6)	—	—	—	石英～石英	石英・骨針	8世紀前半	
16	10	88	南	SD26中央	土師器	便	(24.6)	—	—	銅頭内面ハケメ	石英～石英	石英・粗砂	8世紀前半	
16	10	89	南	SD26南	土師器	便	(23.4)	—	—	内面ハケメ	灰白	石英・粗砂	8世紀前半	
16	10	90	南	SD26南	土師器	便	—	—	—	内面ハケメ	石英～黃褐	石英・粗砂	8世紀前半	
16	10	91	南	SD27, SD26中央	須恵器	短頸盃	(14.6)	2.7	—	内面部ナデ	灰白	白色粒・骨針	8世紀前半	
16	10	92	南	SD27, SD26中央	須恵器	短頸盃	(16.0)	—	—	—	灰白	石英	8世紀前半	
16	10	93	南	SD27南	須恵器	短頸盃	(14.4)	—	—	—	灰白	白色粒	8世紀前半	
16	10	94	南	SD27南	土師器	便	(15.2)	—	—	—	二層・灰白	石英・粗砂	8世紀前半	
16	10	95	南	SD28南, SD26中央	須恵器	短頸盃	(15.2)	—	—	内面部ナデ, 外面部自然釉	灰白～灰	白色粒・骨針	8世紀前半	
16	10	96	南	SD28南	須恵器	短頸盃	(13.4)	—	—	—	灰白	白色粒	8世紀前半	
16	10	97	南	SD28北	須恵器	杯B	—	—	(9.0)	—	—	—	8世紀後半	
16	10	98	南	SD28北	須恵器	杯B	—	—	(10.2)	—	—	—	8世紀後半	
16	10	99	南	SD28北, SD27中央	須恵器	杯B	—	—	(9.9)	—	—	—	8世紀後半	
16	8	100	南	SD28南	土師器	杯	—	—	(9.6)	—	—	—	8世紀	

第10表 出土遺物一覧表(③)

編號	写真 図版	遺物 番号	通K	遺構・層位	種類	器種	口径 cm	器高 cm	底径 cm	成形・調整等の特徴	色調	胎土	時期	備考	
16	19	101	南	SB28北	土製品	土糞	長4.7,幅1.6,厚1.6				灰白	石英・白色粒		孔径6mm、重さ10.1kg	
16	10	102	南	SB29南	須恵器	杯B蓋	(14.2)	—	—		灰白	白色粒	8世紀前半		
16	10	103	南	SB29南	須恵器	杯B蓋	(17.7)	—	—	内面部ナデ、外面部自然釉	灰白	白色粒	8世紀前半		
16	10	104	南	SB29中央	須恵器	杯B蓋	(15.6)	—	—		灰白	石英・白色粒	8世紀前半		
16	10	105	南	SB29中央、SD28南 包含層0-87cm	須恵器	杯B蓋	(16.5)	—	—	内面部ナデ	灰白～灰	石英	8世紀後半	内面部敲打後に焼附	
16	10	106	南	SB29南	須恵器	杯B蓋	—	—	—		灰白	石英・白色粒	8世紀		
16	10	107	南	SB29南	須恵器	杯B蓋	(15.5)	2.6	—	内面部ナデ	灰	白色粒・骨針	8世紀前半		
16	10	108	南	SB29中央	須恵器	杯B	—	—	(8.2)		灰		8世紀後半		
16	10	109	南	SB29中央、SD28北 包含層0-87cm	須恵器	杯B	—	—	(10.6)		灰白		8世紀後半		
16	10	110	南	SB29中央	須恵器	杯B	(14.0)	3.6	(9.7)		灰		8世紀前半		
16	11	111	南	SB29中央、包含層0-87cm	須恵器	杯B	(10.6)	4.6	(7.8)		灰白		8世紀後半		
16	10	112	南	SB29南、SD28北 包含層0-87cm	須恵器	杯B	(11.3)	3.5	(8.0)		灰～灰白		8世紀前半		
16	10	113	南	SB29南	須恵器	杯B	(13.4)	3.9	(8.2)		灰		8世紀前半		
17	11	115	南	SB29中央	須恵器	杯A	(12.2)	—	—		灰白		8世紀後半	包含層Fに同一個体	
17	11	116	南	SB29中央、包含層0-87cm	須恵器	杯A	(13.0)	4.2	—		灰白	石英・白色粒	8世紀後半		
17	11	117	南	SB29南	須恵器	杯A	(12.0)	3.7	—		灰白	石英・白色粒	8世紀後半		
17	11	118	南	SB29中央	須恵器	杯A	(14.0)	3.1	—		灰白～灰	白色粒	8世紀前半		
17	11	119	南	SB29中央、包含層0-87cm	須恵器	杯A	(13.4)	3.0	(10.2)		灰白	石英・白色粒	8世紀前半		
17	11	120	南	SB29南、包含層0-87cm	須恵器	杯A	(12.4)	3.0	—		灰白	白色粒	8世紀前半		
17	11	121	南	SB29中央、包含層0-87cm	須恵器	長頸瓶	(8.6)	—	—		灰白	白色粒・骨針	8世紀前半		
17	11	122	南	SB29中央、包含層0-87cm	須恵器	短頸瓶	(13.3)	(17.1)	(11.4)		灰	褐色、白色粒	8世紀	包含層Fに同一個体	
17	11	123	南	SB29中央	土師器	杯	(17.0)	5.0	—		浅黄褐	白色粒	8世紀		
17	11	124	南	SB29中央	土師器	杯	—	—	—		浅黄褐	石英・白色粒	8世紀	同一個体3	
17	11	125	南	SB29南、包含層0-87cm	土師器	甌	—	—	8.6		浅黄	石英・白色粒・骨針	8世紀		
17	11	126	南	SB29	土師器	甌	—	—	(8.0)		浅黄	石英	8世紀後半		
17	11	127	南	SB29中央	土師器	高杯	—	—	—		浅黄	石英・白色粒	8世紀		
17	卷首	128	南	SB29南	土師器	高杯	—	—	—	内面部ガキ・黑色地紋	灰黄	石英・白色粒・骨針	8世紀		
17	12	129	南	SB29中央	土師器	甌	(24.0)	—	—		浅黄褐	石英・白色粒	8世紀	外面部付着	
17	11	130	南	SB29北	土師器	甌	(22.2)	—	—	胴部外面部ガキメ	灰褐～灰黄褐	石英・白色粒・骨針・黑色地紋	8世紀後半	外面部付着	
17	16	131	南	SB01	包含層F	須恵器	杯B蓋	(15.3)	—	—	内面部ナデ	灰白	石英・白色粒	8世紀前半	
17	11	132	南	SB01北	土師器	甌A	(11.6)	2.9	—		灰白	褐色	8世紀後半		
17	8	133	南	SB01北、包含層0-87cm	土師器	甌	—	—	(8.0)		灰白～灰白	白色粒	8世紀		
17	11	134	南	SB01北	土師器	甌	—	—	—	内底部内面ハゲメ	灰白～灰白	石英・白色粒	8世紀後半		
17	11	135	南	SB01北	土師器	甌	—	—	—		灰白	石英・骨針	8世紀		
17	10	136	南	SB02南、包含層0-87cm	須恵器	杯B	—	—	(8.5)		灰白		8世紀後半		
17	11	137	南	SB02南	須恵器	杯A	(13.0)	3.7	—		灰白	石英・白色粒	8世紀後半		
18	10	138	南	SB03	須恵器	杯B蓋	(11.5)	—	—	内面部ナデ	灰白	石英・白色粒	8世紀後半		
18	11	139	南	SB03	須恵器	杯A	(12.4)	3.1	—	内底部ナデ	灰白～灰白	白色粒	8世紀前半		
18	11	140	北	SD01	須恵器	杯A	(11.9)	3.3	—		灰白	白色粒	8世紀後半		
18	8	141	南	SB01	土師器	高杯	—	—	(8.8)		浅黄	石英・骨針	8世紀		
18	12	142	南	SB01	土師器	甌	(17.3)	—	—		灰白～灰褐	石英・骨針	8世紀		
18	12	143	中央	SB02	須恵器	杯B蓋	(11.7)	2.2	—	内底部ナデ	灰白	石英	8世紀前半		
18	12	144	中央	SB02	須恵器	杯B	(11.0)	4.0	(7.9)		青灰		8世紀後半		
18	12	145	中央	SB03	須恵器	杯B	(12.4)	3.4	(8.8)		灰白		8世紀前半		
18	12	146	中央	SB09	須恵器	杯B	—	2.6	(3.8)		灰白		8世紀		
18	12	147	南	SB11	土師器	甌	(11.2)	—	—		灰白～灰褐	石英	8世紀後半		
18	12	148	西	SK14	須恵器	杯B蓋	(13.0)	—	—		灰白～灰白	白色粒	8世紀前半		
18	12	149	西	SK14	須恵器	杯B蓋	(15.5)	—	—	内底部ナデ	灰白	白色粒	8世紀前半		
18	12	150	西	SK14	須恵器	杯B	—	—	(8.2)		灰白		8世紀後半		

第11表 出土遺物一覧表④

編號	写真 図版 番号	遺物 名	地K 位	遺構・層位	種類	器種	口径 cm	器高 cm	底径 cm	成形・調整等の特徴	色調	胎土	時期	備考	
18 8	151	西 SK14	須恵器	便	杯	杯A	(11.8)	2.7	-	灰白	石英・白色粒	8世紀前半			
18 12	152	西 SK14	須恵器	便	杯	杯B	(15.6)	-	-	灰白～青白	石英・骨粉	8世紀後半			
18 12	153	西 SK16, 包含層C1	須恵器	便	杯	杯B	(13.6)	3.6	(10.2)	灰白	8世紀前半				
18 12	154	中央 SK19, 包含層B-E-F	須恵器	便	杯	杯B	17.8	3.2	-	内面部ナガ	灰白	石英・白色粒	8世紀前半	外面部へテ記号「×」	
18 12	155	中央 SK19	須恵器	便	杯	杯B	(14.9)	-	-	内面部ナガ	SDG～ SDHリーフ灰	石英・白色粒	8世紀後半		
18 12	156	中央 SK19, 包含層F	須恵器	便	杯	杯B	(14.8)	2.2	-	内面部ナガ, 外面部自然輪	灰白	白色粒	8世紀前半		
18 12	157	中央 SK19	須恵器	便	杯	杯B	(13.6)	-	-	内面部ナガ	灰白	白色粒	8世紀前半		
18 12	158	中央 SK19a-01	須恵器	便	杯	杯B	13.9	4.1	8.6	灰白	8世紀前半				
18 12	159	中央 SK19a-02-03	須恵器	便	杯	杯B	13.5	3.7	(12.3)	灰白	8世紀前半				
18 12	160	中央 SK19	須恵器	便	杯	杯B	-	3.9	-	灰白	8世紀前半				
18 12	161	中央 SK19	須恵器	便	杯	杯B	-	-	-	肩部に2条の沈線	灰白～薄青灰	白色粒	8世紀	包含層F-Gに同・張焼片	
18 12	162	中央 SK19	土師器	便	杯	杯	-	-	-	内面部黑色処理	灰白～淡黄	白色粒・青針	8世紀		
18 12	163	中央 SK19	土師器	便	杯	杯	(24.0)	-	-	銅鋸内外面ハケメ	に赤い黄緑	玉毛・白色粒・ 青針	8世紀前半		
18 12	164	中央 SK19	土師器	便	杯	杯	(13.6)	-	-	灰白～青白	玉毛・白色粒・ 青針	8世紀前半			
18 19	165	中央 SK19	土製品	土鍋	長3.3, 幅1.2, 厚1.2	-	-	-	-	灰白	白色粒	孔径3mm, 重さ4.0kg			
18 19	166	中央 SK23	土製品	石製品	石鍋	長5.0, 幅5.6, 厚1.0	25mm穿孔する	-	-	灰白	白色粒	重さ25.6kg			
19 12	167	南 SK25	須恵器	便	杯	杯G	(9.4)	-	-	内面部ナガ	灰白	織密, 石英	7世紀第4		
19 8	168	南 SP25	土師器	便	杯	杯	(15.4)	-	-	銅鋸内外面ハケメ	灰灰黄	石英	7世紀	内外面焼付	
19 12	169	南 SP28	須恵器	便	杯	杯	(12.2)	-	-	灰白	白色粒	8世紀			
19 19	170	中央 SP95	土製品	土鍋	長3.3, 幅1.0, 厚1.0	-	-	-	-	灰白	白色粒	孔径3.5mm, 重さ2.9kg			
19 19	171	中央 SP139	製陶土器	便	杯	杯	(6.2)	-	-	内外面粗面压板	浅黄褐	地灰・褐色斑	内外面被熱		
19 8	172	中央 SP143	土師器	便	杯	杯	-	-	-	銅鋸内外面ハケメ	浅黄	玉毛・白色粒・ 青針	9世紀		
19 19	173	中央 SP150	土製品	土鍋	長3.3, 幅1.3, 厚1.2	-	-	-	-	灰黄	白色粒	孔径3mm, 重さ4.814			
19 19	174	中央 SP173	土製品	土鍋	長4.8, 幅1.1, 厚1.1	-	-	-	-	灰黄	白色粒	孔径4.5mm, 重さ5.89g			
19 8	175	南 SP211	土師器	便	杯	杯	-	-	-	銅鋸内外面ハケメ	灰灰黄	玉毛・白色粒・ 青針	8世紀		
19 8	176	南 SP221	土師器	便	杯	杯	-	-	-	灰白	白色粒	玉毛・白色粒・ 青色粒	8世紀後半		
19 12	177	中央 包含層E5	須恵器	便	杯	杯H	-	-	-	灰	白色粒	古墳後期	外面部へテ記号「×」		
19 13	178	北 包含層E4	須恵器	便	杯	杯H	-	-	-	灰白	白色粒	古墳後期			
19 13	179	北 包含層E3	須恵器	便	杯	杯H	-	-	-	灰	石英・白色粒	古墳後期	包含層E4に同一標片		
19 12	180	中央 包含層E5	須恵器	便	杯	杯	(8.1)	2.8	-	灰	白色粒	7世紀			
19 13	181	北 包含層E3	須恵器	便	杯	杯	(10.3)	-	-	灰白	白色粒	古墳後期			
19 13	182	北 包含層E4	須恵器	便	杯	杯	-	-	-	灰白	白色粒	古墳後期			
19 13	183	南 包含層F7	須恵器	便	杯	杯	(11.6)	-	-	灰	織密	7世紀			
19 13	184	南 包含層F10	須恵器	便	杯	杯G	(8.8)	-	-	灰白	織密	7世紀第4			
19 13	185	中央 包含層E5	須恵器	便	杯	杯G	-	-	-	灰～青灰	石英・白色粒	7世紀第3			
19 13	186	南 包含層E10	須恵器	便	杯	杯G	-	-	-	灰白	織密	7世紀第4			
19 13	187	中央 包含層E5	須恵器	便	杯	杯G	(11.8)	-	-	外面部自然輪	灰白	白色粒	7世紀第4		
19 13	188	南 包含層F9	須恵器	便	杯	杯G	-	-	-	外面部自然輪	灰	織密	7世紀第3		
19 12	189	南 包含層F10	須恵器	便	杯	疊	-	-	-	外面部自然輪	灰	織密	7世紀		
19 13	190	南 包含層E8	須恵器	便	杯	杯G	(10.6)	-	-	外面部自然輪	灰～灰白	白色粒	8世紀後半		
19 13	191	西 包含層E1	須恵器	便	杯	杯H	(12.0)	2.8	-	灰	石英・白色粒	8世紀後半			
19 13	192	北 包含層E3	須恵器	便	杯	杯H	(13.8)	-	-	灰～灰白	白色粒	8世紀前半			
19 13	193	北 包含層E3	須恵器	便	杯	杯H	(11.7)	-	-	内面部ナガ	灰白	白色粒	9世紀		
19 13	194	北 包含層E3	須恵器	便	杯	杯H	(13.9)	-	-	灰白	白色粒	8世紀前半			
19 13	195	南 包含層E9	須恵器	便	杯	杯H	-	-	-	外面部自然輪	灰白	白色粒	8世紀前半		
19 13	196	南 包含層E9	須恵器	便	杯	杯H	(14.4)	-	-	外面部自然輪	灰	織密	8世紀前半		
19 13	197	南 包含層E9	須恵器	便	杯	杯H	(15.3)	-	-	灰	白色粒	8世紀			
20 13	198	南 包含層E10	須恵器	便	杯	杯H	(15.0)	2.4	-	灰白	石英・白色粒	8世紀後半			
20 13	199	南 包含層E10	須恵器	便	杯	杯H	-	-	-	内面部ナガ, 外面部自然輪	灰～灰白	織密	8世紀前半		
20 13	200	南 包含層E10-D9	須恵器	便	杯	杯H	(15.8)	-	-	灰白	白色粒	8世紀前半			

第12表 出土遺物一覧表(5)

編號	写真 図版 番号	遺物 名	遺構・層位	種類	器種	口径 cm	器高 cm	底径 cm	成形・調整等の特徴	色調	胎土	時期	備考
29	13 201	中央	包含層6	須恵器	杯形器	(17.0)	-	-	外面部自然輪	灰白	石青・白色粒	8世紀後半	
29	13 202	南	包含層6-E9	須恵器	杯形器	(15.8)	2.8	-	内底部ナグ、外面部自然輪	灰白～灰	白色粒	8世紀前半	内面に重ね焼き痕
29	13 203	南	包含層6	須恵器	杯形器	(15.3)	3.2	-		灰白	白色粒・青料	8世紀前半	
29	13 204	南	包含層6	須恵器	杯形器	(11.3)	-	-	外面部自然輪	灰白	白色粒	8世紀前半	
29	13 205	南	包含層6	須恵器	杯形器	-	-	-	外面部自然輪	灰	白色粒	8世紀前半	
29	13 206	中央	包含層5	須恵器	杯形器	(14.5)	2.4	-	内底部ナグ	灰白	白色粒・小繭	8世紀前半	
29	13 207	中央	包含層6	須恵器	杯形器	(15.5)	-	-	外面部自然輪	灰～灰黄褐	白色粒	8世紀前半	
29	13 208	南	包含層6	須恵器	杯形器	(11.3)	-	-		明礬灰～灰白	白色粒	8世紀後半	
29	13 209	南	包含層6	須恵器	杯形器	(11.2)	-	-	外面部自然輪	灰白	石青・白色粒	8世紀後半	
29	13 210	南	包含層6	須恵器	杯形器	(11.3)	-	-		灰白～灰	白色粒	8世紀後半	
29	13 211	中央	包含層5	須恵器	杯形器	(12.0)	-	-		灰	織密	8世紀後半	
29	13 212	中央	包含層5	須恵器	杯形器	(15.1)	-	-		灰白	白色粒	8世紀前半	外面に重ね焼き痕
29	13 213	南	包含層6	須恵器	杯形器	(13.4)	4.1	(7.6)	内底部ナグ	灰	白色粒		
29	13 214	南	包含層6	須恵器	杯形器	(14.2)	3.7	(8.2)	内底部ナグ	灰～灰青	白色粒	8世紀前半	
29	13 215	西	包含層1	須恵器	杯形器	-	-	(8.3)	内底部ナグ	灰白	白色粒	9世紀	
29	13 216	北	包含層3	須恵器	杯形器	(13.5)	4.1	(8.0)	内面部自然輪	灰白	白色粒	8世紀前半	
29	13 217	北	包含層3	須恵器	杯形器	-	-	(8.2)		灰白	白色粒	8世紀後半	
29	13 218	中央	包含層5	須恵器	杯形器	-	-	(7.6)		灰	織密	8世紀後半	
29	13 219	中央	包含層6	須恵器	杯形器	-	-	(8.0)	内底部ナグ	灰白	黑色粒	8世紀後半	
29	13 220	南	包含層7	須恵器	杯形器	-	-	(8.9)	内底部ナグ、外底部織着物	灰	白灰・黑色粒	8世紀後半	
29	13 221	南	包含層9	須恵器	杯形器	(13.6)	4.2	(10.2)		灰白	石青・白色粒	8世紀前半	外底部へ記号
29	13 222	北	包含層4	須恵器	杯形器	(15.0)	4.6	(9.2)	内底部ナグ、表面発泡	灰白	白灰・黑色粒	8世紀前半	B5と接合
29	13 223	北	包含層6	須恵器	杯形器	-	-	(7.3)		灰～灰白	白色粒・小繭	8世紀後半	
29	13 224	北	包含層6	須恵器	杯形器	-	-	(8.7)		灰～灰白	白色粒	8世紀後半	
29	13 225	中央	包含層5	須恵器	杯形器	-	-	(7.3)	内底部ナグ	灰白～黒灰	石青・白色粒	9世紀	
29	13 226	中央	包含層5	須恵器	杯形器	-	-	(8.8)		灰～灰～黒	黑色粒	8世紀後半	
29	13 227	中央	包含層6	須恵器	杯形器	-	-	(7.2)	外底部織着物	灰～灰白	白色粒	8世紀後半	
29	13 228	南	包含層7	須恵器	杯形器	(12.8)	3.6	(9.9)		灰白	黑色粒	8世紀前半	
29	13 229	南	包含層7	須恵器	杯形器	-	-	(9.5)		灰～灰白	織密	9世紀	外底部へ記号
29	13 230	南	包含層8	須恵器	杯形器	-	-	(7.6)		灰白～灰	白色粒	8世紀後半	
29	13 231	南	包含層9	須恵器	杯形器	-	-	(7.3)	内面部自然輪	灰白	白色粒	8世紀後半	
29	14 232	南	包含層9	須恵器	杯形器	-	-	(9.2)		灰白	石青・白色粒	8世紀前半	
29	14 233	南	包含層9	須恵器	杯形器	-	-	(9.0)	内底部ナグ	灰白	白色粒	8世紀前半	外底部に漆黒量付着
29	14 234	南	包含層9	須恵器	杯形器	-	-	(8.3)	内底部ナグ、外面部自然輪	灰～灰白	白色粒	8世紀後半	口縁部打ち欠き
29	14 235	南	包含層9	須恵器	杯形器	-	-	(8.2)		灰～灰白	石青・白色粒	8世紀前半	
29	14 236	南	包含層9	須恵器	杯形器	-	-	(7.6)	内面部自然輪	灰～灰白	白色粒	8世紀後半	
29	14 237	南	包含層9	須恵器	杯形器	(9.6)	3.9	(6.7)		灰～灰白	白色粒	8世紀後半	口縁部内面に墨跡堆積
29	14 238	南	包含層9	須恵器	杯形器	(10.8)	3.1	(6.8)		灰	白色粒	8世紀前半	
29	14 239	南	包含層10	須恵器	杯形器	(11.2)	4.5	(7.9)		灰～灰白	石青・白色粒	8世紀後半	外底部へ記号「-」
29	14 240	南	包含層10	須恵器	杯形器	(11.5)	4.4	(7.5)		灰白	白色粒	8世紀後半	
29	15 241	南	包含層10	須恵器	杯形器	-	-	(6.4)		灰白	石青・白色粒	8世紀前半	
29	15 242	南	包含層10	須恵器	杯形器	(11.4)	3.2	(7.4)		灰白	白色粒・黑色粒	8世紀前半	
29	15 243	南	包含層10	須恵器	杯形器	(9.6)	3.0	(5.0)		灰白	白色粒	8世紀前半	
29	15 244	北	包含層10	須恵器	杯形器	(12.6)	3.3	(7.0)		灰白	白色粒・小繭	8世紀前半	
29	15 245	北	包含層10	須恵器	杯形器	-	-	(6.6)	内面部自然輪	灰白	白色粒	9世紀	
29	14 246	中央	包含層5	須恵器	杯形器	(14.8)	3.9	(8.5)		灰白	白色粒	8世紀前半	内面漆付着
29	14 247	中央	包含層5	須恵器	杯形器	(13.6)	3.9	(8.0)	内底部ナグ	灰白	白色粒	8世紀前半	
29	14 248	中央	包含層6	須恵器	杯形器	(10.0)	3.7	(6.5)	内面部自然輪	灰～灰白	白色粒・小繭	8世紀後半	
29	15 249	中央	包含層6	須恵器	杯形器	-	-	(8.0)		灰黃～灰白	石青・白色粒	8世紀後半	
29	14-15 250	南	包含層7	須恵器	杯形器	-	-	7.0		灰～灰白	石青・白色粒	8世紀後半	外底部へ記号「-」

第13表 出土遺物一覧表⑥

編號	写真 図版	遺物 番号	地K 遺構・層位	種類	器種	口径 cm	器高 cm	底径 cm	成形・調整等の特徴	色調	胎土	時期	備考
21	15	251	南	匂合縁7	須恵器	鉢	—	—	8.8 内部ナメ	灰白	石英・白色粒	8世紀後半	
21	15	252	南	匂合縁8	須恵器	鉢	(14.8)	4.3	(9.4) 内部ナメ	灰白	白色粒	8世紀前半	
21	15	253	南	匂合縁8	須恵器	鉢	(11.9)	4.4	(8.1) —	灰白	石英・白色粒	8世紀後半	
21	14-15	254	南	匂合縁8	須恵器	鉢	—	—	(9.8) —	灰白	石英・白色粒	8世紀後半	外底部ヘラ記号「=」
21	15	255	南	匂合縁8	須恵器	鉢	(12.6)	4.4	(7.4) —	灰白	石英	8世紀後半	SB29に同一個体T1
21	15	256	南	匂合縁8	須恵器	鉢	—	—	(7.2) —	灰白	石英	8世紀後半	
21	15	257	南	匂合縁9-09	須恵器	鉢	(13.4)	4.2	(8.0) —	灰白	白色粒・黒色粒	8世紀前半	
21	15	258	南	匂合縁9	須恵器	鉢	(12.8)	3.8	(7.8) —	灰～灰白	石英・白色粒	8世紀前半	
21	15	259	南	匂合縁9	須恵器	鉢	—	—	(7.9) —	灰白	石英	8世紀後半	
22	15	260	南	匂合縁9	須恵器	鉢	—	—	(11.1) —	灰白	白色粒	8世紀後半	
22	15	261	南	匂合縁9	須恵器	鉢	(13.8)	3.4	(10.5) —	灰白	黑色粒・小雫	8世紀前半	
22	15	262	南	匂合縁9	須恵器	鉢	—	—	内部に2条の沈線 —	灰白	白色粒	8世紀前半	
22	15	263	中央	匂合縁5	須恵器	鉢	14.6	4.2	8.4 内部ナメ	灰白	織密	8世紀前半	内底部横筋内側部 内底部打目、363と織目
22	15	264	中央	匂合縁5	須恵器	鉢	—	—	(9.4) —	灰	白色粒	9世紀	
22	15	265	中央	匂合縁6	須恵器	鉢	(13.2)	3.9	(9.4) 内部ナメ	灰白	白色粒	8世紀前半	
22	15	266	中央	匂合縁6	須恵器	鉢	(9.2)	4.5	(5.6) 内部自然輪	灰～灰白	織密	8世紀前半	内底部横筋内側部 内底部打目、363と織目
22	15	267	南	匂合縁7	須恵器	鉢	—	—	(7.7) —	灰	石英・白色粒	8世紀後半	
22	15	268	南	匂合縁7	須恵器	鉢	—	—	6.0 —	灰～灰白	石英・白色粒	9世紀	
22	15	269	南	匂合縁8	須恵器	鉢	(14.8)	3.5	(10.2) 内部ナメ	灰～灰白	白色粒	8世紀前半	
22	15	270	南	匂合縁8	須恵器	鉢	(10.5)	4.8	(7.4) 内部ナメ	灰白	石英・白色粒	8世紀後半	
22	15	271	南	匂合縁8	須恵器	鉢	—	—	(7.4) 内部ナメ	灰白	織密	8世紀後半	
22	15	272	南	匂合縁10	須恵器	鉢	(15.6)	3.9	(10.2) 内部ナメ	灰白	織密	8世紀前半	
22	15	273	北	匂合縁3	須恵器	鉢	(12.0)	3.8	(7.2) —	灰	石英・白色粒	8世紀前半	
22	15	274	中央	匂合縁5	須恵器	鉢	(16.9)	4.6	9.8 内部ナメ	灰白	石英・白色粒	8世紀前半	
22	15	275	中央	匂合縁5	須恵器	鉢	(11.0)	4.1	(7.2) 内部ナメ	灰	石英・白色粒	8世紀後半	
22	15	276	中央	匂合縁5	須恵器	鉢	—	—	—	灰～灰白	白色粒	8世紀前半	
22	16	277	中央	匂合縁5	須恵器	鉢	—	—	(9.7) —	灰白	白色粒	8世紀後半	
22	16	278	中央	匂合縁5	須恵器	鉢	(12.6)	3.9	(8.9) —	灰白	白色粒・小雫	8世紀前半	
22	16	279	中央	匂合縁6	須恵器	鉢	—	—	(5.6) —	灰	石英・白色粒	9世紀	
22	16	280	中央	匂合縁5	須恵器	鉢	—	—	9.5 —	灰白	織密	9世紀	
22	16	281	中央	匂合縁5	須恵器	鉢	—	—	(6.7) —	灰白	石英	8世紀後半	
22	16	282	中央	匂合縁6	須恵器	鉢	—	—	(7.8) —	灰白	石英・白色粒	8世紀前半	
22	16	283	南	調查区	須恵器	鉢	(13.4)	4.1	(8.2) —	灰白	石英・白色粒	8世紀前半	
22	16	284	—	調査区	須恵器	鉢	(13.8)	4.1	(10.2) 内部ナメ	灰	白色粒	8世紀前半	
22	16	285	北	匂合縁4	須恵器	鉢	(12.6)	3.8	—	灰白	石英・白色粒	8世紀後半	
23	16	286	南	匂合縁7	須恵器	鉢	10.4	3.0	7.4 —	灰	石英・白色粒	8世紀後半	外底部に墨書き
22	16	287	西	匂合縁3	須恵器	鉢	(12.0)	3.0	—	灰白～灰黄	白色粒	8世紀前半	
22	16	288	北	匂合縁3	須恵器	鉢	(12.6)	3.5	—	灰	白色粒	8世紀前半	
23	16	289	北	匂合縁3	須恵器	鉢	(12.0)	2.8	—	灰白	白色粒	8世紀前半	
23	16	290	北	匂合縁3	須恵器	鉢	(12.6)	3.7	—	灰白	白色粒	8世紀後半	
23	16	291	北	匂合縁3	須恵器	鉢	(16.0)	—	—	灰白	石英・白色粒	8世紀後半	
23	16	292	中央	匂合縁5	須恵器	鉢	—	—	—	浅黄～灰黄	石英・白色粒	8世紀前半	
23	16	293	中央	匂合縁5	須恵器	鉢	—	—	—	灰白	石英・白色粒	8世紀後半	
23	16	294	中央	匂合縁5	須恵器	鉢	(12.1)	3.4	(8.6) —	灰白	織密	8世紀後半	
23	16	295	南	匂合縁7	須恵器	鉢	—	—	—	灰白～灰黃	白色粒	8世紀後半	内底部付着
23	16	296	南	匂合縁8	須恵器	鉢	(12.0)	3.5	—	灰白～灰	石英	8世紀後半	
23	16	297	南	匂合縁9	須恵器	鉢	(11.4)	3.5	—	灰白	白色粒	8世紀後半	
23	16	298	南	匂合縁9	須恵器	鉢	(12.3)	2.7	—	灰白	白色粒	8世紀後半	
23	16	299	南	匂合縁9	須恵器	鉢	(15.3)	3.2	(11.6) —	灰白	白色粒	8世紀前半	
23	16	300	南	匂合縁9	須恵器	鉢	(13.2)	2.8	— 内部自然輪	灰白	白色粒	8世紀前半	

第14表 出土遺物一覧表(7)

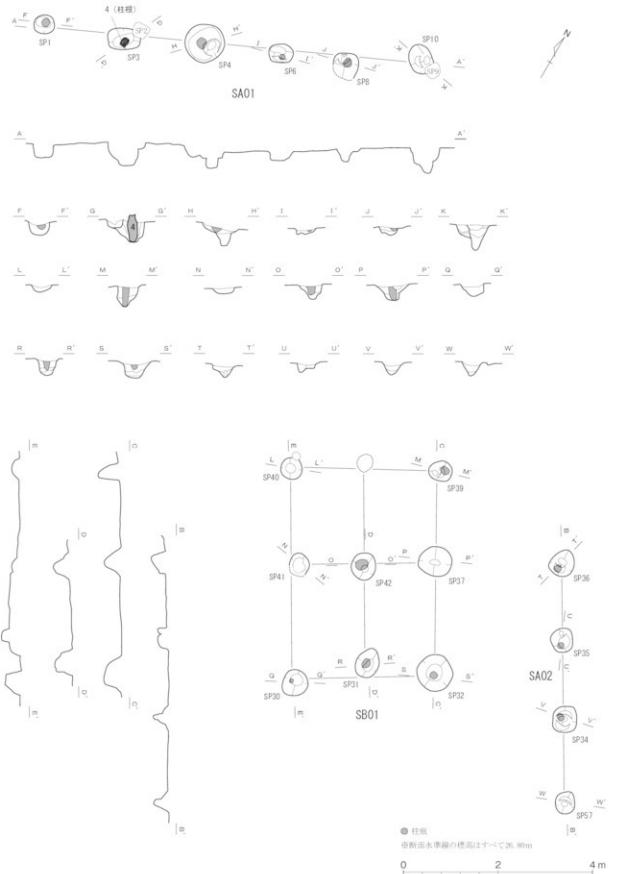
編號	写真 図版	遺物 番号	地名	遺構・層位	種類	器種	口径 cm	器高 cm	底径 cm	成形・調整等の特徴	色調	胎土	時期	備考
23	16	301	南	包合層010	須恵器	杯A	(15.2)	3.1	-	内面自然釉	灰白	白色粒	8世紀前半	
23	16	302	南	包合層010	須恵器	杯A	(12.4)	2.9	0.0		灰白	白色粒	8世紀前半	
23	16	303	南	包合層010	須恵器	杯A	(12.0)	3.7	0.0		灰白	白色粒	8世紀後半	
23	16	304	北	包合層01	須恵器	杯A	(12.0)	-	-	に点・黄褐色	灰白・白色粒	8世紀後半		
23	16	305	北	包合層01	須恵器	杯A	(14.8)	3.2	-		灰白	白色粒	8世紀後半	
23	16	306	中央	包合層06	須恵器	杯A	(13.0)	2.9	-		灰白	白色粒	8世紀後半	鉢埋付着の可能性
23	16	307	南	包合層07	須恵器	杯A	(13.2)	4.0	-		灰白	石系・白色粒	8世紀後半	
23	16	308	南	包合層08	須恵器	杯A	(12.0)	3.3	-		灰白	石系・白色粒	8世紀前半	底部へ記号?
23	16	309	南	包合層08	須恵器	杯A	(12.0)	3.3	-		灰白	石系・白色粒	8世紀後半	
23	16	310	南	包合層08	須恵器	杯A	(13.1)	4.7	-		灰白	石系・白色粒	8世紀前半	E9と接合
23	16	311	南	包合層08	須恵器	杯A	(13.5)	2.7	-		灰白	白色粒	8世紀前半	
23	16	312	南	包合層08	須恵器	杯A	(12.0)	3.5	-		灰白	白色粒	8世紀前半	
23	17	313	南	包合層09	須恵器	杯A	(12.6)	3.3	-		灰白	白色粒・小雫	8世紀前半	
23	17	314	南	包合層09	須恵器	杯A	(12.8)	3.3	-		灰白	石系・白色粒	8世紀前半	
23	17	315	南	包合層09	須恵器	杯A	(12.6)	3.0	-		灰白	織密	8世紀前半	
23	17	316	南	包合層09	須恵器	杯A	(12.6)	2.8	(8.0)		灰白	織密	8世紀後半	
23	17	317	南	包合層10	須恵器	杯A	(11.4)	2.8	(7.2)		灰白	織密	8世紀前半	
23	17	318	中央	包合層06	須恵器	杯A	(12.4)	3.2	-		灰	石系・白色粒	8世紀前半	
23	17	319	中央	包合層06	須恵器	杯A	(12.0)	2.9	(9.6)		灰白～灰	織密・白色粒	8世紀前半	
23	17	320	中央	包合層7-7'7"	須恵器	杯A	(12.8)	2.9	-	内底部ナブ	灰	白色粒	8世紀前半	
23	17	321	南	包合層09	須恵器	杯A	(12.8)	3.2	-		灰黄	石系・白色粒	8世紀前半	
24	17	322	中央	包合層05	須恵器	杯A	(11.4)	3.2	-	内底部ナブ	灰白	白色粒・骨片	8世紀前半	
24	17	323	南	包合層07	須恵器	杯A	(13.6)	3.1	-		灰白	白色粒	8世紀前半	
24	17	324	中央	包合層06	須恵器	杯A	(11.6)	3.0	-		灰白～灰	白色粒	8世紀前半	
24	17	325	中央	調查杏	須恵器	盖杯	-	-	-		灰	織密・白色粒	7世紀	
24	17	326	北	包合層04	須恵器	蓋	-	-	(8.1)	外面部自然釉	灰	灰色・織密	9世紀?	
24	17	327	南	包合層07	須恵器	短颈瓶	(7.4)	5.4	(7.1)	外面部自然釉	灰白	白色粒	8世紀	
24	17	328	中央	包合層05	須恵器	蓋蓋	(10.0)	-	-	外面部自然釉	灰白	白色粒	8世紀	
24	17	329	中央	包合層05	須恵器	蓋	-	-	-		灰～灰白	白色粒	8世紀?	
24	17	330	西	包合層01	須恵器	長頸瓶	-	-	(16.5)	外面部自然釉	灰白	白色粒	8世紀前半	
24	17	331	南	包合層08	須恵器	横瓶	(11.2)	-	-		灰白～灰		8世紀	
24	17	332	中央	包合層5-5'8'	須恵器	横瓶	(11.1)	-	-	側面外面部タタキ面にナブ	灰白～灰	白色粒	8世紀	
24	17	333	南	包合層08	須恵器	横瓶	-	-	-	側面外面部タタキ面にナブ	灰白	石系・白色粒	8世紀	
24	17	334	中央	包合層05	須恵器	便	-	-	-	外面部波状文・内面部自然釉	灰白	白色粒	8世紀	
24	17	335	北	包合層03	須恵器	便	-	-	-	表面タタキ面にシロコトボウの模様	灰白	石系・白色粒	8世紀?	外面部付着
24	17	336	北	包合層03	須恵器	便	(25.2)	-	-	内面部自然釉	灰白～灰灰	石系・白色粒	8世紀	
24	17	337	中央	包合層05-05'06'	須恵器	便	(49.2)	-	-	表面外面部細かなタタキ面にナブ	灰白	白色粒	7世紀	
25	17	338	南	包合層09	須恵器	便	(40.0)	-	-		灰	石系・白色粒	8世紀	
25	17	339	南	包合層07	須恵器	円面鏡	-	-	(24.1)	内面ナブ	灰灰～灰黃	灰色・織密	8世紀前半	
25	18	340	南	包合層08	土師器	小型造	(9.2)	(10.8)	(4.2)		浅黄	石系・白色粒	古墳初期	
25	18	341	北	包合層03	弥生土器	器台	-	-	-		灰白	織密・白色粒	弥生後期	
25	18	342	北	包合層04	土師器	便	-	-	-	外面部ハケア	灰白～灰	織密	古墳初期	
25	18	343	南	包合層08	土師器	便	(17.0)	-	-		浅黄	石系・白色粒	古墳初期	B7に同一個体片1
25	18	344	南	包合層09	土師器	便	(8.9)	-	-		灰～灰白	白色粒	8世紀	
25	18	345	南	包合層010	土師器	便	(12.8)	3.8	-		浅黄	石系・白色粒	8世紀	
25	18	346	南	包合層09	土師器	便	(11.9)	2.4	-		浅黄～淡黄	石系・白色粒	8世紀	鉢埋付着の可能性
25	18	347	南	包合層09-010	土師器	便	-	-	6.9	に点・黄褐色	白色粒	8世紀		
25	春若	348	中央	包合層05	土師器	便	-	-	-	内面にガキ・内面部赤	に点・黄褐色	石系・白色粒	8世紀	
25	春若	349	南	包合層09	土師器	便	(16.7)	-	-	外面部赤	淡黄	石系・白色粒	8世紀	
25	春若	350	南	包合層09	土師器	便	-	-	(8.0)	外面部赤	淡黄	織密・白色粒	8世紀	

第15表 出土遺物一覧表⑧

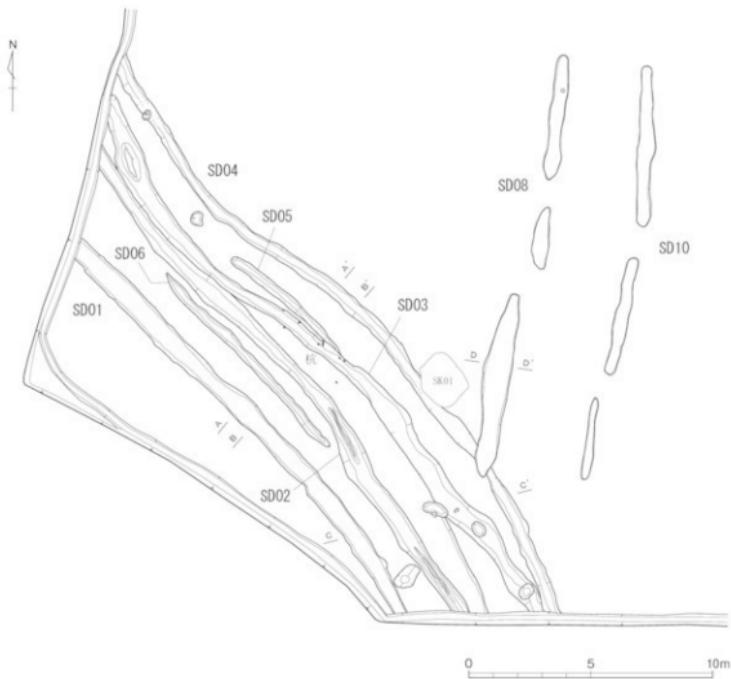
編號	写真 遺物 番号	地名	遺構・層位	種類	器種	口径 cm	器高 cm	底径 cm	成形・調整等の特徴	色調	胎土	時期	備考
25	卷首 351	南	包合層9	土師器	杯	-	-	-	内面ミガキ、内外面赤彩	灰白～灰・鉄	石英・骨針	8世紀	
25	卷首 352	南	包合層9	土師器	杯	(15.3)	2.6	-	内面ミガキ、内外面赤彩	灰白～黄褐	白色粘・骨針	8世紀	
25	卷首 353	南	包合層10	土師器	杯	(13.6)	-	-	内面ミガキ、内外面赤彩	灰白～黄褐	白色粘・骨針	8世紀	
25	卷首 354	南	包合層9	土師器	杯	(12.6)	-	-	内面ミガキ・黒色処理	灰白～黄褐	白色粘・骨針	8世紀	捺摩付着
25	卷首 355	南	包合層9	土師器	杯	-	-	-	内面ミガキ・黒色処理	灰白～黄褐	白色粘・骨針	8世紀	
25	卷首 356	中央	包合層5	土師器	杯	(12.7)	-	-	-	灰白	-	8世紀	内黑
25	卷首 357	南	包合層9	土師器	杯	(12.6)	-	-	-	灰白～黄褐	-	8世紀	内黑
25	卷首 358	中央	包合層5	土師器	杯	-	-	-	内面黑色処理	灰白～灰	白色粘	8世紀	加工丹瓶(捺摩摩利)
25	卷首 359	中央	調查区	土師器	杯	(12.2)	3.5	-	内面ミガキ・黒色処理	灰黄	石英・白色粘・骨針	8世紀	
25	18 360	南	包合層9	土師器	瓶	(7.1)	1.1	-	-	灰白	白色粘	8世紀?	
25	18 361	中央	包合層5	土師器	瓶	-	-	(9.6)	-	浅黄	白色粘・骨針	8世紀	
25	卷首 362	南	包合層9	土師器	瓶	-	-	(11.4)	内外面赤彩	灰白～黄褐	白色粘・骨針	8世紀	
25	18 363	南	包合層7	弥生土器	高杯	(26.4)	-	-	-	灰白	玉井・板印・骨針	弥生後期	
25	18 364	北	包合層4	弥生土器	高杯	-	-	-	-	浅黄褐	白色粘	弥生後期	
25	18 365	南	包合層7	弥生土器	高杯	-	-	-	脚部外面ハケメ後ミガキ	灰白～灰・鉄	石英・白色粘・骨針	弥生後期	
25	18 366	東	包合層4	土師器	高杯	-	-	-	-	灰白	白色粘・骨針	8世紀?	
25	18 367	北	包合層3	土師器	高杯	-	-	-	-	灰白～灰・鉄	白色粘・骨針	8世紀	
26	卷首 368	北	包合層3	土師器	高杯	-	-	(13.0)	内外面赤彩	灰白～黄褐	石英・骨針	8世紀	
26	卷首 369	中央	包合層5	土師器	高杯	-	-	-	内外面赤彩	灰白～黄褐	白色粘・骨針	8世紀	
26	卷首 370	南	包合層7	土師器	高杯	-	-	-	内外面赤彩	灰白～黄褐	石英・白色粘	8世紀	
26	卷首 371	南	包合層7	土師器	高杯	-	-	-	内外面赤彩	灰黄～黄褐	石英・白色粘	8世紀	
26	卷首 372	中央	包合層5	土師器	高杯	-	-	(4.9)	内面黑色処理	灰白	石英・白色粘	8世紀	
26	卷首 373	中央	包合層6	土師器	高杯	-	-	-	内面黑色処理	灰黄～灰白	石英・白色粘・骨針	8世紀	
26	9 374	北	包合層3	土師器	瓶	-	-	-	-	浅黄	白色粘・骨針	7世紀	同一個体片1
26	18 375	中央	包合層5	土師器	便	(17.0)	-	-	-	浅黄	石英・粗砂	古墳前期	
26	18 376	南	包合層7	土師器	便	-	-	-	-	浅黄	石英・白色粘・骨針	8世紀	
26	18 377	西	包合層9	土師器	便	(13.6)	-	-	-	灰白～黄褐	石英・白色粘	7世紀	
26	18 378	南	包合層7	土師器	便	-	-	-	脚部外面カメ・内面ハケメ	浅黄	石英	8世紀	
26	18 379	南	包合層7	土師器	罐	-	-	-	-	灰白～淡黄	石英・白色粘・骨針	8世紀後半	
26	18 380	南	包合層7	土師器	便	-	-	-	-	灰白～灰・鉄	白色粘・骨針	8世紀	
26	18 381	南	包合層9	土師器	罐	-	-	-	-	浅黄	粗砂・骨針	8世紀後半	
26	18 382	南	包合層9	土師器	便	(22.0)	-	-	-	灰白	石英・白色粘	8世紀?	
26	18 383	南	包合層10	土師器	便	(15.4)	-	-	銅部内面ハケメ	灰白～灰・鉄	石英・白色粘	8世紀	
26	18 384	南	包合層10	土師器	罐	-	-	-	-	灰黄～浅黄	石英・白色粘・骨針	9世紀	
26	18 385	南	包合層8	土師器	便	(20.0)	-	-	-	灰白～灰・鉄	石英・白色粘	8世紀	
26	18 386	南	包合層9	土師器	罐	-	-	-	-	灰白～黄	石英・粗砂	8世紀後半	
26	18 387	北	包合層3	土師器	便	(13.4)	-	-	-	灰白～灰・鉄	石英・白色粘	古墳時代?	同一個体片1
26	18 388	南	包合層7	土師器	便	(23.0)	-	-	-	灰白～黄褐	白砂・骨針	8世紀	
26	18 389	南	包合層8	土師器	便	-	-	-	-	灰白～白	石英・白色粘	古墳前期	
26	18 390	南	包合層8	土師器	便	-	-	-	-	灰白～灰・鉄	石英・白色粘	8世紀	
26	18 391	南	包合層10	土師器	便	(18.5)	-	-	銅部内面ハケメ	灰白～黄	石英・白色粘	8世紀	
26	18 392	南	包合層10	土師器	便	(17.2)	-	-	銅部内面ハケメ	灰白～白	石英・白色粘	8世紀	外面部保着
26	18 393	南	包合層7	土師器	罐	-	-	-	外面ヘタケズリ・内面カメ	灰黄	石英・粗砂	8世紀後半	
27	18 394	南	包合層8	土師器	罐	(35.4)	-	-	外面ヘタケズリ・内面カメ	浅黄	石英・粗砂	8世紀後半	
26	18 395	南	包合層7	土師器	罐	(25.6)	-	-	-	灰白～黄褐	石英・白色粘・骨針	8世紀	
27	19 396	北	包合層3	製陶土29	-	-	-	-	-	粗砂	白色粘	-	外面部被熱
27	19 397	南	包合層7	製陶土25	-	-	-	-	外面部粗砂・輪縁少・内面?	灰白～灰・鉄	白色粘・骨針	-	外面部被熱
27	19 398	南	包合層7	製陶土29	-	-	-	-	外面部粗砂・輪縁少・内面?	灰白～灰・鉄	白色粘・骨針	-	外面部被熱
27	19 399	南	包合層7	製陶土29	-	-	-	-	外面部粗砂・輪縁少・内面?	灰白～灰・鉄	白色粘・骨針	-	外面部被熱
27	19 400	南	包合層7	製陶土29	-	-	-	-	外面部粗砂・輪縁少・内面?	灰白～灰・鉄	白色粘・骨針	-	外面部被熱



第6図 檜原区全体図



第7図 遺構図 据立柱建物SB01, 横SA01-02



溝 SD01

- 1 青灰色粗砂土体 地山ブロック少量
- 2 青灰色粗砂土体 地山粒・木質を一部レンズ状に含む

溝 SD02

- 1 青灰色粗砂土体 地山ブロック多量
- 2 青灰色粗砂土体 地山ブロック少量

溝 SD03

- 1 青灰色粗砂と細砂 地山小ブロック少量

溝 SD04

- 1 青灰色粗砂土体 地山小ブロック少量
- 2 青灰色粗砂土体 地山粒・木質を一部ラミナ状に含む

溝 SD06

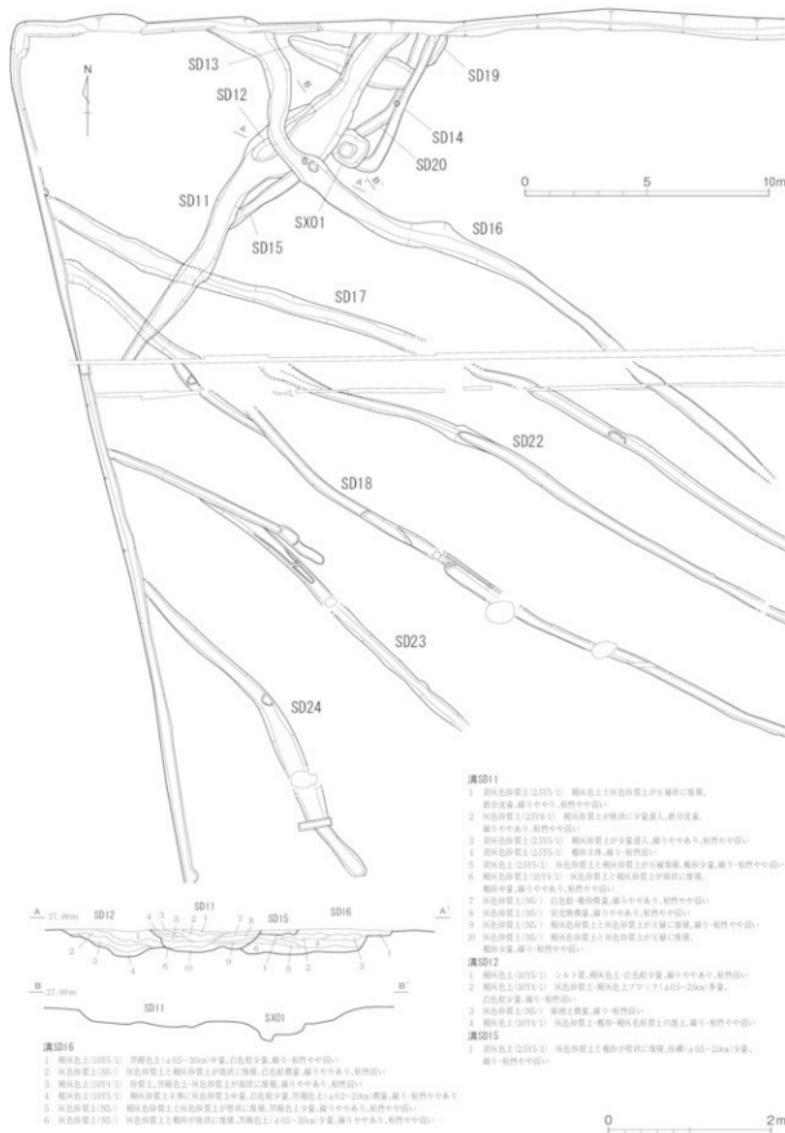
- 1 青灰色粗砂土体

溝 SD08

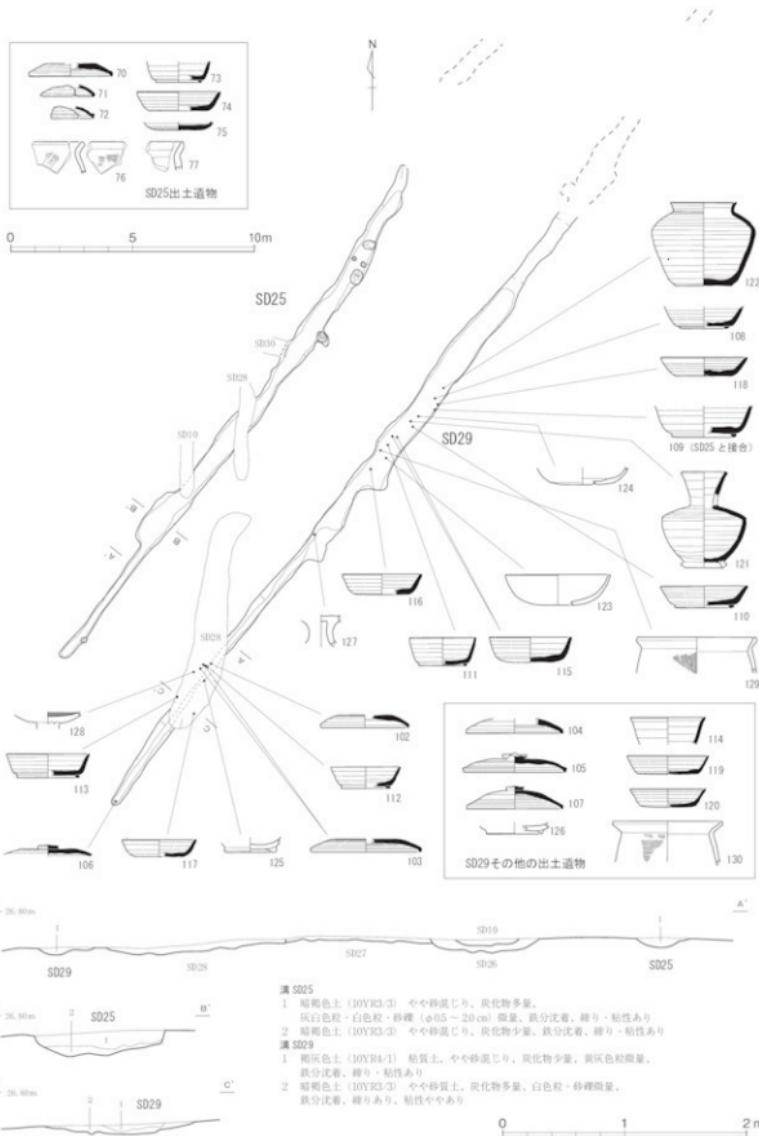
- 1 灰褐色土 (7.5YR4/2) 粘土質、地山小ブロック多量、炭化物・土器片中量



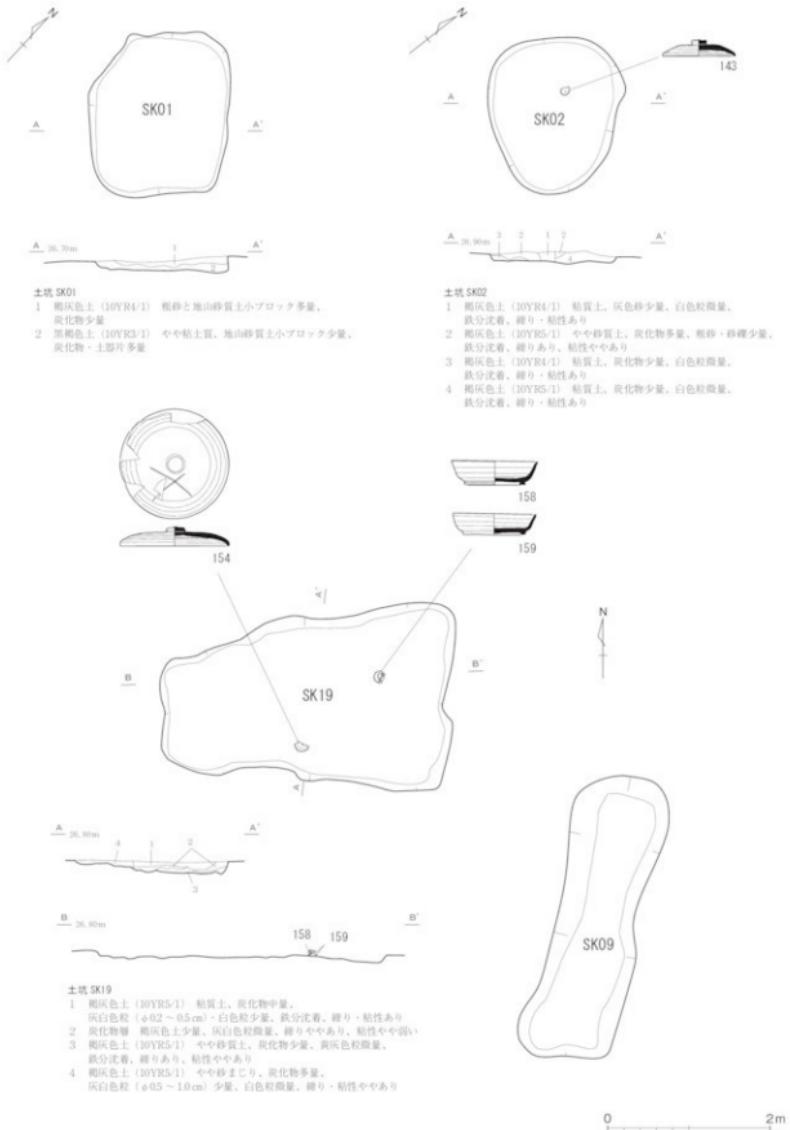
第8図 造構図 溝SD01~06・08・10



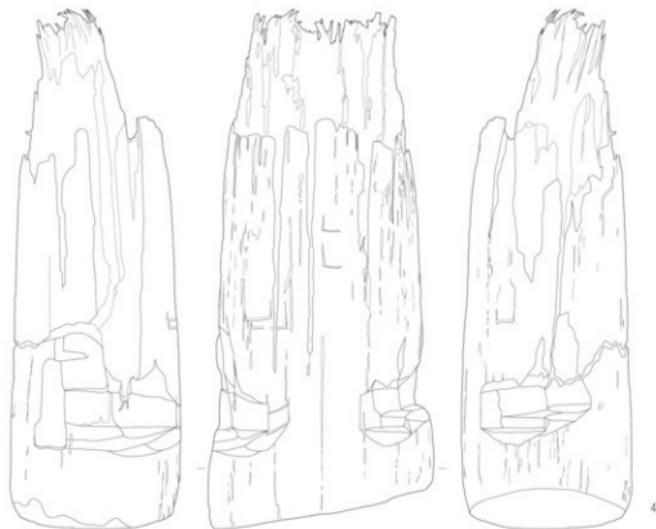
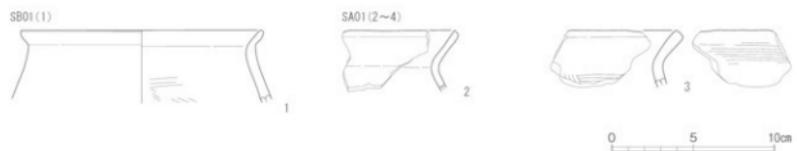
第9図 造構図 溝SD11~20・22~23・24



第10図 遺構図 溝SD25・29



第11図 造構図 土坑 SK01・02・09・19

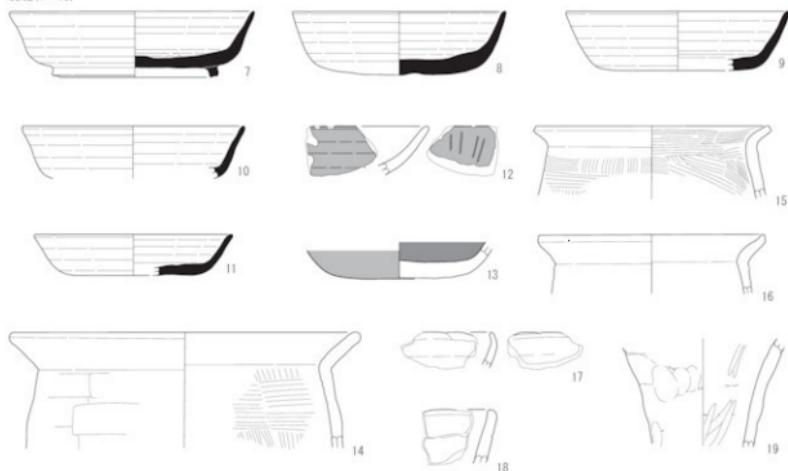


第12図 遺物実測図 土師器・木製品 (SB01、SA01)

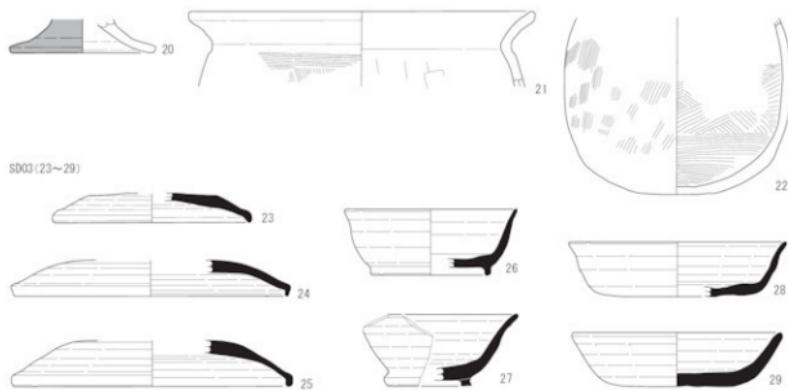
SD01(5~6)



SD02(7~19)

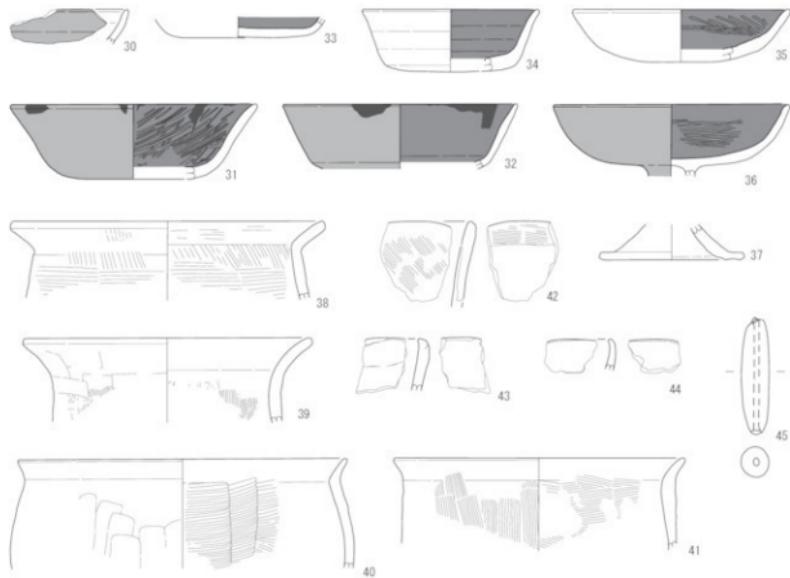


SD02・03(20~22)

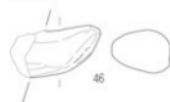


第13図 遺物実測図 須恵器・土師器・製塙土器 (SD01~03)

SD03(30~45)



SD07(46)



SD08(47)



0 (45) 10cm

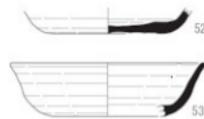
SD10(48~50)



SD11(51~55)



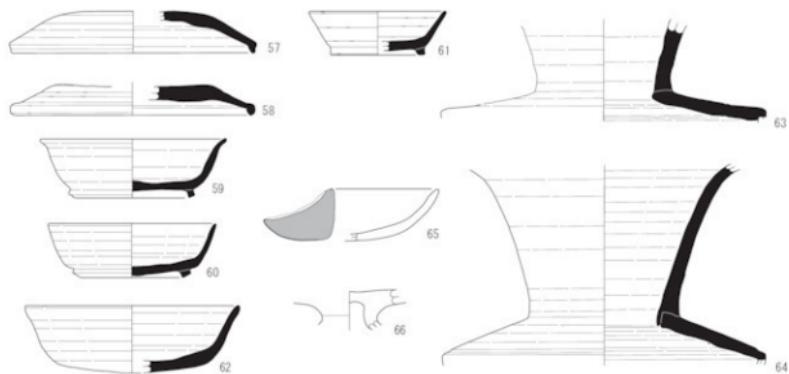
SD15(56)



0 5 10cm

第14図 遺物実測図 須恵器・土師器・製塙土器・土製品 (SD03・07・08・10・11・15)

SD16(57~66)



SD17(67)



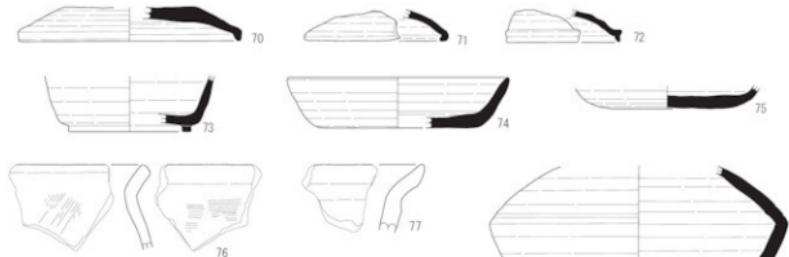
SD18(68)



SD22(69)



SD25(70~77)

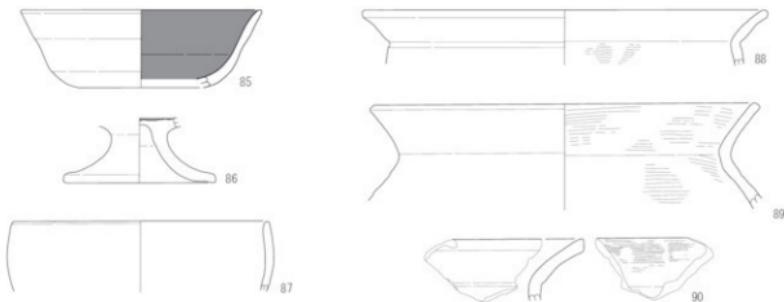


SD26(78~84)

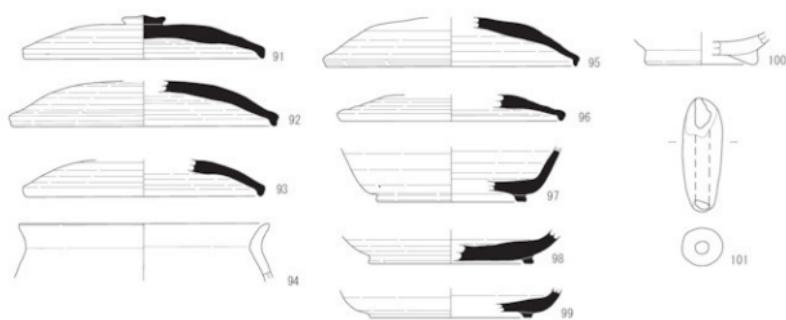


第15図 遺物実測図 須恵器・土師器 (SD16・17・18・22・25・26)

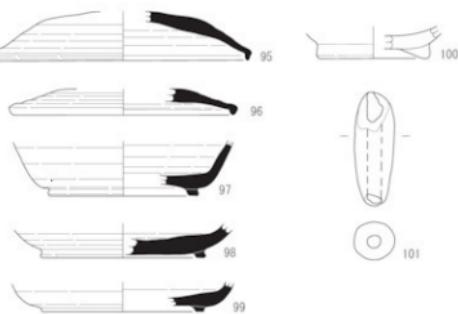
SD26(85~90)



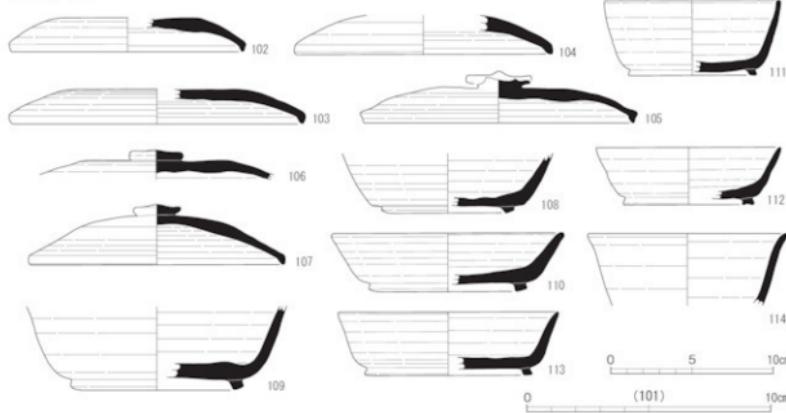
SD27(91~94)



SD28(95~101)

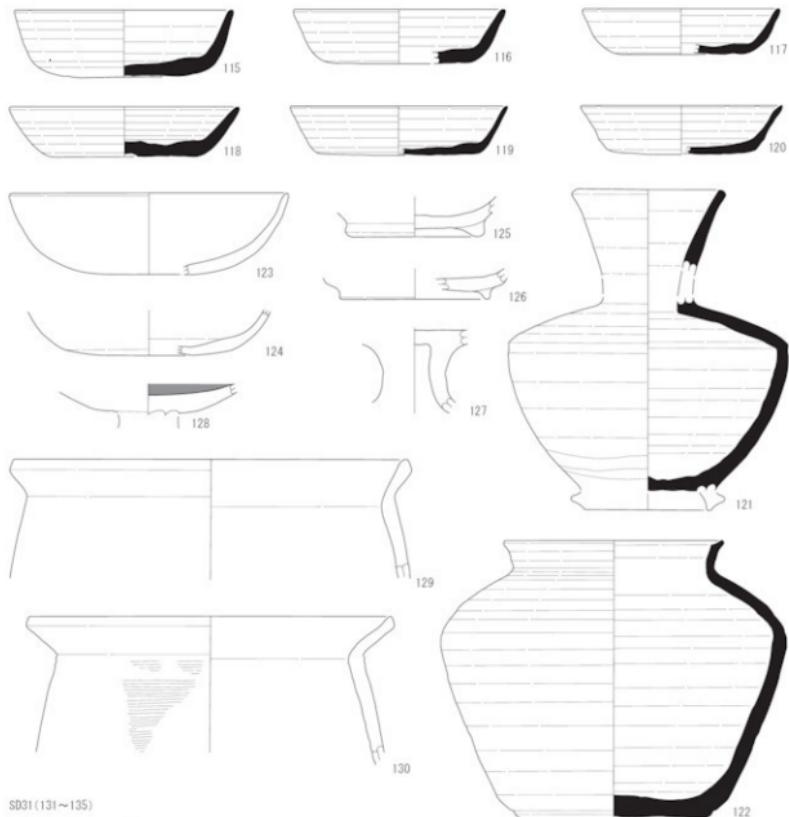


SD29(102~114)

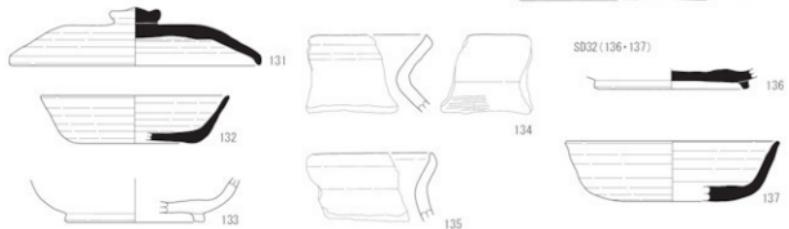


第16図 遺物実測図 須恵器・土師器・土製品 (SD26~29)

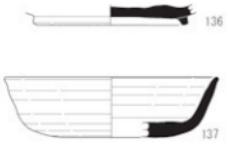
SD29(115~130)



SD31(131~135)

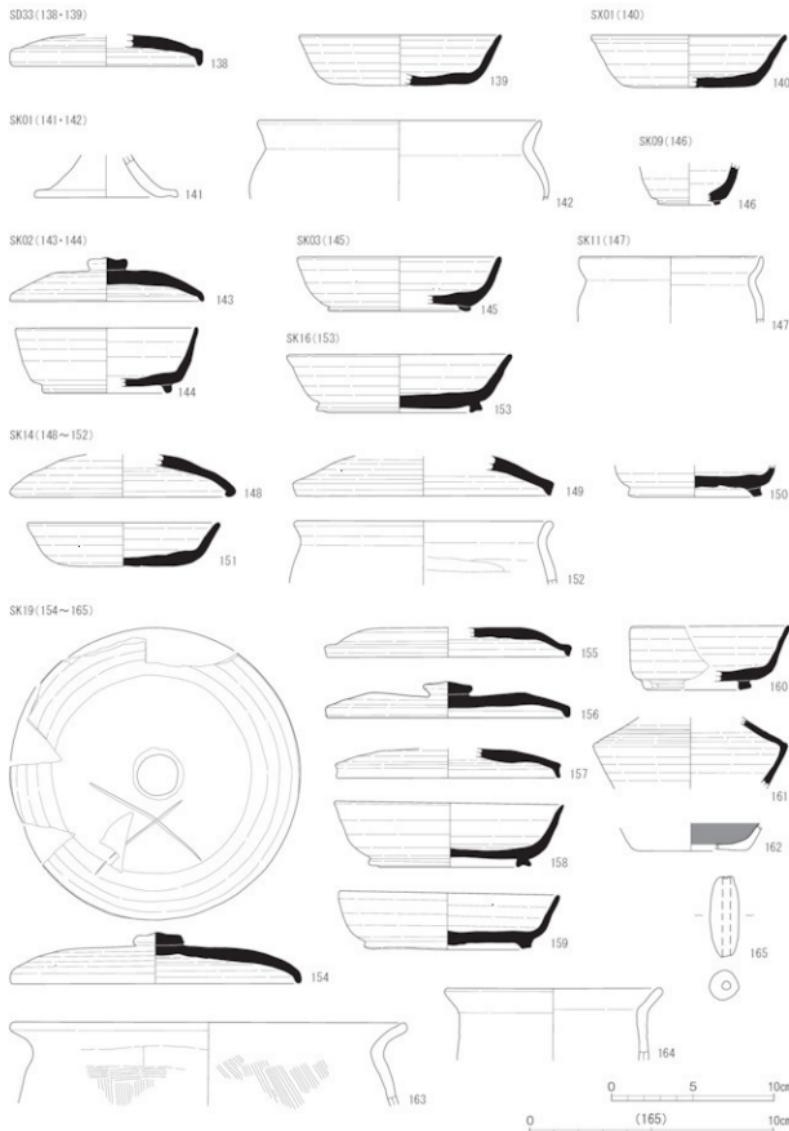


SD32(136・137)

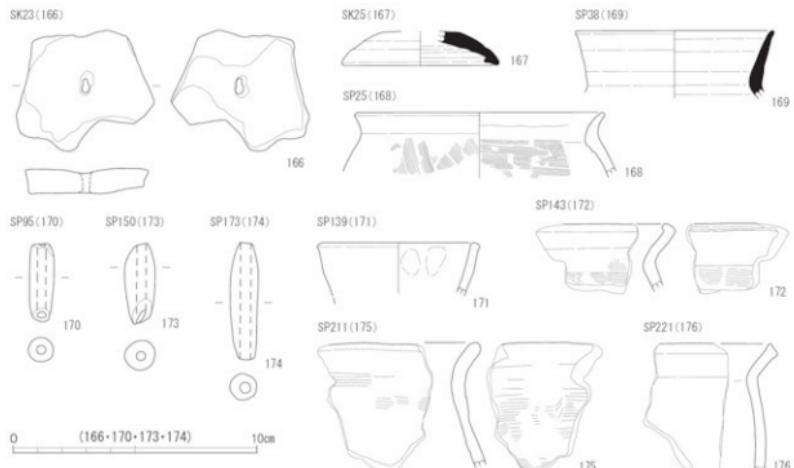


0 5 10cm

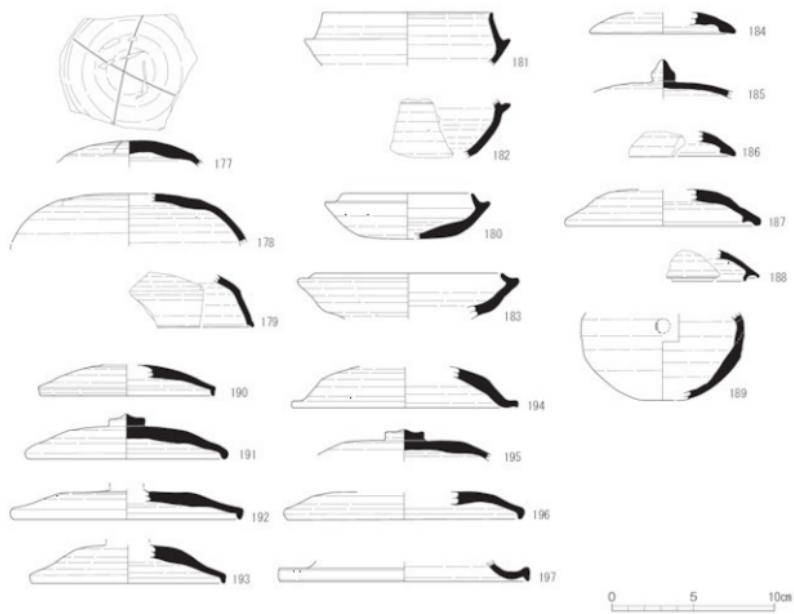
第17図 遺物実測図 須恵器・土師器 (SD29・31・32)



第18図 遺物実測図 須恵器・土師器・土製品 (SD33、SX01、SK01～03・09・11・14・16・19)

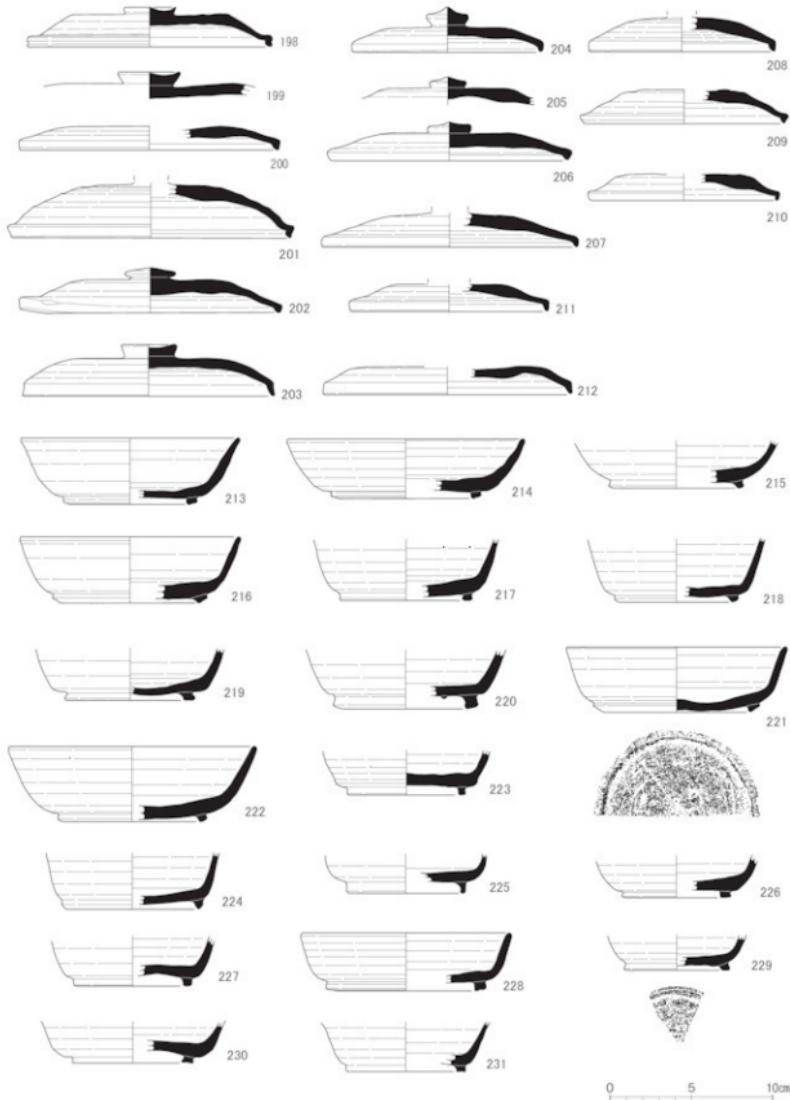


包含層(177~197)



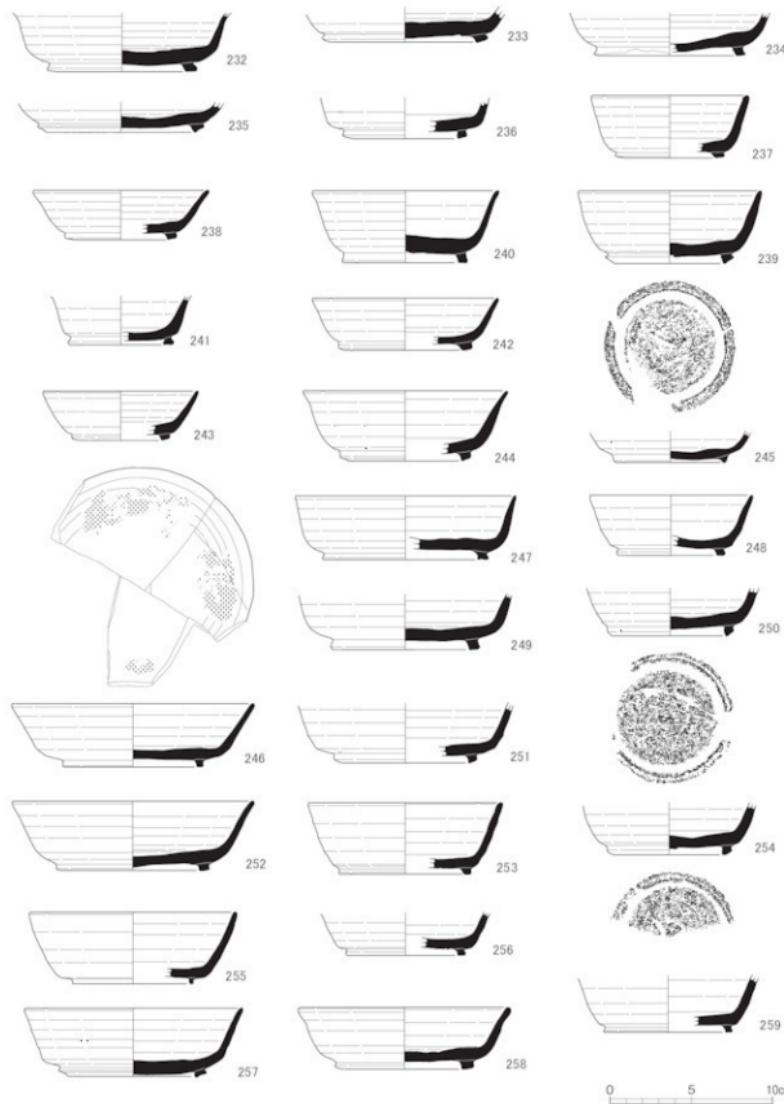
第19図 遺物実測図 須恵器・土製器・製塙土器・土製品 (SK23・25、SP25・38・95・139・143・150・173・211・221、包含層)

包含層(198~231)



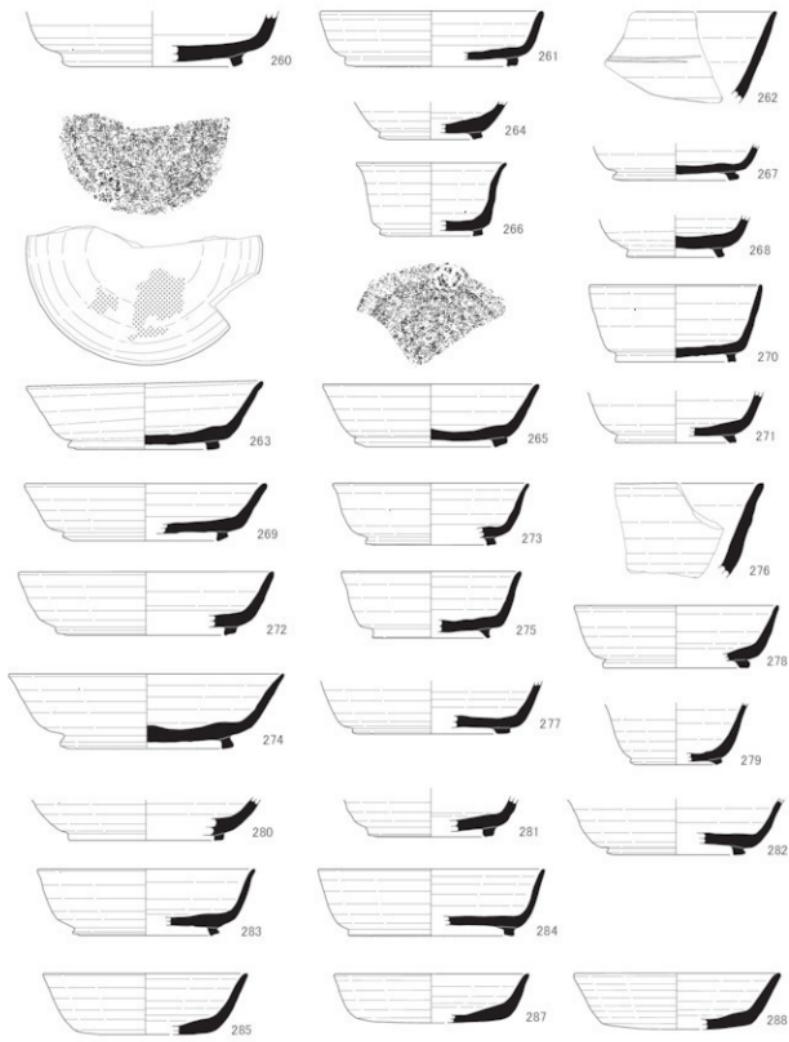
第20図 遺物実測図 須恵器（包含層）

包含層(232~259)



第21図 遺物実測図 須恵器(包含層)

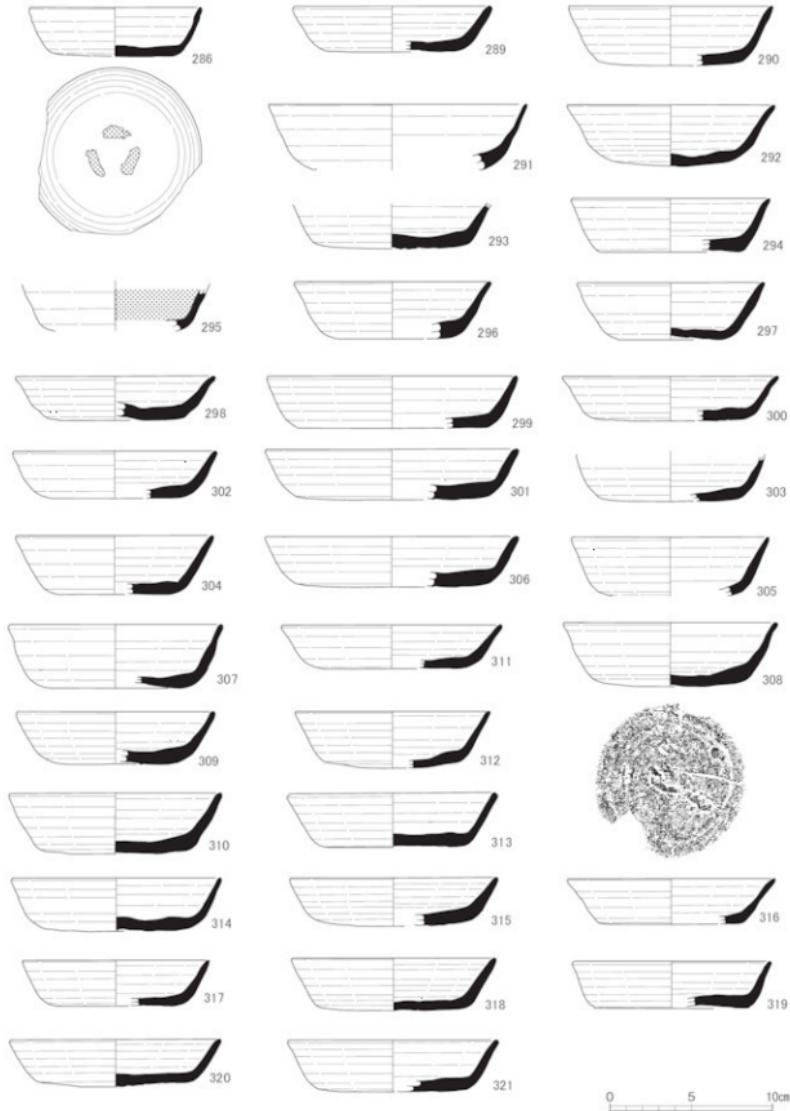
包含層(260~285・287・288)



0 5 10cm

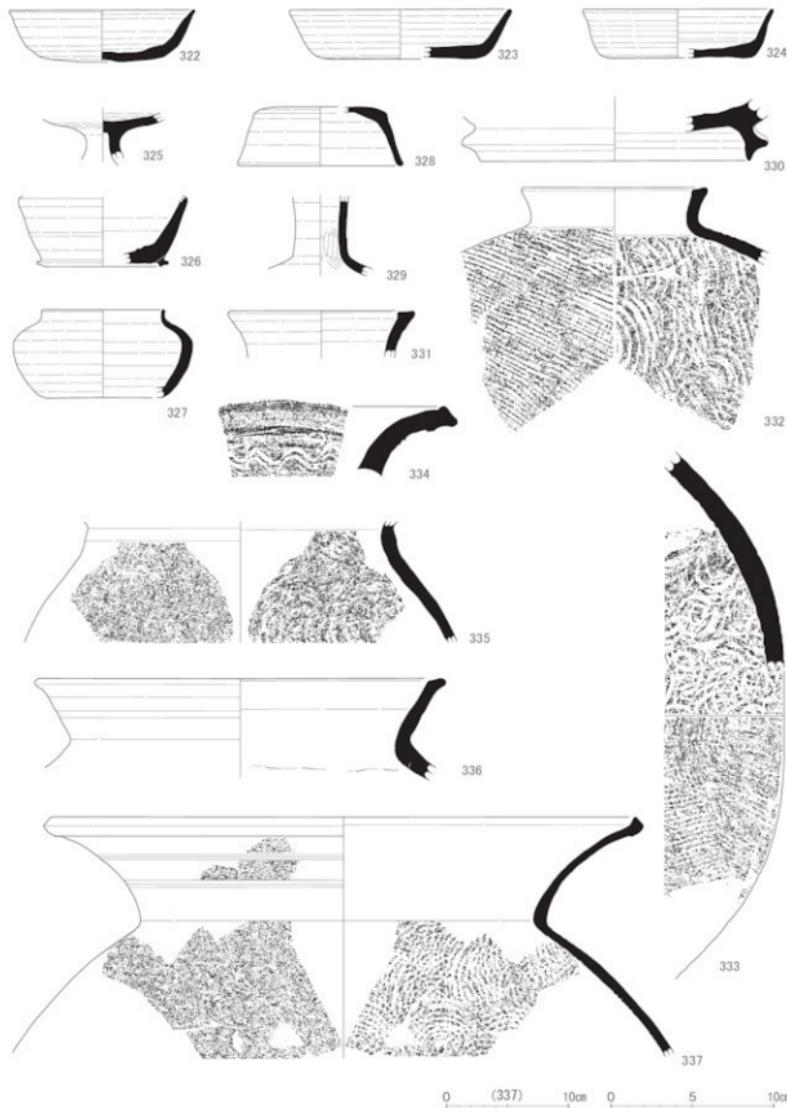
第22図 遺物実測図 須恵器(包含層)

包含層(286・289～321)



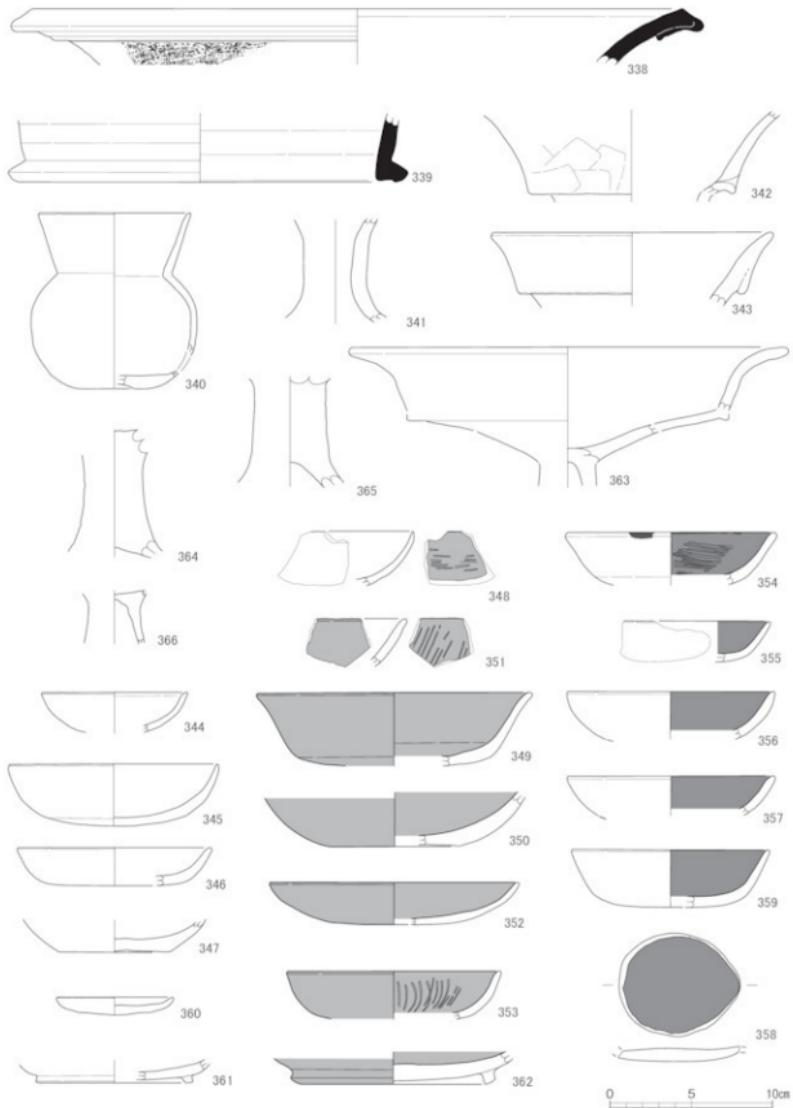
第23図 遺物実測図 須恵器(包含層)

包含層(322~337)



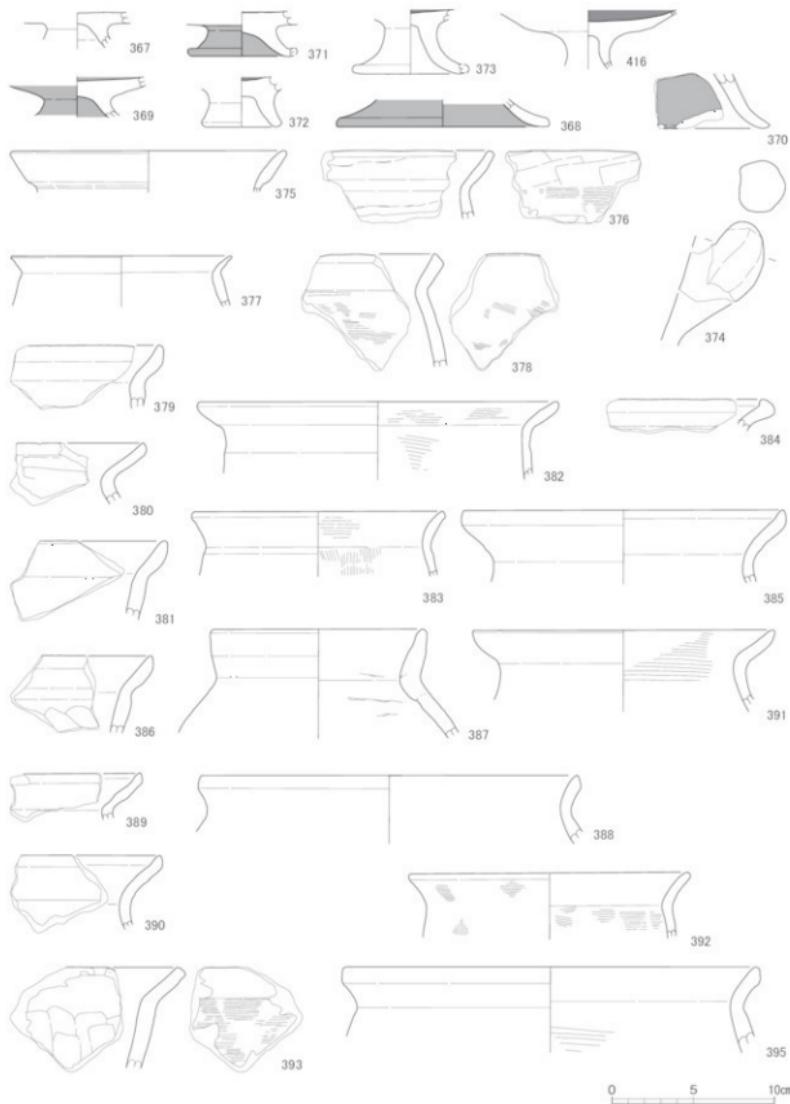
第24図 遺物実測図 須恵器(包含層)

包含層(338~366)



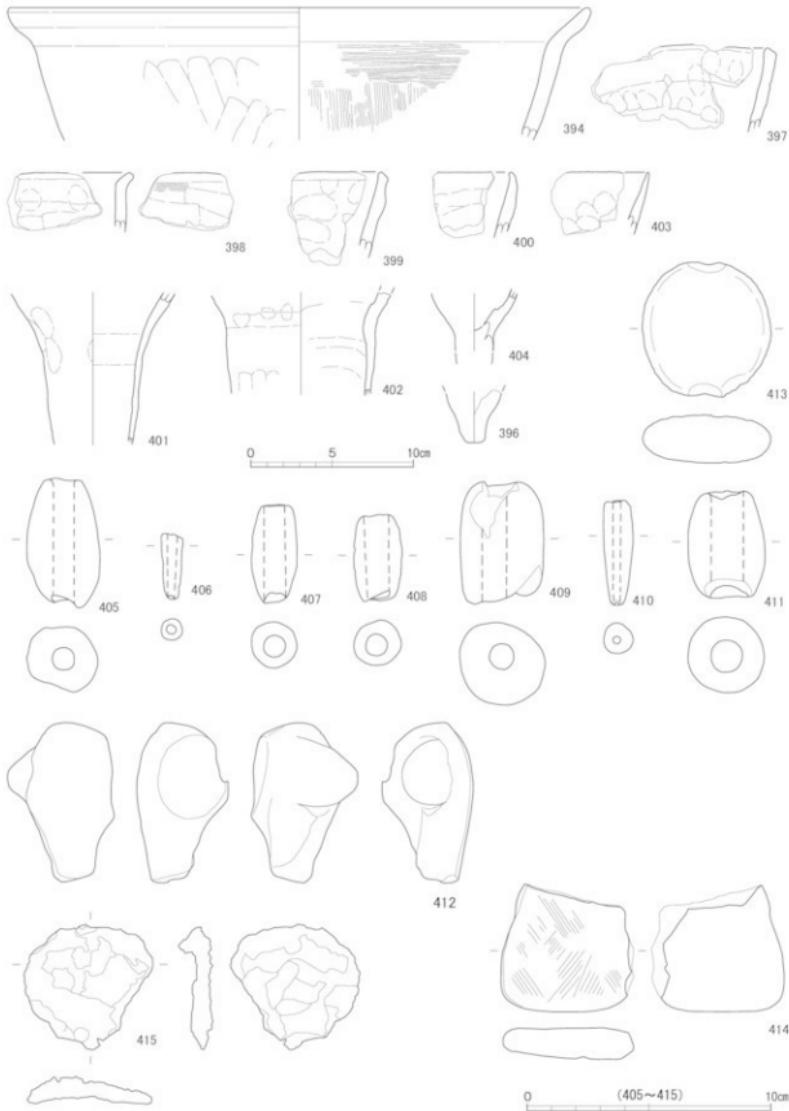
第25図 遺物実測図 弥生土器・須恵器・土師器（包含層）

包含層(367~393・395・416)



第26図 遺物実測図 土師器（包含層）

包含層(394・396~415)



第27図 遺物実測図 土師器・製塩土器・土製品・石製品・鉄滓(包含層)

付載 桜町遺跡の神祇信仰と長岡神社

常深 尚（有限会社毛野考古学研究所）

ここでは桜町遺跡産田地区の平成26年度調査で検出された奈良時代の掘立柱建物SB01について、昭和62年度調査の中出地区で出土した神祇職を記した墨書き土器から存在が指摘されていた延喜式内社「長岡神社」の社殿である可能性を考え、関連する遺構を含めて検討してみたい。

まず掘立柱建物SB01の特徴を挙げると以下のとおりである（図1・2）。

①SB01は奈良時代の集落中心部（昭和60年度調査区）から約100mの距離を置き、その間は建物の空白域が広がる。集落中心部の建物群は総柱建物を伴っており、その総柱建物を倉と考えれば、SB01は一般的な倉とは異なる機能をもつことが想定される。中心建物群の外縁には用水路と考えられるSD16（昭和62年度調査区のSD10）が流れ、SB01周辺域との間に境界が存在する。

②集落中心部から延びる道路遺構が流路（SD01～06）手前で途切れることで、SB01前面の空間への出入り口が存在する。

③SB01は南東を道路遺構、南西を流路に区切られ、さらに集落中心に臨む北面を2条の櫛（SA01・02）によって区画されることで、外部から隔離された施設となっている。内部はSB01南面に一定の空間を確保している。SB01周辺は周囲よりわずかに小高くなってしまっており、比較的水はけのよい場所である。SB01自体は極めて小規模な総柱建物である。

④グリッド単位の包含層の遺物出土量をみると、SB01の前面（南西面）にあたるC8グリッドで極端に少ないことが分かる（図3、本報告第7表）。とくに供膳具は須恵器杯1点のみで周囲との格差が際立っている。

⑤SB01南西側にある流路のうちSD03では、SB01に面する北岸33mの範囲に杭列があり、杭列より南東の下流側で遺物が多く出土する。出土した供膳具は須恵器に対して土師器の比率が高く（図4）、赤彩・内黒・油煙付着が顕著である。また製塩土器もまとまった量があり、SB01北側にも製塩土器が集中する場所がある。

このような特徴を有するSB01の性格を解釈するために、神祇信仰に関する以下のことを確認しておきたい。

桜町遺跡で特筆される遺物として、昭和62年度調査で平安時代の溝SD11ないし遺構外から出土した墨書き土器が挙げられる。「長岡」「長岡神祝」「祢宜」「大社祝」「大祝」「祝」などがある（小矢都市教委2003）。祢宜・祝はいずれも神祇職を示している。この墨書き土器によって、桜町遺跡が「和名類聚抄」にある古代砺波郡12郷のひとつ「長岡郷」に関わること、「延喜式神名帳」に記載された官社「長岡神社」の神祇職と関わることが示された。注目されるのは、墨書き土器の年代が平安時代前期を主体としながら、一部に奈良時代後期のもの（「大祝」「祝」）を含むことである。延喜式を大きく廻る奈良時代後期にすでに長岡神社が存在した可能性がある。

「延喜式神名帳」の越中国砺波郡には、高瀬神社、長岡神社、林神社、荊波神社、比売神社、雄神神社、浅井神社の順に7社が記載されている。「延喜式神名帳」における神名の記載順は、弘仁式、貞觀式、延喜式の順に追加されたもの、つまり官社に認定された順序であることからすれば（宮城1957）、長岡神社は高瀬神社に次いで（ないし同時に）官社に預かったことが分かる。越中国の官社については、古くは慶雲三（706）年に甲斐・信濃・越中・但馬・土佐の19社が祈念祭の班幣に預かっており（『続日本紀』）、8世紀の早い段階から存在したことが知られる。

官社制は、国家が認定した官社に対して毎年の祈念祭に神祇官が幣帛を預つ班幣制を軸とする律令的神祇制度である。7世紀後半の天武朝に始まり、大宝令で制度的に確立するものである。官社の認定は国司が国家に推薦

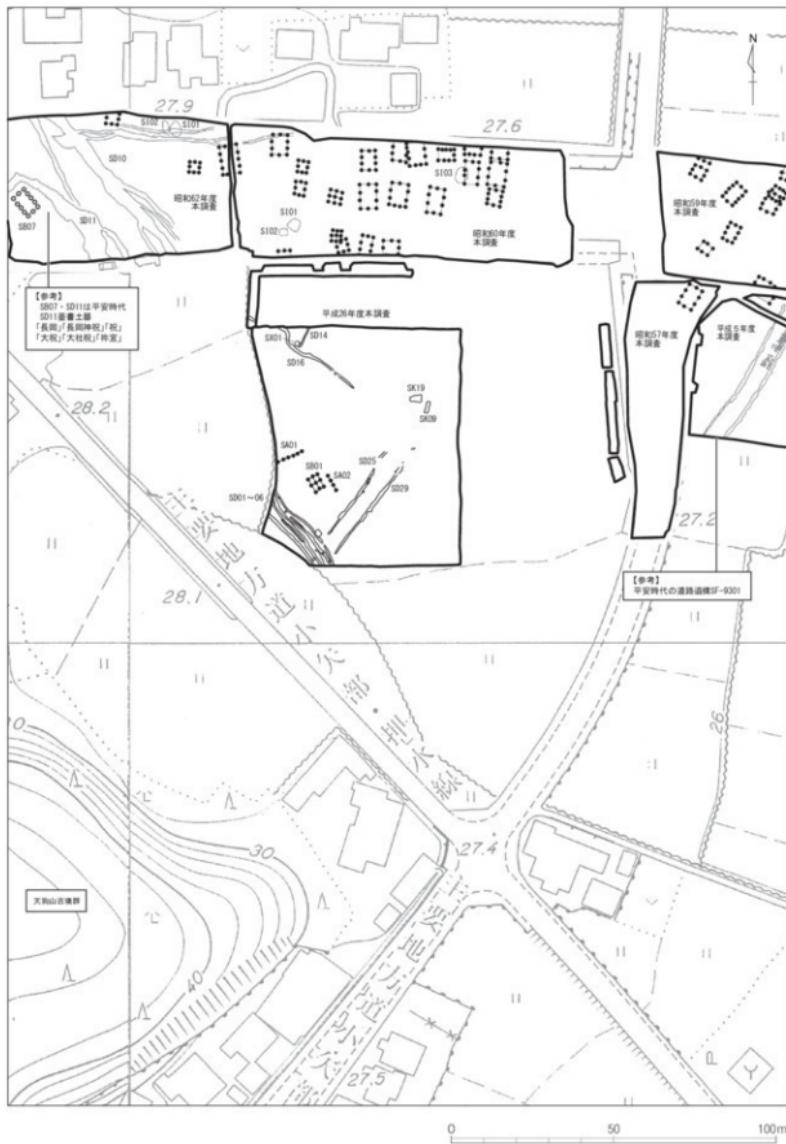


図1 桜町遺跡の奈良時代主要遺構

する場合などがあり、認定の理由は農事、兵事、民生などに関して靈験があることが想定される。当然ながら、長岡神社が官社に認定されることとは、常設社殿の有無は別として、特定の神を奉斎する在地の共同体がすでに存在していたことを示している。

このような神社の存在は東大寺領莊園図にも描かれている。天平宝字三(759)年作成の「越中國磯波郡石栗村官施入田地図」には、開田地の周縁に「櫛田神」「浅井神」「荆波神」「男神」「土神」の神田が記されている。浅井神・荆波神・男(雄)神は上記磯波郡の式内社であり、櫛田神は隣郡の射水郡の式内社である。これらの神社が天平宝字三年の段階ですでに官社であったかは明らかではないが、特定の神を奉斎する共同体が各地にあったことは確実である。莊園図に描かれた神社より延喜式神名帳への記載が早い(または同時の)長岡神社は、8世紀後半の早い段階には共同体組織としてすでに存在していたことは確実で、8世紀前半に遡る可能性もある。

祢宜・祝は神祇職の呼称であるが、祢宜が祝よりも上位であるとされる。祝は6~7世紀にすでに存在し、実際の祭事を掌り、時に神懸かりによって神託を下す古来からの職である。大宝令にも祝部の規定があり、8~9世紀においても専ら祭事を掌っている。一方、祢宜(樞宜)は大宝令には規定がなく天平宝字二(758)年が初出(『続日本紀』)であるが、実質的な制度化は9世紀に入ってからとされている。諸社には概ね祝が存在し、祢宜が存在する社は一国でも僅少であったと推定されている(西宮2004)。このような職階のありかたは、桜町遺跡出土の墨書土器にみられる神祇職と一致する。つまり、奈良時代後期の墨書は「大祝」、「祝」があり、平安時代前期の墨書は「長岡」(2点)、「長岡神祝」(2点)、「大社祝」、「祝」、「祢宜」がある。桜町遺跡では、奈良時代後期には祝が存在し(大祝と祝の複数であった可能性もある)、平安時代前期には祝と祢宜が存在したといえる。

このような桜町遺跡と神祇信仰に関する状況を踏まえたうえで、桜町遺跡に長岡神社が存在した可能性、言い換ればSB01が社殿であった可能性を念頭に置きながら、冒頭に挙げたSB01の特徴①~⑤を解釈してみたい。

①桜町遺跡は小矢部川と子撫川の合流点付近にあって水に恵まれた土地にある。小矢部川の水運が国府に通じ、また大伴家持が頼朝の歌を詠んだ鶴田川を子撫川に比定する説もあり、漁業も盛んであった。北に神南備型の稻葉山が聳え、西には丘陵があつて湧水が集落や水田を潤す。SB01は子撫川が山間部から平野部に出る地点にあって、丘陵の麓に位置している(写真図版扉を参照)。神観念が山、川、水と不可分であるとすれば、神社の立地に相応しい場所といえる。もとより神社は穢れを厳しく避けるものであるから、集落から離れた清淨の地が選ばれる(岡田1998はか)。SB01は集落中心部から距離を置き、集落側に横、背後には流路を隔てて丘陵が聳えており、水辺の静寂な場所にある。奈良時代の集落は昭和62年度調査のSD10が西限となっているが、本調査のSD16がその延伸部分である。この溝は丘陵の湧水を利用した灌漑用水路であるが、以南にはSB01を除き建物がないことから、集落中心部と外部を水によって区切る境界としての意味合いを合わせもったと考えられる。これをただちに居住域と神域との結界とは断定できないが、神域に入るには水による浄化(斎粋・禊)が不可欠であること、禊は祭りそのものではなく祭場の外で行う準備であること(岡田1998)を重視すれば、SD16が禊の場になった可能性は十分にある。SD16の張り出し部が溜井状施設を伴い、事前の試掘調査の際に周辺で土馬が出土していることから、SD16が水に関わる特別な場であったことも傍証となる。以下、SD16以南を仮に神域と呼ぶ。

②SD25・29を側溝とする道路遺構は、平成5年度調査の道路遺構SF-9301と同方位で、溝の心々距離が若干短い。SF-9301は平安時代の官道北陸道と推定されるものであるが、SD25・29は集落中心部では検出されておらず、限定期なものである。北側で遺存状況が悪いが、SK09はSD25の残存の可能性がある。SK09付近は前述のSD16の延長線上にあたり、居住域と神域とを区切る場所にあることから、ここから道路遺構が南へ延びていたと考えられる。そこには堅穴建物の可能性があるSK19があり、須恵器杯の意匠的な廐棄状況(PL7)と焼失

の痕跡がある。道路遺構の南端は流路(SD01～06)の手前で途切れる。右に折れてSB01前面の空間へ入るという空間構成は、古い神社の参道が社殿に突き当らず、正面を避けてつけられるという古代信仰のあり方(岡田2011)と一致し、道路遺構が参道であった可能性を示す。道路遺構の南側延長線上には流路内にピットが並ぶが、その先が湿地になることから、道路遺構がさらに延びていたとは考えにくい。鳥居とするにも規模が小さいので、全容が不明な現状では棧橋のような張り出しがあった可能性の指摘だけに留める(将来の調査では、ここより下流の流路での出土遺物が注意される)。

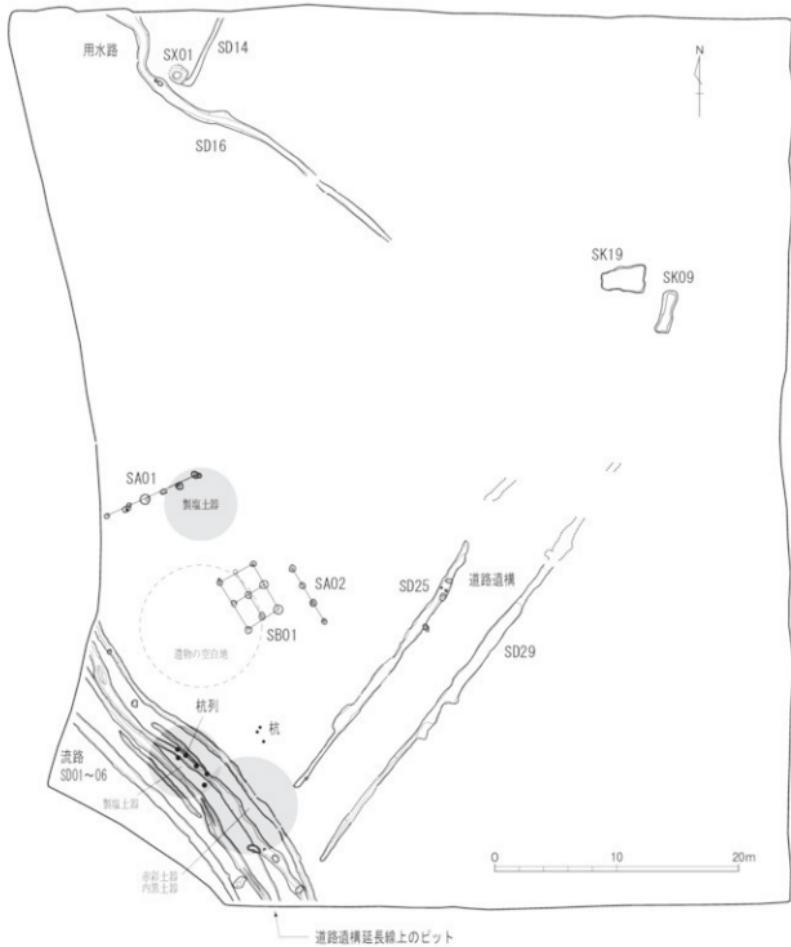


図2 SB01周辺の遺構群

③道路遺構から右に折れて柵に囲繞された内部空間に入る。SB01はこの内部空間の北東に寄っているので、建物前面の南西側には蛇行する流路との間に一定の空間が広がる。SB01は柱穴の規模が小さく、部分的に不揃いな柱筋が示すように、非常に簡素な建物と想像される。神社建築で古制を伝える京都府宇治上神社などにみられるように、古代の一般的な神社建築は人も入れぬような小規模な掘立柱建物であり、場合によっては土井桁のような地下に痕跡を残さないようなものであったことが想定されている。つまり、社殿は神を迎えるための施設であって、中に人が入って神事を行うことはなく、祭儀は露天の庭上で執行されるものであった(岡田1999、篠原2004など)。SB01はこのような見解に沿う小規模なものであり、前面の空間が庭上祭祀を行う場所であったと考えられる。柵に囲繞された内部空間が周囲より小高く、水はけの良い場所であることも、同所が祭場として相応しい立地であることを示している。

④宝亀六(775)年の官符をはじめとして、官社の修造・清浄がたびたび求められているように、祭場には極度の清浄さが要求される。これを遺構で捉えることは困難であるが、SB01前面の空間が清浄な庭上祭祀の場であつた可能性を遺物出土量の少なさが傍証する。包含層中の遺物量(ほとんどが8世紀代である)をグリッド毎に示したのが図3と本報告第7表である(遺構出土遺物を加えても傾向は同じである)。SB01前面のC8グリッドは破片数が25点しかなく、隣接するグリッドの135、128、602、141、1298点などと比べて極端に少ない。しかも杯・高杯の供膳具が須恵器1点しか出土しておらず、後述する⑤の状況とは対照的である。SB01前面のC8グリッドが清浄さを保った空間であったことが窺われ、祭祀に使われた祭器は、祭場外で処理されたものと判断される。

⑤SB01の南西を区画する流路(SD01~06)は埋没と掘削を繰り返した溝であるが、この部分からは包含層も含め、斎車や人形などの祭祀遺物は出土していない。これは禊や祓は祭場内では行わず、祭場外で行うものであつたためであろう。雨乞いに関わる土馬も出土していない。出土するのは須恵器・土師器の供膳具が多く、貯蔵具は少ない。ほかに製塙土器がある。包含層中の供膳具の比率をみると、多くのグリッドで概ね須恵器が50%を超えるなか、流路に相当するC9グリッドでは土師器の比率が72%と高いうえ、赤彩ないし内黒を施したものが多く多い。SD01~06の出土遺物をみても同様の傾向がある(図4、本報告第2・7表)。日常の食器は須恵器で駆られ、土師器供膳具は主に祭器として使用されたと考えられる。SB01に関わる祭祀は、多くの場合、神に対する供譲という形で執り行われたのであろう。これらの遺物はSD03北岸の杭列より下流で出土しているが、破片の断面がシャープで上流から流れ着いた状態ではないことから、廃棄時の原位置を比較的保っていると判断される。杭列は流路の蛇行がSB01に最も近い場所にあり、祭儀後に撤下された祭器は杭列付近で溝に流されたと考えられる。杭列は祭場柵の北岸だけを護岸したものであろう。SD03以外の溝でもほぼ同じ場所から祭器を流したと考えられる。内黒土器には油煙の付着する個体が多いことが指摘できるが、これは古代の祭儀が夜間に行われるのが通例であったことを裏付ける。製塙土器は集落中心部から離れた出土であり、土師器供膳具とほぼ同じ出土状況を示すことから、神譲としての塙の存在を想起させるが、製塙土器のまま供えることは疑問である。神譲の調理ないし直会の調理をする場が付近にあった可能性を考え、製塙土器の集中する別地点がSB01の北側にあることから、C6・D6グリッドのピット集中地点における調理施設を検討したが、調理を窺わせるような遺物や焼土の痕跡もなく、否定せざるを得なかった。SB01北側の製塙土器については、流路出土のものと口縁部形状の異なる個体を含むことから、SB01とは異なる時期の可能性を想定しつつ、用途の特定はできないが流路出土の製塙土器についてのみ祭儀に関わったものと理解しておきたい。

以上のような解釈により、SD16が居住域と神域を切り、禊を行いう場、道路遺構が参道、柵内が祭場、SB01が前面に庭上祭祀の場をもつ社殿、流路が祭器の撤下場所として認識され、総体として神社を構成することに一

定の見通しが立ったと考える。

ここで岡田精司氏が指摘する神社成立の三つの最低条件を挙げると、(1)一定の祭場と祭祀対象、(2)祭る人の組織、(3)祭りのための建造物の成立である(岡田2011ほか)。

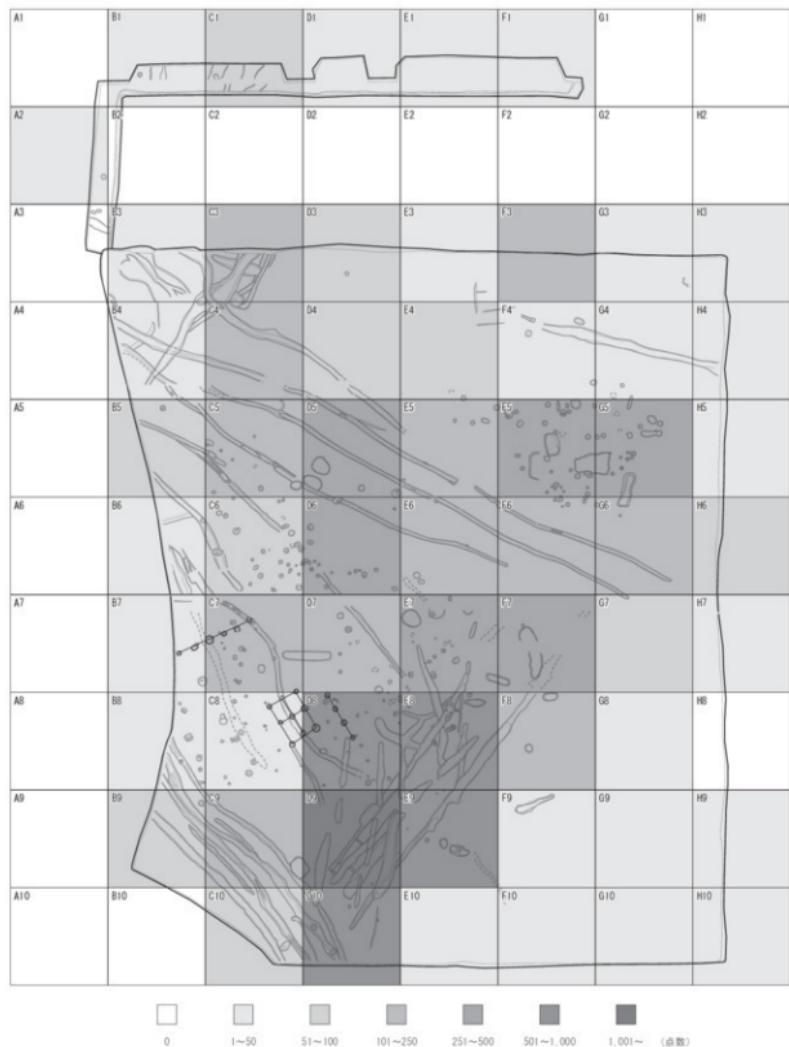


図3 グリッド単位の包含層遺物出土量

(1)の祭場は前述のとおりで、祭祀対象については、古代の神観念が山・川・湧泉・巨石・巨木などの自然物を崇拜対象としていたことからすれば、川や湧水といった農耕に欠かせない水の存在が考えられる。古墳時代前期にはすでに丘陵からの湧水を利用した灌漑が行われており、丘陵谷間の舟岡地区では溜池の堤防と考えられる樹皮敷きの木組みが検出されている(小矢都市教委2004)。古墳時代の祭祀の痕跡は明瞭ではないが、奈良・平安時代も一貫して同じ湧水が利用され、集落内で土馬が出土することからすれば、水に関わる農耕祭祀があったのは確実である。長岡神社が桜町遺跡に存在したとすれば、官社に認定された要因は陸上・河川交通の要衝にあり、小矢部川と子撫川の合流点にある立地が重要視されたことにあると考えられる。官社認定に関与する越中国府にとって小矢部川は重要な河川であり、能登国境に源を発する子撫川との合流点は水の集まる場所として認識されていたであろう。それは広瀬大忌祭の行われる広瀬社(奈良県)が、多くの河川が大和川に合流する場所に位置し、水神の坐すところとされたことからも類推される。(2)の祭る人の組織は墨書き土器の示す祢宜・祝、(3)祭りのための建造物はSB01が該当し、岡田氏の三条件を満たしているといえる。

常設社殿の成立年代について、岡田氏は王權と国家的祭祀に関わる特殊な神社でも7世紀後半、地方では平安時代中期以降とされる(岡田1998など)。しかし桜町遺跡における社殿の成立については、SB01に関連する遺構の出土遺物の時期や、神祇信仰を示す文字資料が8世紀後半を過ぎて見いだせないことから^(*)、現状では8世紀後半と考え、成立の契機については官社への認定を想定したい。伝統的に農耕祭祀を営んでいた共同体組織が、官社化することによって律令的神祇制度に組み込まれ、社殿をもち祢宜・祝が奉仕する姿に変容し、それが長岡神社と認識されるに至ったと考えたい。ただし、SB01周辺の遺物が8世紀前半に出土し始めるを考えれば、長岡神社の成立が8世紀前半に遡る可能性も否定できない。

桜町遺跡は陸上・河川交通の要に位置し、7世紀以降、砺波郡長岡郷の開発拠点として機能したと理解される。遺跡内には漆容器、編板、鉄滓・炉壁、鞘の未成品など、多様な手工業生産を窺わせる遺物を伴っている。7世紀の早い段階に越中でもいち早く掘立柱建物のみで構成される集落が出現することは、長岡神社の『延喜式神名帳』への記載の早さとあわせ、砺波郡における当地の重要性を窺わせるものである。その前提には、前方後円墳の可能性がある1基を含む天狗山古墳群の造営にみられるように、古墳時代前期以来の湧水を利用した耕地開発が定着し、集落が形成されてきたことがある。古墳時代における祭祀は、丘陵の谷間にある舟岡地区的調査で前期から中期の土器が比較的多く出土することから(小矢都市教委2004)、谷部の湧水点が候補地となろう。同地区の5mに達する多重的な土層堆積状況は、織文時代以来、この谷の制御に人々がいかに驚心してきたかを物語っている。そこには湧水点に臨む原始的な祭祀が想定される。古墳時代の祭祀を掌った祝は、当地の開発を主導してきた在地首長層であろう。『常陸國風土記』には、箭括氏麻多智が、繼体天皇の世に、谷戸田の開発に際し社を設け、自ら祝となつたとある。その子孫が律令期まで祭祀を掌っていたことが示すように、律令期の祝が古墳時代の在地首長層に由来する場合があることは十分に想定される。7世紀における横穴墓の隆盛を在地首長層による地域支配の弱体化と家長層の台頭と理解しても、桜町遺跡の集落にみられる先進性は、桜町横穴墓群の被葬者が周辺の横穴墓被葬者のなかでも中核的な階層にあったことを示している。SB01が同所に立地した要因は、集落の中心地から離れ、小高い水辺の地であるという清浄性だけでなく、その軸方位が示すように、祝たちの出自を象徴する天狗山古墳群のある丘陵を背景に取り込む意識が働いたものと考えたい(図1、写真図版扉参照)。

このような祝とその共同体の歴史的背景が、律令期の神社の果たした役割に大きく影響したと考えられる。「神社の背後にはその祭神を中核にして農耕祭祀を営み、神社を維持する農耕集団=村落共同体の存在を想定できる」と指摘されるよう(藤井1997)、東大寺領莊園の開発にあたって在地神社の神田が設置された背景には、災害を避け豊穣を祈願する宗教的な意義に加え、在地神社の労働力を動員する役割が想定されている(吉村1974)。また

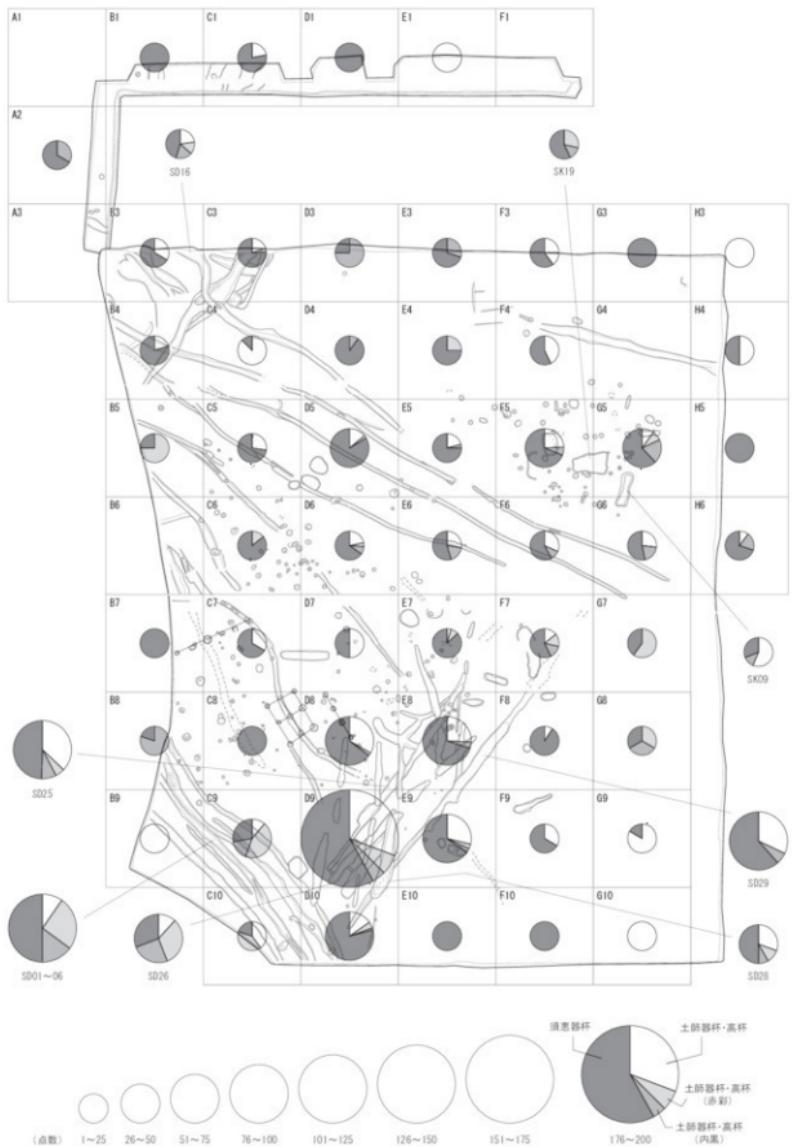


図4 包含層及び主要遺構出土古代供諾具の組成

平安時代に下るが、元慶三(879)年に出された、堤防修理を拒んだ林宜・祝を免職するという太政官符について、「林宜・祝がその職制上灌漑に責任を有していたことを意味する。つまりそのことによって、神社が灌漑用水について一定の支配力をもち、その権限を林宜・祝が行使していた」と理解されている(戸田1967)。このような理解に立てば、林宜・祝を擁する長岡神社が長岡郷の開発に主導的に関わる存在であったことは明らかである。元慶三年の太政官符は神祇職の官人化・官職化を示すものであり、昭和62年度調査で墨書き土器とともに出土した帶金具(銅製鉗具・巡方・鉄製鉗尾)は、8世紀末以降に官人化が進むとされる林宜・祝の所有物とみなされる。

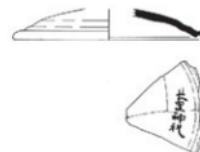
このように、桜町遺跡は神祇信仰と地域開発との関係性を検討しうる貴重な事例といえる。しかし、課題も少なからず存在する。奈良時代の社殿SB01は、横SA01が焼失し、道路遺構の側溝SD25・29が埋め戻された可能性があること、SB01周辺を含めた調査対象地全般に平安時代の遺物がほとんど出土しなかったことから、平安時代前期には遺跡内で移転したと考えられる。その契機としては、SB01の東90mほど位置に古代北陸道とみなされる道路遺構が出現し(図1、小矢都市教委1994-2003)、それに伴って居住域が大きく西へ移動していることから(昭和62年度調査中出地区)、平安時代に入って集落の構成が大きく変化したことが関係すると考えられる。昭和62年度調査で墨書き土器「長岡神祝」などを出土した平安時代の溝SD11及び掘立柱建物SB07(図1)は、溝内の堰状遺構における水の祭祀との関わりは想定されるものの、同時期の掘立柱建物群に近く、依り代である車両が出土するなど、SB07周辺には清淨な空間を伴った社殿の存在を求めていく。桜町遺跡の古代集落は11世紀までその痕跡を留めているが、平安時代の社殿や祭場のあり方を明らかにすることが残された大きな課題であるといえよう。現状ではSB01南西側流路のより上流で、丘陵に近い場所に平安時代の祭場を想定しておきたい。なお現在の長岡神社は桜町遺跡の東方約5.0kmの小矢都市七社にある(本報告第2図)、これは小矢部川・子撫川の水難を避け、南北朝期までは七社へ遷座したものと解釈されている(河合1990)。遷座の時期やその要因を考古学的に明らかにすることも課題のひとつである。また前述のように、官社としての社殿が成立する以前の古墳時代における祭場の発見も待たれるところである。

奈良昭和9年度調査区では、出土位置が不明ながらハラ書き「森口」のある須恵器が出土し、飛鳥時代前期のものとされているが(小矢都市教委2003)、神祇信仰に関するものであるかは判別できない。本調査では墨書き土器が1点も出土しなかつたが、平安期の遺物が少ないという時期的な古さと、居住域から離れたことが要因に挙げられる。

【引用・参考文献】

- 佐藤千本 1978 「古代地域史の研究 北陸の古代と中世」 日本考古学会
浅井洋平 1990 「古代の北陸道における神祇信仰」『日本海文化』6号 古代日本海文化研究会
浅井洋平 1991 「地方創生と神社」『長岡市史』春・小矢文庫編 桜樹社
浅井洋平 1998 「『須恵器』に対するメモ」『古史日本のはなし』下巻精進・小矢文庫編 桜樹社
浅井洋平 2006 「大社社の起源と変容」『古史の美術』46号 花房大輔主編・至文堂
有吉純也 2008 「神社建築の成立と律令制」『國立歴史民俗博物館研究報告 第148集』國立歴史民俗博物館
有吉純也 2009 「日本古代国民の祭祀と分配理念」 東京大学出版会
安田正昭 2008 「『祭りの考究』『学問』『詩歌』」『祭りの考究』 安田正昭著
石川義典 1980 「古代の北陸道とその沿線の村落とその居候者」『歴史地理学 第110号』歴史地理学会
石川義典 1980 「古代の北陸道とその沿線の村落とその居候者」『歴史地理学 第110号』歴史地理学会
井上尚明 2000 「孝子伝の作成と傳承——『孝子傳』も「一つの律令祭』」『博士論文』国立歴史民俗博物館(2005)
井上尚明 2001 「古代北陸道の須恵器」『歴史研究第165号』 花房大輔・久慈邦義著文化財調査事業団
上田正昭 1980 「神聖地の背景」『日本古代の国家と宗教 上巻』吉川弘文館
宇野勝大 1991 「律令社会の考究——北陸を舞台として」桂書局
柳原義典 1964 「律令制度の実際的研究」 吉川弘文館
山口正昭 2000 「古代の北陸道とその沿線の村落とその居候者」『歴史地理学 第110号』歴史地理学会
山口正昭 1990 「古代の北陸道とその沿線の村落とその居候者」『日本考古学』中央考古会・中央大学考古学研究会
山口正昭 1997 「伊勢守宮の能登と攝社・種持社建物は神社遺産か?」『古代の日本と波瀬の文化』上田正昭編
吉川義典 2006 「古代国界と道筋」青木書店
吉川義典 2008 「道筋と能登・考究からみた道づくり」青木書店
吉川義典 2014 「日本の古代道筋――道路は社会をどう変えたのか」 株式会社 KADOKAWA
大庭邦裕 1997 「官社社の西御門計・須恵器類の輪郭から」『歴史学研究』367号2 历史学研究会
大庭邦裕 2003 「『柔葉』と『木之王』と『木ノ王』と『木ノ主』を考える 3「前と後と流説」」岩波新書
大庭邦裕 2005 「『柔葉』と『木之王』と『木ノ王』と『木ノ主』」『古事記研究』岩波新書B-17号 道路
岡田勝司 1970 「古代北陸の祭祀と神話」 篠原社
岡田勝司 1992 「神と尊まつり」『古物時代の研究』12号 岩手県
岡田勝司 1993 「神社の誕生はどこで遡るのか?」『道筋を歩む本』宝文社
岡田勝司 1998 「大聖堂は物遺度と神社の祭祀」『日本古史 都市と神聖の誕生』 広瀬和基編著 新人物往来社
岡田勝司 1999 「古代神代の源流」『古代日本と神代』神代は神聖な世界はあったか?』『考古学研究』第46巻第2号 考古学研究会
岡田勝司 2001 「新羅の祭祀と神話」『新羅の祭祀と神話』 岩波新書
岡田勝司 1994 「『八・九世纪における地方神社行政の展開』『史學緯叢』103-3 史学会
鬼塚久美子 1995 「古代の宮殿・国府における祭祀の場—境界性との関連について—」『人文地理』第47巻第1号 人文地理学会
小矢部市 2002 「小矢部市史 -おとべ郷-」上巻
小矢部市教育委員会ほか 1980 「小矢部市埋蔵文化財分布調査概報 1979年度」
小矢部市教育委員会ほか 1982 「小矢部市埋蔵文化財分布調査概報 II 1980年度」

小矢部市教育委員会
1983 「桜町道路（南郷地区）」
小矢部市教育委員会
1981 「桜町道路～箕面市下木鉢新設に伴う箕面地区の調査～」
小矢部市教育委員会
1985 「桜町道路～箕面地区発掘調査報告書～」
小矢部市教育委員会
1989 「桜町道路～箕面改良工事に伴う桜町施設地区的調査～」
小矢部市教育委員会
1990 「平成3年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査報告書」
小矢部市教育委員会
2003 「桜町道路発掘調査報告書報告書」古事・古代・中世編」
小矢部市教育委員会
2005 「桜町道路発掘調査報告書報告書」近世編「
小矢部市教育委員会
2009 「桜町道路発掘調査報告書」天文・地質編「
小矢部市教育委員会
2015 「富山市小矢部市平成26年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査報告書」



加賀直哉 2015 「平安時代の神社と神職」吉川弘文館

鷹見隆之 1973 「日本古代田畠史の研究」吉川弘文館

鷹見隆之 1994 「古代農業用水と関する要論」『歴史日本紀の時代～創立四十周年記念～』 総合日本紀研究会編 案書房

鷹見隆之 1999 「古代農業用水と関する要論」『歴史日本紀の時代～創立四十周年記念～』 総合日本紀研究会編 案書房

川原秀夫 2001 「桜町道路に伴う平安時代の神社」『古今史跡研究 第16号』群馬県立文書館

川原秀夫 2012 「古代・平安の国交道路に関する考察」『日本古代の地域社会と周縁』吉川弘文館

野村康明 1971 「律令制と神祇イオロギーの神の統合との比較から」『歴史学研究 第378号』歴史学研究会

野村康明 1991 「律令制と神祇イオロギーの神の統合との比較から」『歴史学研究 第378号』歴史学研究会

木本良 1999 「古代の国交道路に関する考察」『要説 古今書院』

木本良 2000 「『古典 日本書紀の道』と『古事記』」吉川弘文館

木本良 2012 「日本古来の国交道路」吉川弘文館

木本徳巣 1979 「古代の墓のイメージ」NHKブックス

木本徳巣 1988 「上代にも下代社会の『研究』」吉川弘文館

木本徳巣 1990 「『古典 日本書紀の道』と『古事記』」吉川弘文館

木本徳巣 1993 「『長毛』の平安におけるその世界」『坂王山文化調査報告書 医王は語る』福光町

木本徳巣 1994 「『日本古来の国交道路に関する考察』」『古今史跡研究 第16号』群馬県立文書館

木本徳巣 2001 「『古典 日本書紀の道』と『古事記』」吉川弘文館

木本徳巣 2011 「『古代・中世遺跡と歴史地図』」総合日本紀研究会編 案書房

鷹見隆之 1996 「日本古代刀剣の研究」『刀剣研究 第4号』財團法人日本刀研究所

黒川和也 1994 「『神の御子の道』と『始祖の道』」『古事記』吉川弘文館

黒川和也 2000 「『古典 日本書紀の道』と『古事記』」吉川弘文館

石谷義久 2005 「『古典 日本書紀の道』と『古事記』」吉川弘文館

会田豊信 2010 「古来の田畠と水路調査による歴史古学研究の進展」『考古』2010年2月号

『水と通路 小舟舟運送 青森通路 桧原通路 基本と手引』『水と通路』北沢新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘報告書』

岡田信也 2008 「『待集 青森通路シングル号』」『歴史 第194号』

小林昌二は 2009 「『近代の国交道路用交通と通路地図の地図的分析』」

鶴見秀治 1996 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『越と古代の北陸 大王様と交流』著者出版

鶴見秀治 1997 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術18 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 1998 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術19 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 1999 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術20 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2000 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術21 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2001 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術22 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2002 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術23 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2003 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術24 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2004 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術25 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2005 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術26 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2006 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術27 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2007 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術28 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2008 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術29 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2009 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術30 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2010 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術31 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2011 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術32 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2012 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術33 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2013 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術34 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2014 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術35 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2015 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術36 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2016 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術37 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2017 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術38 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2018 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術39 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2019 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術40 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2020 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術41 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2021 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術42 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2022 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術43 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2023 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術44 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2024 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術45 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2025 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術46 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2026 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術47 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2027 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術48 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2028 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術49 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2029 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術50 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2030 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術51 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2031 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術52 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2032 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術53 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2033 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術54 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2034 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術55 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2035 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術56 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2036 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術57 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2037 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術58 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2038 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術59 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2039 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術60 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2040 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術61 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2041 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術62 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2042 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術63 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2043 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術64 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2044 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術65 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2045 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術66 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2046 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術67 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2047 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術68 伊勢と日光』小学館

鶴見秀治 2048 「『水辺の古代園路』と『通路 幸平野の水辺』『舟と通路』」『名古日本の美術69 伊勢と日光』小学館

【参考】昭和2年度調査出土の墨書き土器



写真図版



掘立柱建物 SB01 掘出地点

(東上空から、『小矢部市埋蔵文化財調査報告書第64冊 桜町遺跡発掘調査報告書』より加筆転載)



調査区全景（東上空から、右後方に子撫川を望む）



調査区全景（南西上空から、後方に子撫川と城ヶ峰を望む）



調査区全景（垂直、左が北）



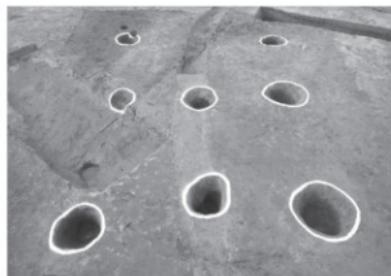
南区西半全景（垂直、上が北東）



掘立柱建物 SB01, 構 SA01・02 検出状況（北から）



掘立柱建物 SB01, 構 SA01・02 全景（北西から）



掘立柱建物 SB01 全景 (南東から)



柵 SA01 全景 (南西から)



柵 SA02 全景 (南東から)



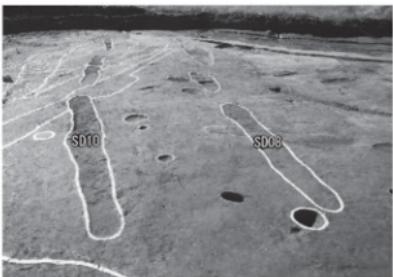
柵 SA01(SP03)柱根出土状況 (西から)



溝 SD01~06 全景 (南東から)



溝 SD03 杭列検出状況（東から）



溝 SD08・10 全景（北から）



溝 SD11 全景（北東から）



溝 SD16 全景（北西から）



北区全景（北西から）



溝 SD25・29 掘出状況（北から）



溝 SD28・30 全景（北から）



溝 SD25 土層断面（北から）



溝 SD29 遺物出土状況（北から）



溝 SD25・29 全景（南西から）



土坑 SK01 全景（北西から）



土坑 SK02 全景（北から）



土坑 SK09 全景（東から）



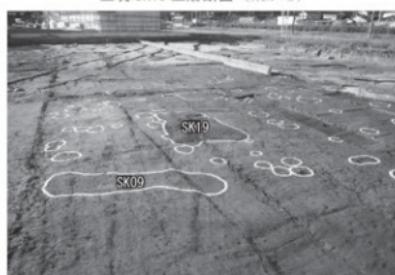
土坑 SK19 全景（東から）



土坑 SK19 土層断面（東から）



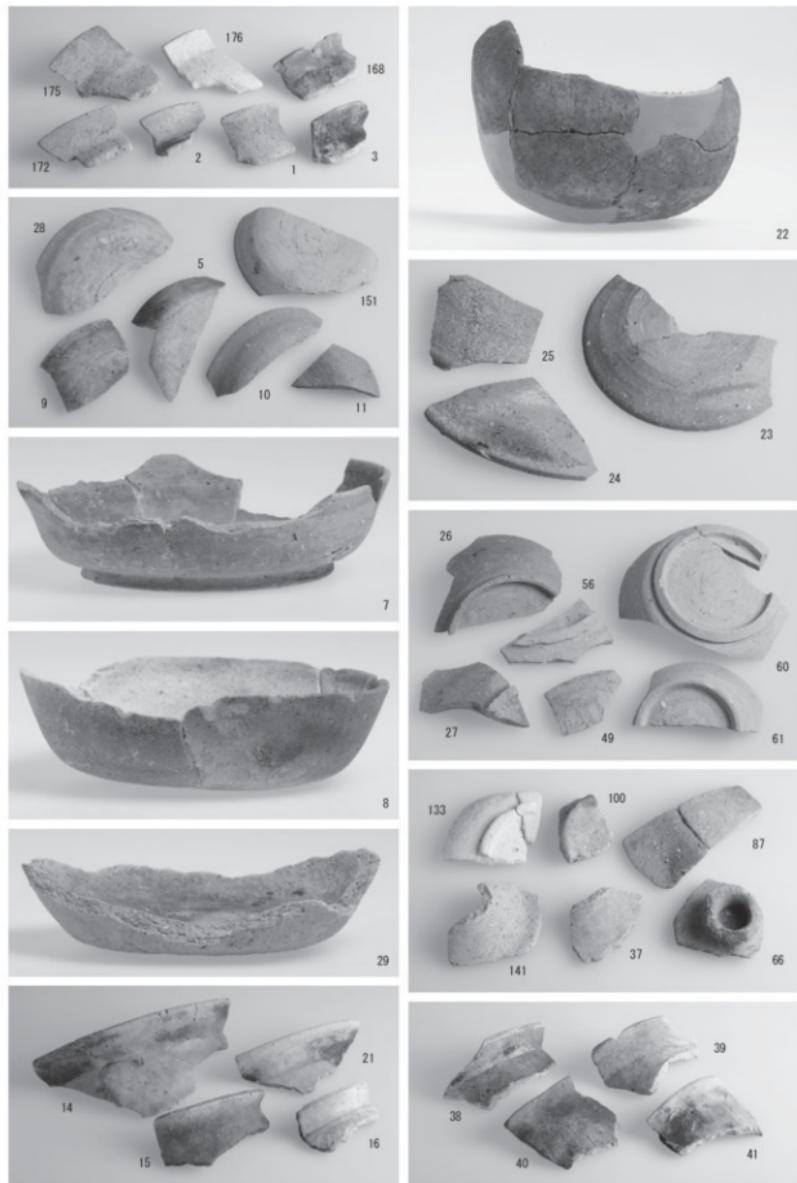
土坑 SK19 遺物出土状況（東から）



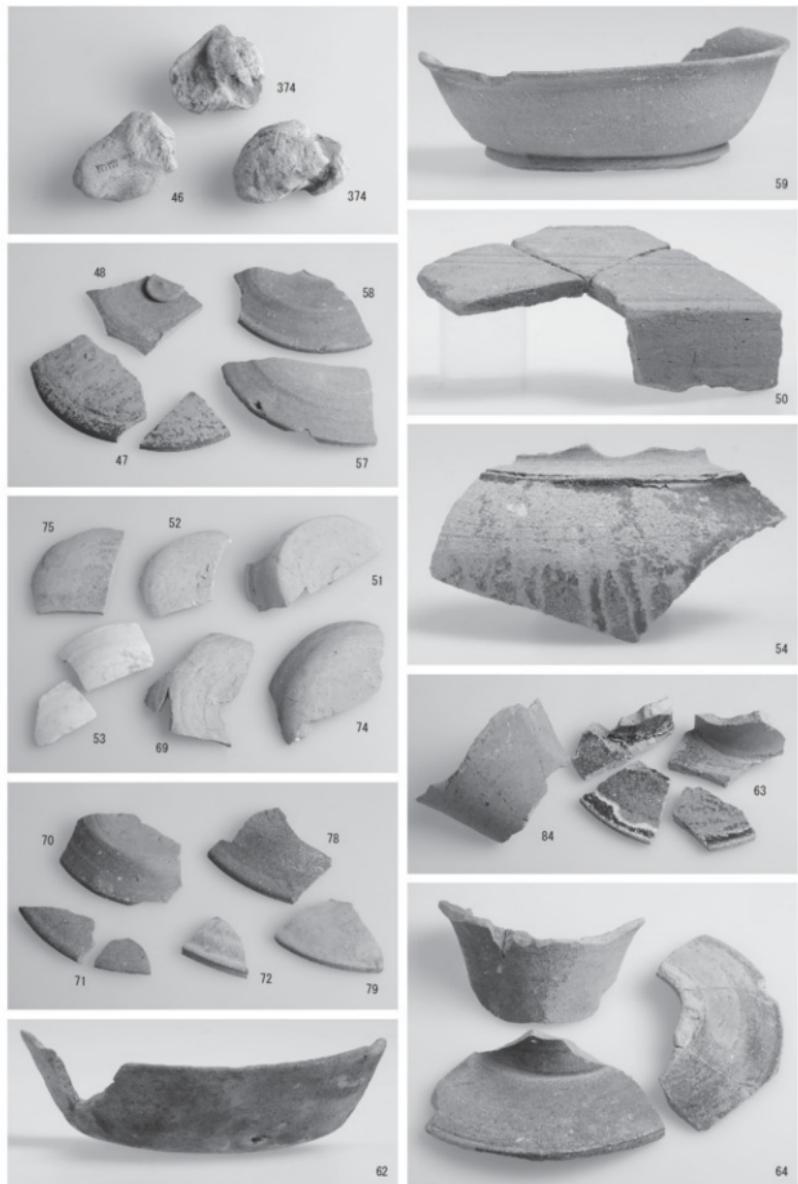
中央調査区東側遺構検出状況（東から）



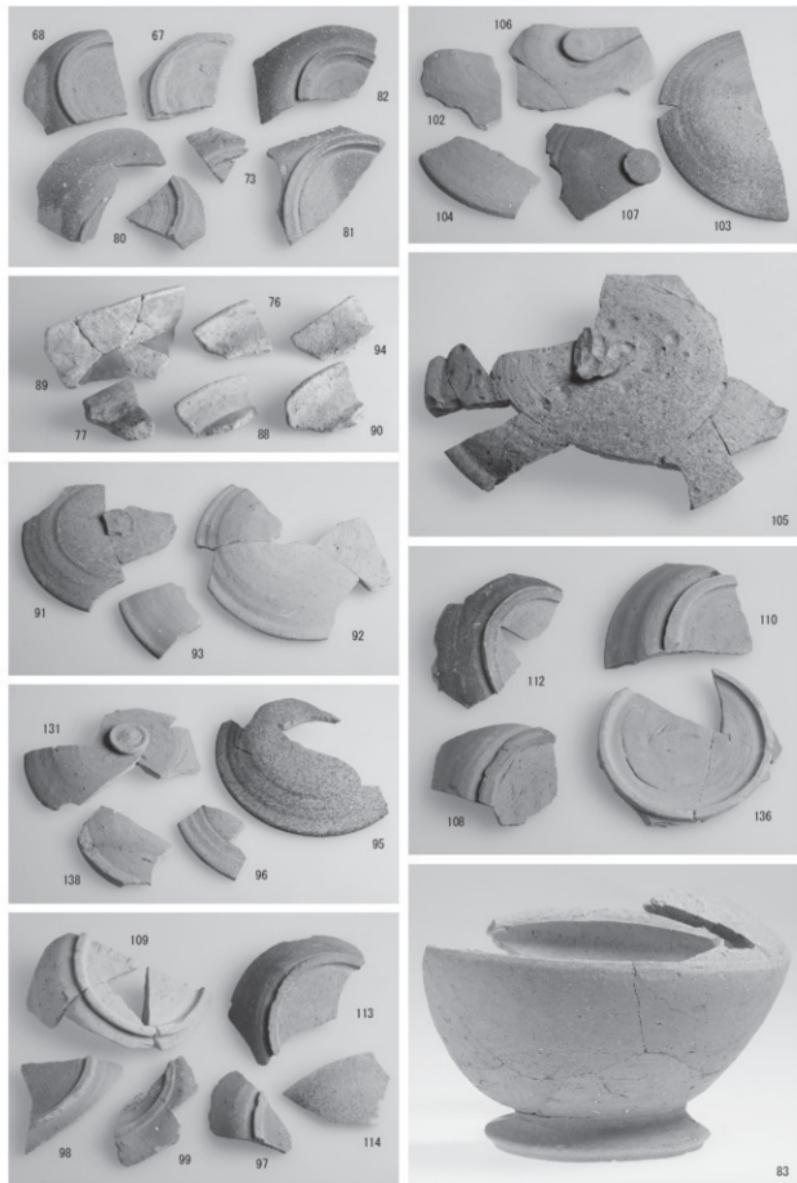
中央調査区全景（南西から）



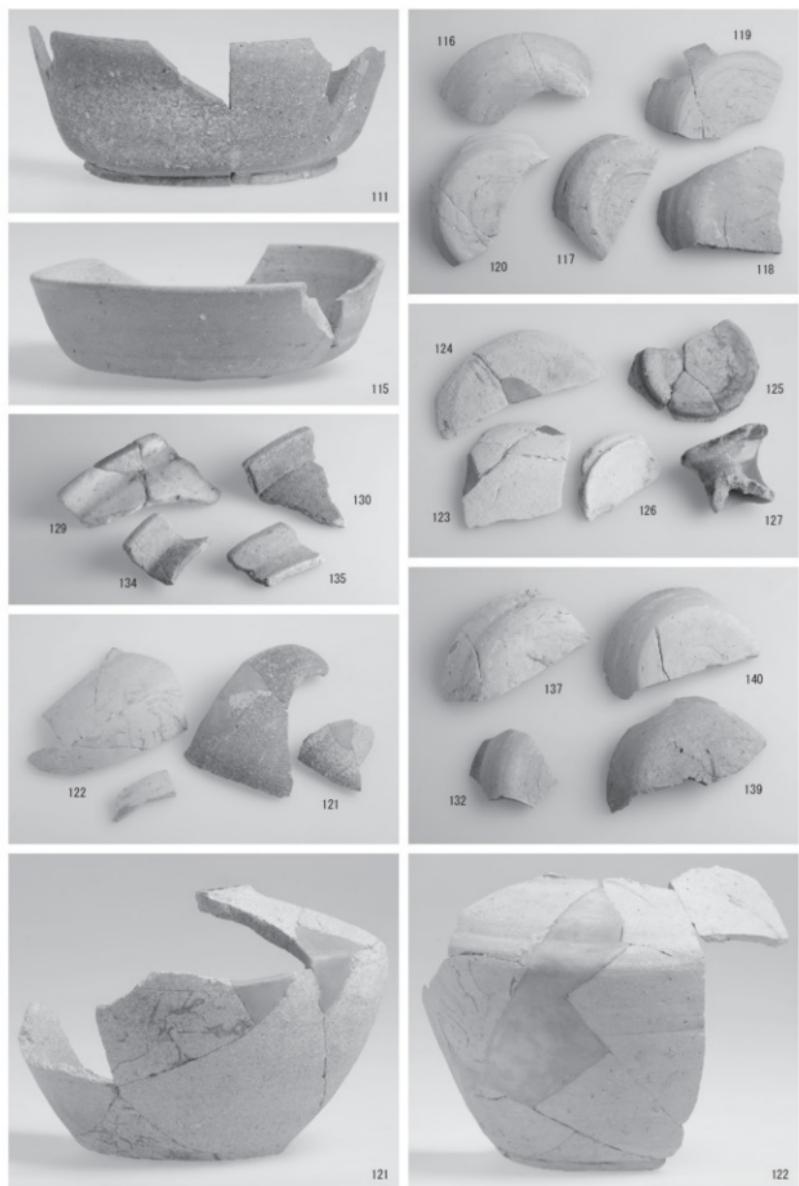
出土遺物 土師器・須恵器 (SP08・25・30・143・211・221、SD01・02・03・10・15・16・26・28・31、SK01・14)



出土遺物 土師器・須恵器 (SD07・08・10・11・16・22・25・26、包含層F3)



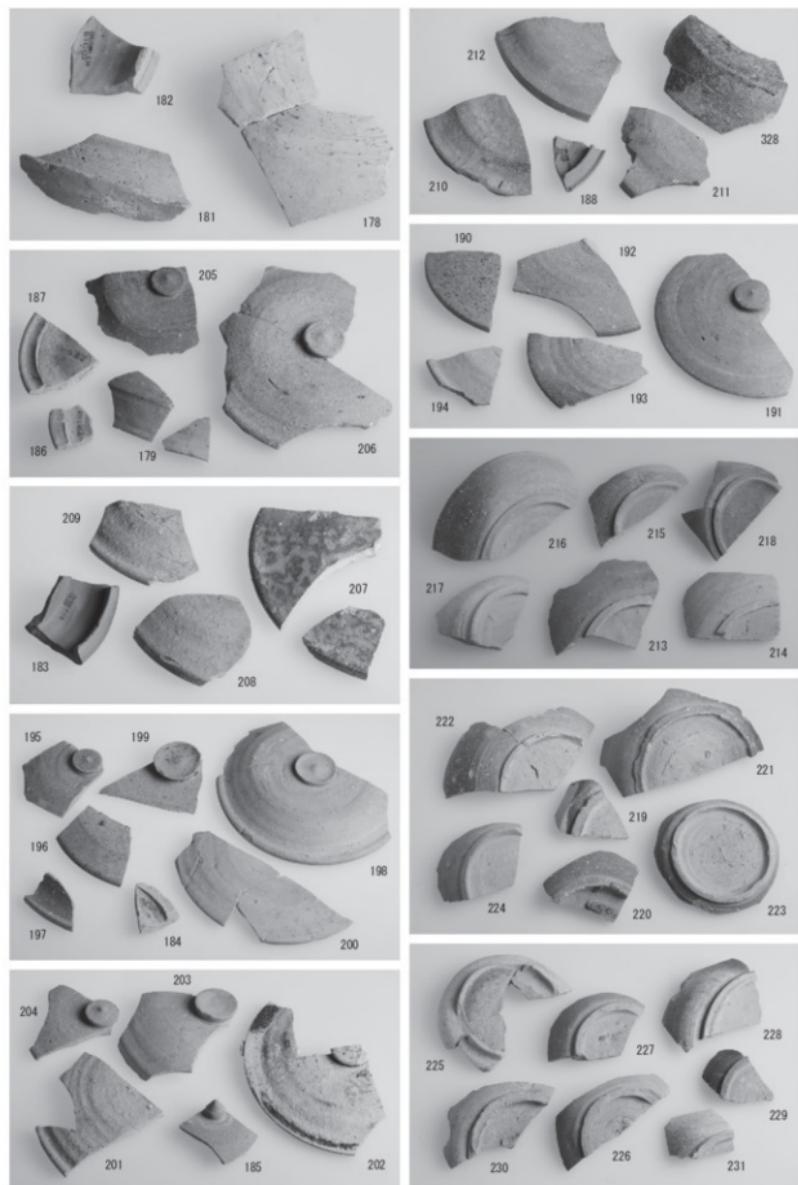
出土遺物 土師器・須恵器 (SD17・18・25・26・27・28・29・31・32・33)



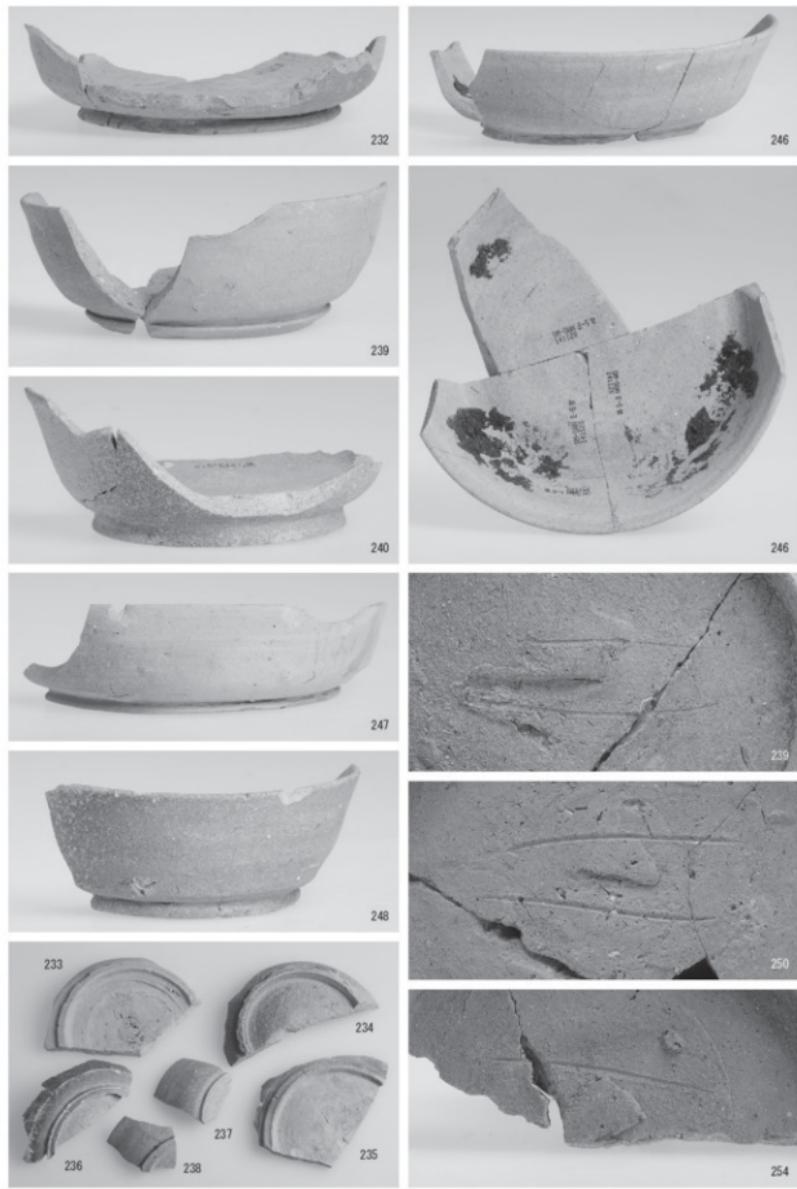
出土遺物 土師器・須恵器 (SD29・31・32・33、SX01)



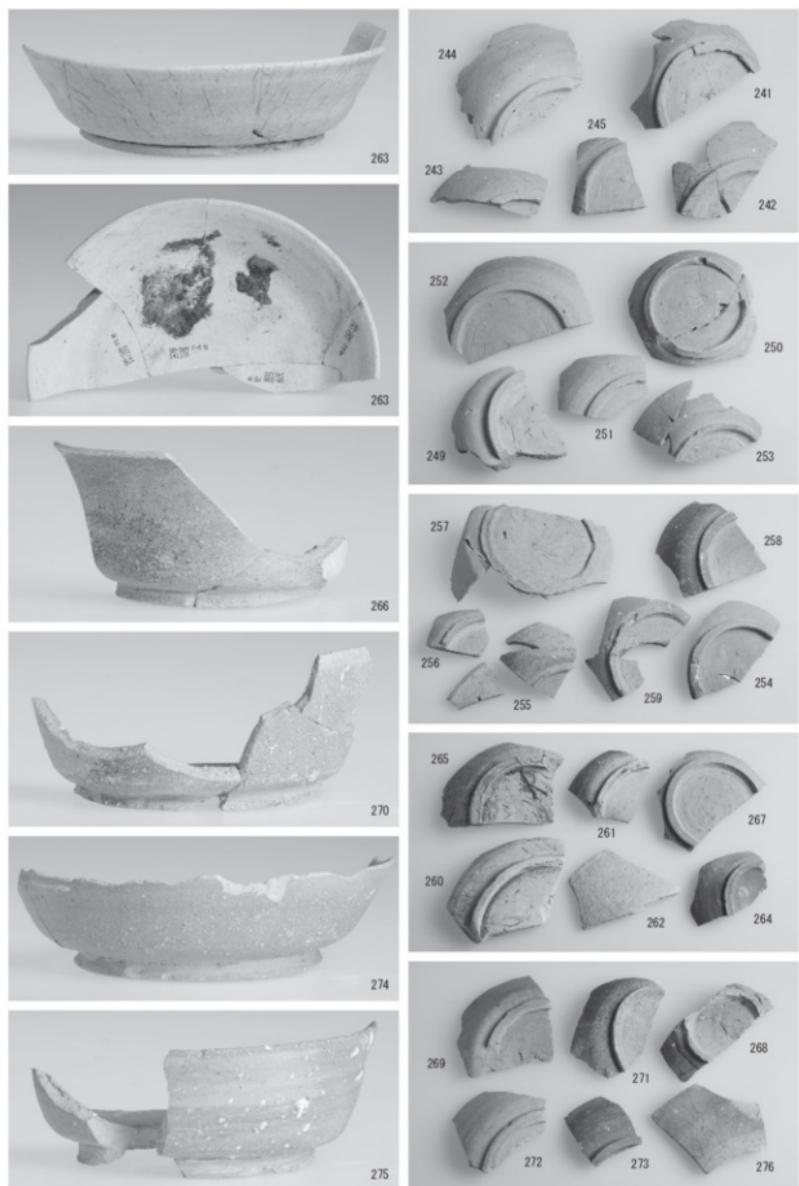
出土遺物 土師器・須恵器 (SK01・02・03・09・14・16・19・25, SP38, 包含層B1・C4・C5・D5・D8・D10・E7、調査区一括)



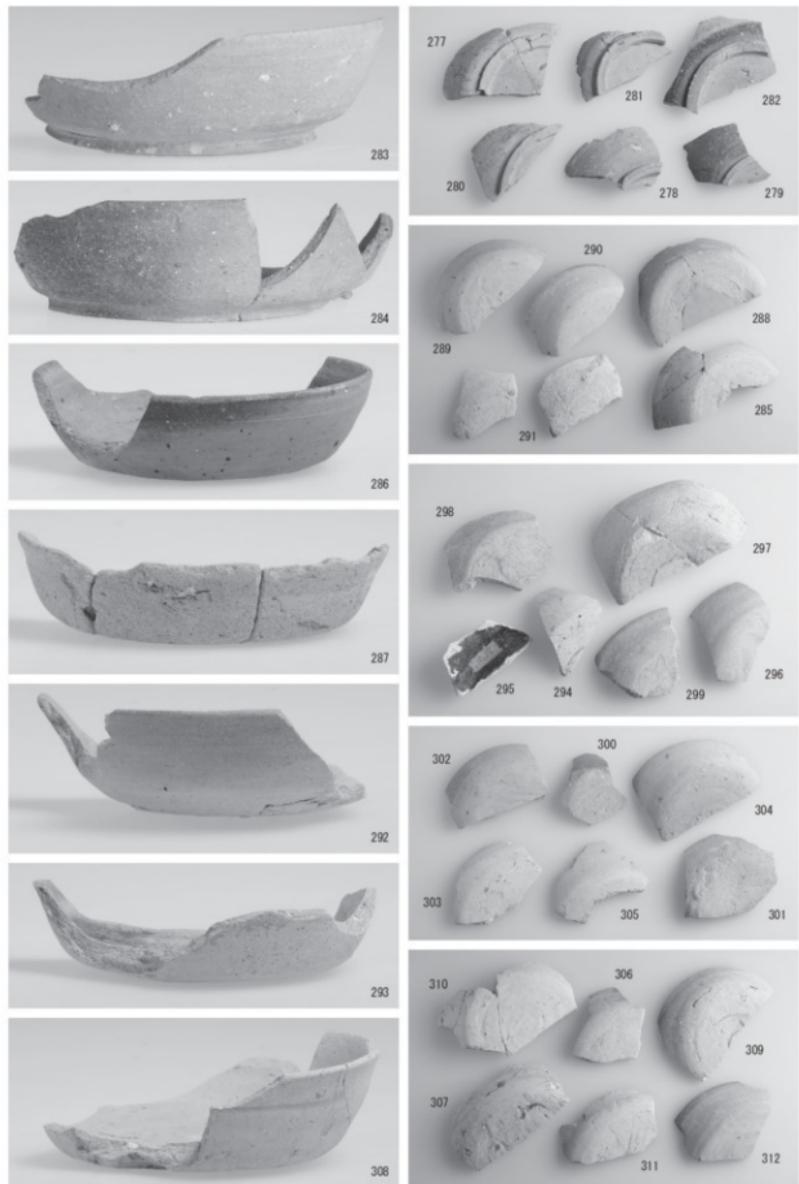
出土遺物 須恵器（包含層B8・B9・C1・C3・C5～C7・C9・D5～D10・E3～E6・E8～E10・F3・F5～F9・G5・H5）



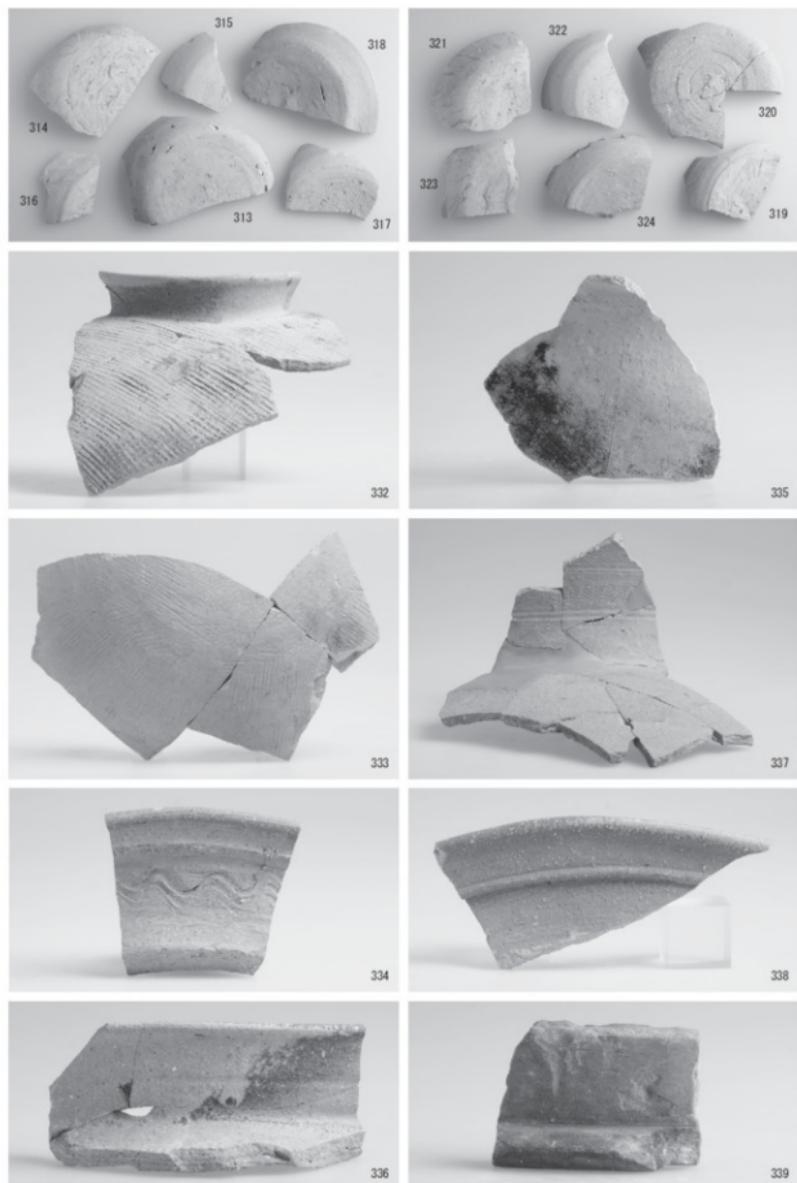
出土遺物 須惠器 (包含層D9・D10・E5・E6・E7・E8)



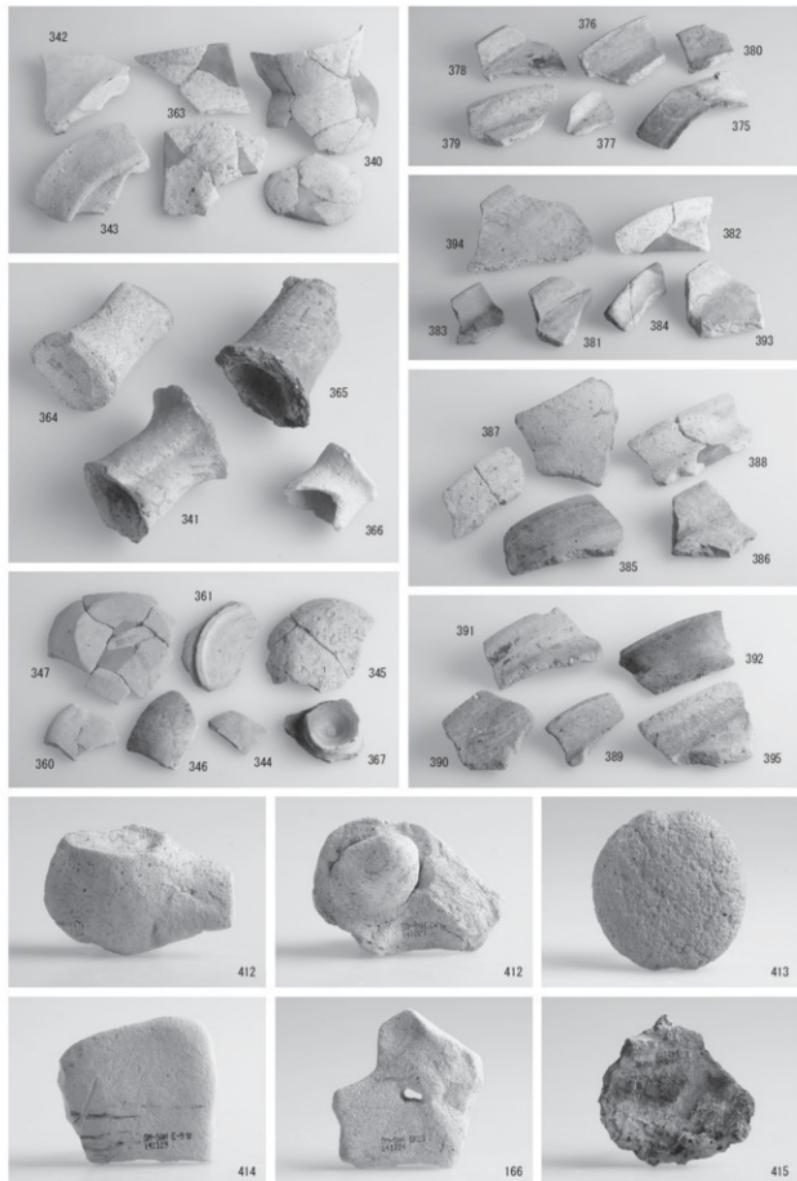
出土遺物 須惠器（包含層D10・E3・E4・E6～E9・F5～F10・G3・G5）



出土遺物 須惠器（包含層B4・B7・C1・C3・D5・D7～D10・E3・E4・E6～E8・G5・G6・H5・H6、調査区一括）



出土遺物 須惠器（包含層B5・C3・D5・D7・D9・E9・E10・F5～F9・G5・G7・H6）



出土遺物 土師器・土製品・石製品・鉄滓
(SK23, 包含層B3・B4・B7～B9・C4・C5・C7・C8・D1・D7・D9・D10・E7～E9・F3・F7・F8・G5・G9・G10・H6・L4)



出土遺物



出土遺物 木製品 (SP03)

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第77冊

富山県小矢部市

桜町遺跡発掘調査報告書

— 店舗建設に伴う埋蔵文化財調査 —

発行日 平成27(2015)年7月31日

編 集 有限会社毛野考古学研究所富山支所

発 行 小矢部市教育委員会

印 刷 中村印刷工業株式会社

